

TEPRA

PRO DL

PCラベルソフト SDL6A

取扱説明書

本書の手順にそって、アプリケーションと
プリンタドライバのインストールをおこなってください。

「テプラ」PRO本体は、パソコンの画面に指示が
出るまでパソコンに接続しないでください。

パソコンを利用して点字を含むラベルや、
「流し込み印刷」などのラベル編集がカンタンに
実施できる「テプラ」PRO専用アプリケーションです。

「テプラ」PRO本体に保存したファイル・あて名・
名前・外字のデータを、パソコンのハードディスク
などにバックアップすることができる
「テプラ」PRO専用アプリケーションです。

セットアップ編

専用エディタ
「PCラベルシステム
SDL6」編

転送ソフト
「DATAメモリー
システムSDL6」編



KING JIM

はじめに

このたびは、「テプラ」PROをお買い上げいただき、ありがとうございます。

PCラベルソフトには、パソコンでラベルを作成する「PCラベルシステム SDL6」および「テプラ」PRO本体のデータをパソコンにバックアップする「DATAメモリーシステム SDD6」が含まれています。「PCラベルシステム SDL6」および「DATAメモリーシステム SDD6」をお使いいただく際は、本書をよくお読みになり、正しくお使いください。また、本製品をご使用になる前に必ず、本書に記載された「ソフトウェア使用許諾契約書」(P.1~P.2)をお読みになり、契約書内容をご確認、ご承諾のうえご使用ください。

「PCラベルシステム SDL6」および「DATAメモリーシステム SDD6」を本書とともに末永くご愛用いただきますよう、心からお願い申し上げます。

- 本製品の使用を原因とする損害・逸失利益などにつきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書は、「PCラベルシステムSDL6」および「DATAメモリーシステムSDD6」について書かれています。対応する「テプラ」PRO本体の機能や操作およびテープカートリッジの使い方については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 本書は、基本ソフト日本語Windows 98/98SE/Me/2000 Professional/XP Professional/XP Home Editionのいずれかがコンピュータにセットアップされていること、またそれらのコンピュータを使用するうえでの基本的な用語や操作について、既に理解されていることを前提に書かれています。用語や基本操作などについての不明な点は、日本語Windows 98/98SE/Me/2000 Professional/XP Professional/XP Home Editionのマニュアルや、ご使用いただいているコンピュータのマニュアルなどをご覧ください。
- 本書の内容の一部またはすべてを無断で転載することはおやめください。
- 本書の内容は予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書はPCラベルシステム完成前に印刷されるため、一部仕様と異なる箇所が存在する可能性があります。あらかじめご了承ください。
- 仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書の作成には万全を期しておりますが、万一、ご不明な点、誤り、記載漏れなどお気づきの点がございましたら、当社までご連絡ください。

!! 注意 !!

- 「テプラ」で得られるラベルについて
塩化ビニールのように可塑剤入り材料など被着体の材質、環境条件、貼り付け時の状況などによっては、ラベルの色が変わる、はがれる、文字が消える、被着体からはがれない、ノリが残る、ラベルの色が下地にうつる、下地がいたむなどの不具合が生じることがあります。使用目的や接着面の材質を充分確認し、ご使用ください。
なお、これによって、生じた損害および逸失利益などにつきましては、当社ではいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書に記載されていない操作はおこなわないでください。事故や故障の原因になることがあります。

「キングジム」、KING JIM、「テプラ」、「テプラ」PRO、「テプラ」PRO・DL、Pテープマーク、DLテープマークはいずれも株式会社キングジムの登録商標です。

Microsoft®、Windows®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Acrobat®Reader Copyright© 1987-2001 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Adobe、Acrobat、Acrobat Readerは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

QRコードは、株式会社デンソーウエーブの登録商標です。

その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

本製品に同梱のCD-ROMを使用する前に、下記の「ソフトウェア使用許諾契約書」を必ずお読みください。

当社では、お客様に対して、ソフトウェア使用許諾契約を設けさせていただいております。当社といたしましては、お客様がこの契約の内容にご同意いただいた場合のみ、ソフトウェアの使用を許諾しております。

お客様が本製品に同梱のCD-ROMを使用し、ソフトウェアをインストール、複製、その他の方法で使用されたとき、この契約の内容にすべてご同意いただけたものとみなさせていただきます。

この契約にご同意されない場合、当社はお客様にこのソフトウェアのインストール、使用または複製のいずれも許諾できません。

○ソフトウェア使用許諾契約書

株式会社キングジム(以下「当社」といいます)は、この使用許諾契約書とともにお客様(以下「使用者」といいます)にご提供する契約ソフトウェアの使用に関して、以下の条項にもとづき許諾いたします。

1.用語の定義

① 契約ソフトウェア

契約ソフトウェアとは、このパッケージに含まれるマスターディスクを記憶媒体とする機械読取可能な形式でのプログラムおよびその使用方法などが記載された取扱説明書をいいます。

② 使用

使用とは、使用者が契約ソフトウェアを記憶媒体から読出することをいいます。

③ 指定機械

指定機械とは、使用者が契約ソフトウェアを使用するために設置した1台もしくは複数台のコンピュータ・システムをいいます。

④ 複製

複製とは、同一形式もしくは別形式の記憶媒体に契約ソフトウェアを複写再生することをいいます。

⑤ 改造

改造とは、契約ソフトウェアに修正、追加などをおこない、また契約ソフトウェアの全部もしくは一部を利用して別のソフトウェアを作成することをいいます。

2.使用権の許諾

(1) 当社は、使用者がこの契約の条項に従って契約ソフトウェアを使用することを許諾します。

(2) 使用者は、契約ソフトウェアを1台の指定機械、または使用者の管理するネットワークに接続された複数の指定機械にインストールして使用することができます。使用者が、使用者の管理するネットワークに接続された複数の指定機械に契約ソフトウェアをインストールした場合、このネットワークに接続された複数の指定機械を使用する者(二次使用者)も使用者に含まれるものとします。

(3) 契約ソフトウェアの所有権は、当社に留保されるものとします。

3.契約ソフトウェアの複製

使用者は、指定機械上での使用を目的とする契約ソフトウェアの指定機械への複製、およびバックアップのための複製を除き、契約ソフトウェアの複製をおこなうことはできません。

4. 契約ソフトウェアの改造

使用者はいかなる理由においても契約ソフトウェアを改造、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすることはできません。

5. 知的財産権

契約ソフトウェアおよびそれを複製したものの著作権その他の知的財産権は、理由の如何に係わらず当社もしくは契約ソフトウェアに記述された個人または法人に帰属いたします。使用者は、契約ソフトウェアおよびそれを複製したものからCopyright等の注釈を取除くことはできません。

6. 使用者の再許諾、譲渡の禁止

使用者は、当社の許可なく第三者に契約ソフトウェアおよびそれを複製したものの占有を移転し、または使用権を譲渡もしくは再許諾することはできません。

7. 素材の著作権・使用権

素材(イメージファイル、記号など)の著作権・使用権は、契約ソフトウェアに準ずるものとします。

8. 保証

契約ソフトウェアに関しては、以下の保証のみが適用されます。なお、この保証は日本国内のみにて有効なものとします。また、当社は契約ソフトウェアに瑕疵がないことを保証するものではありません。

- (1) 契約ソフトウェアのCD-ROMその他の印刷物に物理的瑕疵があった場合、契約ソフトウェアをご購入になった日から90日以内に限り無償で交換もしくは修復させていただきます。
- (2) 上記の契約ソフトウェアの瑕疵が事故または故意もしくは過失、誤用その他当社の責に帰さない理由により生じた場合は、その保証の責任を負いません。
- (3) 使用者が期待される効果を得るために契約ソフトウェアの選択、導入、使用および使用効果については、使用者の責任となります。
- (4) 当社は、契約ソフトウェアについては瑕疵担保責任を負わないものとします。
- (5) 当社は、使用者が契約ソフトウェアを使用することによって発生した直接的、間接的もしくは波及効果による損害、データ・プログラムその他の無体財産に関する損害、使用利益および得べかりし利益の喪失等に対して一切責任を負わないものとします。

9. その他

- (1) 当社は、いつでも契約ソフトウェアを更新でき、更新版の提供条件は当社が定めます。
- (2) 当社は、使用者へ事前の通知をおこなうことなくこの契約の内容およびその他の告知内容が適用されるものとし、当該変更がなされた場合、従前の契約内容および告知内容は無効となり、最新の契約内容および告知内容が適用されるものとします。
- (3) この契約は、日本国法に準拠するものとします。この契約に起因する紛争の解決については、東京地方裁判所が第一審としての専属的管轄権を有するものとします。

10. 契約期間

この契約は、使用者が契約ソフトウェアをインストール、複製、その他の方法で使用されたときに発効し、使用者が契約ソフトウェアおよび複製物すべての使用を止めるときまで有効とします。ただし、使用者がこの契約のいづれかの条項に違背した場合、当社は使用者に許諾した契約ソフトウェアの使用権を剥奪し、この契約を終了させることができます。

11. 契約終了後の義務

使用者は、この契約が終了したときは、使用者の責任において第三者が使用できない状態に契約ソフトウェアを破棄(使用者の指定機械上のメモリからの消却を含みます)するものとし、契約ソフトウェアを複製したもの、および契約ソフトウェアに関する一切の資料を破棄するものとします。

2 はじめに

●安全上のご注意…必ずお守りください！

お使いになる方々や他の人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただきたい事項を次のように表示しています。

ご使用のときは、必ず取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、取扱説明書は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐ取り出して見られる場所に保管してください。

- 表示された指示内容を守らずに、誤った使用によって起こる危害および損害の度合を、次のように説明しています。



この表示を守らずに、誤った使いかたをすると、「損害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容を示しています。

- 次の絵表示で、お守りいただきたい内容を区別して説明しています。



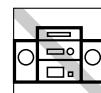
△ 表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。



○ 表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このディスクはパーソナルコンピュータ用の「CD-ROM」です。一般オーディオ用CDプレーヤーでは絶対に再生しないでください。大音量により障害を被ったり、スピーカーを破損する恐れがあります。



長時間の使用による目などの疲労に注意しましょう。



点字の内容は、ラベルを貼る前に必ず確認してください。自動点訳は点訳規則に従っておこなっていますが、100%の正確さを保証するものではありません。なお、これによって生じた損害および逸失利益などにつきましては、当社ではいっさいその責任を負えませんのであらかじめご了承ください。



●本書の使いかた

本書は次の表記で記述します。

メニュー、コマンド、ダイアログボックスについて

【表記】	【説明】
[ファイル]	メニュー名は「」で囲みます。
[ファイル] - [開く]	コマンド名はメニュー名の後に「」で囲みます。 続けておこなう操作は「」-「」と表示します。
[キャンセル]	ボタン名は「」で囲みます。
[定型]	タブ名は「」で囲みます。
「用紙の置き方」	項目名は「」で囲みます。

マウスの操作について

【表記】	【説明】
○ポイント	マウスカーソルを目的の位置に合わせる操作です。
○クリック	マウスの左ボタンを1回押す操作です。
○ダブルクリック	マウスの左ボタンを続けて2回クリックする操作です。
○ドラッグ	マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、目的の位置でボタンを離す操作です。
○右クリック	マウスの右ボタンを1回押す操作です。

その他

【表記】	【説明】
① ②	操作手順を示しています。
<Shift>	パソコンのキーボードのキーを示しています。
選択	テプラPRO本体の機能ボタンを示しています。
参照	関連する事項の参照ページを案内します。必要に応じて参照先をお読みください。
MEMO	知っておくと便利な補足情報を説明しています。
!!注意!!	その機能の制限や条件など注意していただきたいことを説明しています。

- 本文中で使用している画面は、日本語Windows XPの画面を例に説明しています。また、お使いのパソコンの設定によっては画面のサイズや一部のデザインが異なる場合があります。機能などが大きく違う部分に関しては、OSごとに説明をしています。
- 本書はパソコン接続対応「テプラ」PRO本体に同梱のCD-ROM「PCラベルソフト」の取扱説明書です。

●「PCラベルシステム SDL6」の特長

■「テプラ」のラベル編集がパソコンでできる！

パソコンならではの編集機能でラベル編集がおこなえます。

パソコンに搭載されている豊富な書体が使えるので、表現豊かなラベルが簡単に作れます。

■点字ラベルを作成可能！

パソコンの入力画面から点字を入力・編集することができます。

■「点字」「オフィス」用など便利な「デザインフォーム」は240種以上搭載！

最初から編集するのは面倒！という方にはデザインフォームが便利です。240種類以上のデザインフォームを搭載し、ラベルのイメージを確認しながら目的のラベルを見つけることができます。

簡単な操作でスグに呼び出せ、文字を変更するだけのお手軽さです。

■あて名印刷や商品管理ラベルの作成に便利な「流し込み印刷」！

「.xls」形式や「.csv」形式のデータを取り込んでラベルに印刷できます。テキスト以外にも、画像・バーコード・カスタマバーコードも取り込み可能！画像・バーコード入りの商品管理ラベルやカスタマバーコード入りの宛名ラベルなどが簡単に作れます。

■「テプラ」PRO本体でおなじみの「記号」や「外枠」もしっかり搭載！

「テプラ」PRO本体と同じ記号や外枠を搭載しているので、「テプラ」PRO本体で作成したラベルとイメージを揃えて編集できます。

しかも、外枠を自由に伸ばしたり、記号をちりばめたり、本体ではできなかったことが「SDL6」なら実現可能です。

■「イメージファイル」を使って、お気に入りのイラスト・画像も貼り込み可能！

イメージファイルには「イベント」「仕事」「干支」「定型句」など目的にあったイラストデータを搭載！また、お気に入りの画像やイラストを貼り付けて自由に編集が可能です。

■バーコードは10規格！「QRコード」を搭載！

JAN-8などに加え、QRコードを搭載しています。

■表組み機能搭載！

■管理ラベルに役立つ「日付・時刻」機能！

・・・その他にもたくさんの機能を搭載しています。

●「DATAメモリーシステム SDD6」の特長

■「テプラ」PRO本体のデータをパソコンで保存できる！

「テプラ」PRO本体に保存したファイルデータやあて名データ、名前データ、外字データをパソコンに転送し、1つのファイルとして保存することができます。

■外字がパソコンで編集できる！

「テプラ」PRO本体で作成した外字をパソコンで編集できたり、新たに外字をパソコンで作成して「テプラ」PRO本体に転送することができます。描画方法はマウスを使うだけなので、とても簡単に作成することができます。

■「テプラ」PRO本体のあて名、名前データはパソコンでも利用可能！

「テプラ」PRO本体で作成したあて名、名前データを「.xls」形式や「.csv」形式に変換することができます。また、「.xls」形式や「.csv」形式で作成したあて名や名前用のファイルを「テプラ」PRO本体で利用できるように変換することもできます。

・・・その他にもたくさんの機能を搭載しています。

○目次

はじめに

● ソフトウェア使用許諾契約書	1
● 安全上のご注意…必ずお守りください！	3
● 本書の使いかた	4
● 「PC ラベルシステム SDL6」の特長	5
● 「DATA メモリーシステム SDD6」の特長	5
● 目次	6

セットアップ編

● パソコンにインストールする	8
動作環境	8
アプリケーション、プリンタドライバを インストールする	9
アプリケーション、プリンタドライバを アンインストールする	15
● パソコンと「テプラ」PRO 本体を接続する	18

専用エディタ

「PC ラベルシステム SDL6」編

● 専用エディタの起動～終了	20
起動する	20
新規作成	21
テープ設定を変更する	24
ファイルを開く	25
デザインフォームで作成	26
専用エディタを終了する	28
● 専用エディタの基本操作	29
文字を入力する	29
印刷する	31
文書を保存する	34
● 点字の入力・編集	35
● 文字の編集	44
● 図形の描画・編集	49
● ブロックを編集する	53
● 流し込み機能	61
データを新規作成する	62
● 貼り合わせラベルを印刷する (貼り合わせ印刷)	77
● 地紋を挿入する	79
● 表組みを挿入する	82
● アートテキストを挿入する	84
● イメージファイルを挿入する	86

● 記号を挿入する	88
● 連番を設定する	89
● バーコードを挿入する	92
● カスタマーバーコードを挿入する	95
● 日付・時刻を挿入する	97
● 外枠を挿入する	98
● 市販のアプリケーションから印刷してみよう	
	99

データ転送ソフト

「DATA メモリーシステム SDD6」編

● 転送ソフトの起動～終了	106
● データを転送する	111
● データをコピーする・移動する	115
● あて名・名前データをパソコンと やりとりする	119
● 外字の編集	125
画面表示と描画方法	125
新規に外字データを登録する	126
外字データを修正する	128

付録

● 画面各部の名前とはたらき	132
● 故障かな？と思ったら	147
● 索引	149
● お問い合わせ表	155
● アフターサービスについて	156

セットアップ編

セットアップ編

本機をはじめてお使いの方はここからお読みください。
必要なソフトをパソコンにインストールします。

●パソコンにインストールする

動作環境

インストールする前に、お使いのパソコンが以下の条件に合っているかを確認してください。

インストールできるパソコンの条件

対応OS	日本語Windows® 98/98SE/Me/2000 Professional/XP Professional/ XP Home Editionが正しく動作するパソコン
対応PC	PC/AT互換機(DOS/V機)
CPU	推奨Pentium 166MHz以上 XP Professional/XP Home Editionの場合は推奨Pentium300MHz以上
メモリ	推奨64MB以上 XP Professional/XP Home Editionの場合は推奨128MB以上
ハードディスク占有容量	約130MB
ドライブ	CD-ROM ドライブ
ディスプレイ	解像度800×600(SVGA)/High Color以上
インターフェイス	USB接続

!!注意!!

- Windows をアップグレードしたパソコンでは正しく動作しないことがあります。
- Windows 2000 Professional / XP Professional / XP Home Editionでインストールする際には、必ず Administrator(コンピュータの管理者)で実行してください。

アプリケーション、プリンタドライバをインストールする

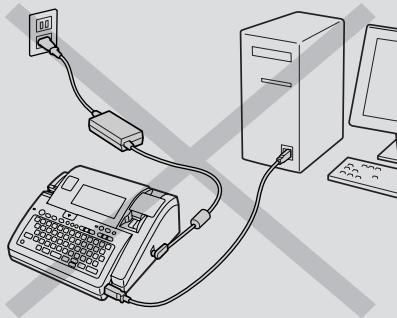
以下の3つのソフトをインストールします。

「PCラベルシステム SDL6」	パソコンでレイアウトしたラベルを「テプラ」PRO本体で印刷する専用エディタです。
「DATAメモリーシステム SDD6」	「テプラ」PRO本体のデータをパソコンに転送・保存(バックアップ)する転送ソフトです。
プリンタドライバ	パソコンから「テプラ」PRO本体で印刷するために必要なソフトです。

!! 注意 !!

画面で指示されるまで「テプラ」PRO本体をパソコンに接続しないでください。

手順⑯で、画面による指示があるまで「テプラ」PRO本体をパソコンに接続しないでください。



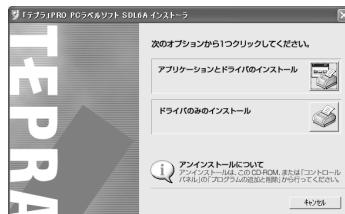
手順⑯の画面

- 本取扱説明書は、CD-ROMに含まれる専用エディタ「PCラベルシステム SDL6」、転送ソフト「DATA メモリーシステム SDD6」、プリンタドライバのインストールや使いかたについて説明する内容になっており、Windowsやパソコンの操作については詳しく説明しておりません。また、Windowsやパソコンについて、最低限の操作(マウス操作やファイルの扱いなど)を習得されていることを前提にしておりますので、必要な場合はWindowsやパソコンの説明書をお読みください。
- CD-ROMに含まれるプログラムをご使用になったうえでの故障や不具合、データ損失などにつきましては責任を負いかねますのでご了承ください。
- 1台のパソコンに同じ機種の「テプラ」PRO本体を複数接続する場合、接続する台数分のプリンタドライバが必要になります。2台目以降のプリンタドライバは、別の「テプラ」PRO本体を接続すると自動的にプリンタドライバのコピーが作成されます。このとき新たにインストールされたプリンタドライバの名前には「コピー」が付きます。
- Windows98/98SEをお使いの場合は、1台のパソコンに同じ機種の「テプラ」PRO本体を複数接続して使用することはできません。一旦、プリンタドライバを削除してから、新しいプリンタドライバをインストールし直してください。

参照☞P.15 「アプリケーション、プリンタドライバをアンインストールする」

① パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する
起動しているソフトウェアがあれば終了してください。
ウィルス対策ユーティリティなどのプログラムも終了してください。

② 同梱のCD-ROMをパソコンのCD-ROM ドライブに入れる
インストールプログラムが起動します。



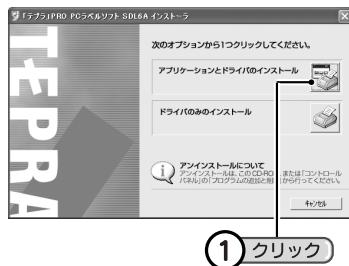
MEMO

- インストールプログラムが起動しない場合は、次の操作をしてください。
 - [マイコンピュータ] を開く
 - [CD-ROM] アイコンをダブルクリックする
- 右の画面が表示されるときは、既にアプリケーションまたはプリンタドライバがインストールされています。インストール項目を追加する場合は、「機能の追加／変更」で変更できます。
古いバージョンのアプリケーションがインストールされているときは、削除してから本ソフトをインストールしてください。
- 右の画面は、システムのインストーラーが更新された状態を示しています。この画面が表示されたら [再起動] をクリックしてください。再起動後、再度、手順②から操作してください。



③ 「アプリケーションとドライバのインストール」をクリックする

プリンタドライバのみをインストールすることもできますが、ここでは、アプリケーション、プリンタドライバの両方をインストールします。



MEMO

「ドライバのみのインストール」をクリックした場合は、手順⑩に進みます。

④ 内容を確認して「次へ」をクリックする



⑤ ユーザー名と会社名を入力し、「次へ」をクリックする



⑥ インストールする項目を確認し、「次へ」をクリックする

SDL6とSDD6のチェックボックスにチェックが入っていることを確認し、「次へ」をクリックします。



次へ進みます

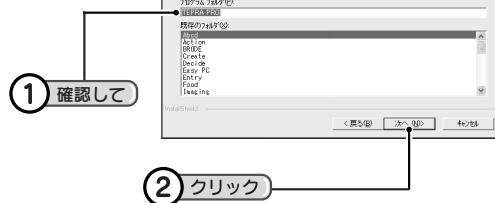
7 インストール先を確認し、[次へ] をクリックする

インストール先を変更する場合は [参照] をクリックすると変更できます。



8 インストールするプログラムフォルダ名を確認し、[次へ] をクリックする

インストールが開始します。



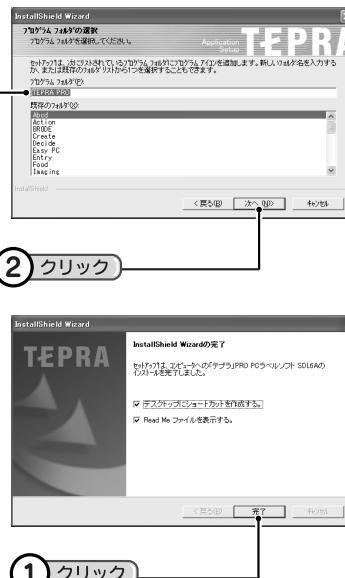
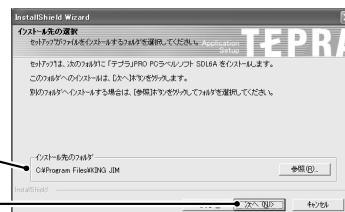
9 それぞれ必要な項目をチェックし [完了] をクリックする

アプリケーションのインストールが終了するとショートカットとRead meファイルの表示を確認する画面が表示されます。

Read meファイルは、本書に記載されていない最新情報が記載されていますので必ず確認してください。

読み終わったら右上の[X] (閉じる) をクリックして終了できます。

続いてプリンタドライバのインストールに進みます。



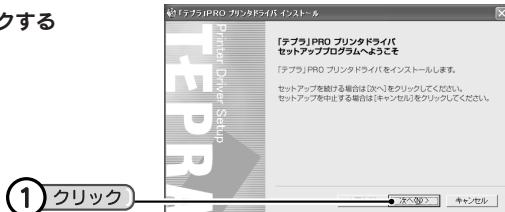
10 [はい] をクリックする



MEMO

ここで [いいえ] をクリックするとプリンタドライバのインストールは中止されます。

11 内容を確認して [次へ] をクリックする



12 機種名を確認して [次へ] をクリックする

インストールが開始します。



13 画面に表示される指示に従って「テプラ」 PRO本体をパソコンに接続し、PCリンク 状態にする

「テプラ」PRO本体をパソコンに接続し、本体の
[シフト]+でPCリンク状態にすると、「新しい
ハードウェア」画面が表示されます。以降、画面
の指示に従って操作します。しばらくするとイン
ストールが完了し、手順⑬の画面が表示されます。



次へ進みます

⑭ [完了] をクリックする
インストールが終了します。



!!注意!!

[コントロールパネル] から開く [プリンタとFAX] (Windows 98/98SE/Me/2000は [プリンタ]) にあるプリンタのアイコンを削除しないでください。

MEMO

- インストール途中、CD-ROMを要求するメッセージが表示されたら、要求されたディスクをセットします。さらに[ファイルのコピー元]を指定する画面が表示されたら、ディスクをセットしたドライブを指定し、[OK] をクリックします。
お使いのパソコンのハードディスクに「C:¥Windows¥Options¥Cabs」フォルダ(Cはハードディスクドライブ名)がある場合は、このフォルダ名を[ファイルのコピー元]に指定してもインストールできます。CD-ROMをセットしたあとも、インストールされない場合は、「Q:¥Driver¥Disk1¥(「テプラ」PRO本体名)¥9X」(QはCD-ROM ドライブ名、¥以下はWindowsのフォルダ)を[ファイルのコピー元]に指定してください。
- インストールの失敗などで、プリンタドライバがインストールできない場合は、再度プリンタドライバをインストールしてください。

ネットワーク管理者の方へ

本機は、ネットワーク上のWindows 98/98SE/Me/2000Professional/XP Professional/XP HomeEditionパソコンに接続し、共有プリンタに設定して印刷することができます。ただし、ネットワークの環境や、ネットワーク上のパソコンにインストールされているデバイスによっては、共有プリンタとして正常に機能しないことがあります。

また、下記機能はクライアント側からは受けつけません。

- 点字ラベルの打刻
打刻ブロックがあるラベルは印刷できません。
- 「PCラベルシステム SDL6」使用時のテープ幅の取得
ただし、サーバ側とクライアント側とのOSの組み合わせによっては動作することができます。
- プリンタプロパティのユーティリティの動作
- テープ幅確認メッセージの表示／非表示の選択

共有プリンタに設定してクライアント側から印刷する場合、サーバ側にテープ幅確認メッセージが表示されます。テープ幅確認メッセージを表示しないように設定することもできます。ただし、サーバ側とクライアント側とのOSの組み合わせによっては、非表示の設定が有効にならないことがあります。

参照☞P.142 「プリンタドライバ - オプションタブ」

- 「DATAメモリーシステム SDD6」での転送

アプリケーション、プリンタドライバをアンインストールする

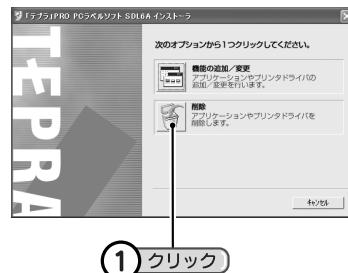
!!注意!!

- ・アプリケーション、プリンタドライバのアンインストールは、必ず下記に記載の手順でおこなってください。
- ・プリンタドライバをアンインストールするときは、パソコンから「テプラ」PRO本体をはずしてください。

① 同梱のCD-ROMをパソコンのCD-ROM ドライブに入れて、インストールプログラムを起動する

② [削除] をクリックする

アンインストールの準備が整うと、確認の画面が表示されます。



① クリック

③ [OK] をクリックする

アンインストールが開始されます。



① クリック

MEMO

プリンタドライバのみをアンインストールする時は、ここで[キャンセル]をクリックしてアプリケーションのアンインストールを中止し、手順④へ進みます。

④ [完了] をクリックする

続いて、プリンタドライバのアンインストールに進みます。

① クリック



次へ進みます →

5 [はい] をクリックする

プリンタの選択画面に進みます。

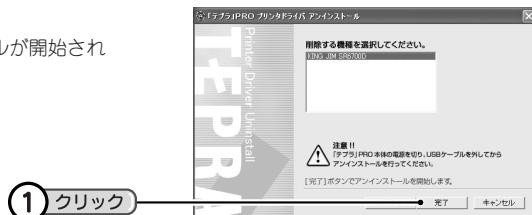


MEMO

ここで「いいえ」をクリックすると、プリンタドライバのアンインストールを中止します。

6 [完了] をクリックする

プリンタドライバのアンインストールが開始されます。



7 [はい] をクリックする

パソコンが再起動されます。



!! 注意 !!

- ・ プリンタドライバをアンインストールした場合は、必ずパソコンを再起動してください。
- ・ [コントロールパネル] から開く [プリンタとFAX] (Windows98/98SE/Me/2000は[プリンタ]) にあるプリンタのアイコンを削除しないでください。

MEMO

アプリケーション、プリンタドライバのアンインストールは、[コントロールパネル] → [プログラムの追加と削除] (Windows98/98SE/Me/2000は[アプリケーションの追加と削除])からでも操作できます。ただし、CD-ROMからのアンインストールとは異なり、アプリケーション用(「テプラ」PRO PCラベルソフト SDL6A)とプリンタドライバ用(「テプラ」PRO SDL6Aプリンタドライバ)と分かれていますので、必要に応じてアンインストールをおこなってください。

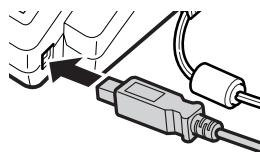


アプリケーションを
アンインストールする場合

プリンタドライバを
アンインストールする場合

●パソコンと「テプラ」PRO本体を接続する

1 「テプラ」PRO本体にACアダプタとUSBケーブルを接続する



2 USBケーブルのもう一方をパソコンのUSBコネクタに接続する

MEMO

コネクタの形状と向きを確認してから接続してください。

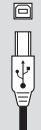
AタイプUSBコネクタ

コンピュータのコネクタに使われているのはこのAタイプのUSBコネクタです。



BタイプUSBコネクタ

「テプラ」PRO本体のUSBコネクタに使われているのはこのBタイプのUSBコネクタです。



3 「テプラ」PRO本体にテープカートリッジをセットする

4 「テプラ」PRO本体の電源をONにする

テープカートリッジをセットした直後は、テープ送りを実行し、テープのたるみを取ります。

5 「テプラ」PRO本体をPCリンク状態にする

!!注意!!

- ・プリンタドライバをインストールしていない状態で「テプラ」PRO本体をパソコンに接続すると、「新しいハードウェアの追加」画面が表示されます。すぐに[キャンセル]をクリックしパソコンから「テプラ」PRO本体をはずして、必ず同梱のCD-ROMでプリンタドライバをインストールしてください。

参照☞P.9「アプリケーション、プリンタドライバをインストールする」

- ・1台のパソコンに同じ機種の「テプラ」PRO本体を複数接続する場合、接続する台数分のプリンタドライバが必要になります。2台目以降のプリンタドライバは、別の「テプラ」PRO本体を接続すると自動的にプリンタドライバのコピーが作成されます。このとき新たにインストールされたプリンタドライバの名前には「コピー」がつきます。
- ・Windows98/98SEをお使いの場合は、1台のパソコンに同じ機種の「テプラ」PRO本体を複数接続して使用することはできません。一旦、プリンタドライバを削除してから、新しいプリンタドライバをインストールし直してください。

参照☞P.15「アプリケーション・プリンタドライバをアンインストールする」

- ・転送ソフト「DATAメモリーシステム SDD6」使用時は、1台のパソコンに「テプラ」PRO本体を複数接続した状態では通信をおこなうことはできません。通信をおこなう「テプラ」PRO本体1台のみ接続してください。

専用エディタ [PCラベルシステム *SDL6*]編

専用エディタ「PCラベルシステム *SDL6*」でラベルを作るときの操作方法を説明します。

●専用エディタの起動～終了

起動する

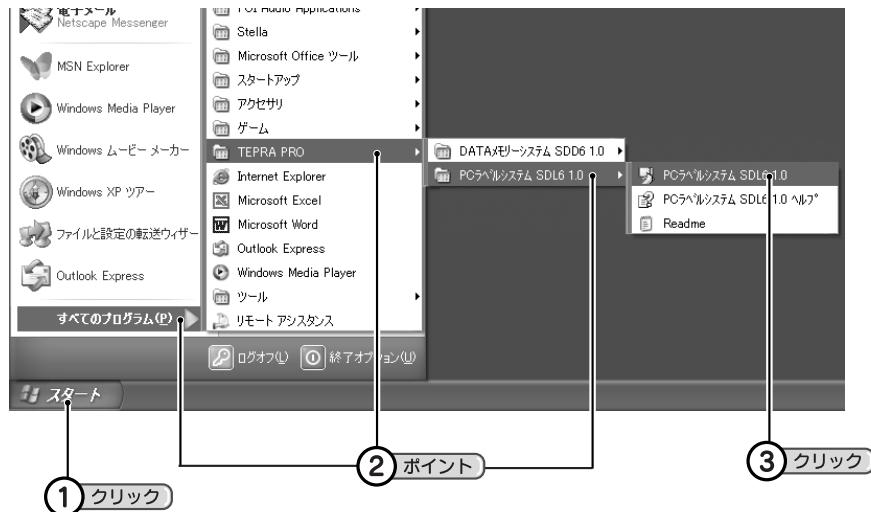
① 専用エディタ「PCラベルシステム SDL6」を起動する

[スタート] をクリックし、[すべてのプログラム] (Windows 98/98SE/Me/2000は[プログラム]) – [TEPRA PRO] – [PCラベルシステム SDL6 1.0] – [PCラベルシステム SDL6 1.0] をクリックします。

専用エディタが起動します。

MEMO

- インストール時に、デスクトップにショートカットを作った場合は、デスクトップの[PC ラベルシステム SDL6 1.0] アイコンをダブルクリックしても起動できます。
- Windows 2000 Professional / XP Professional / XP Home Edition で使用するときは、必ず Administrator(コンピュータの管理者)でログインしてください。



〔新規作成〕画面が表示されます。

新規作成

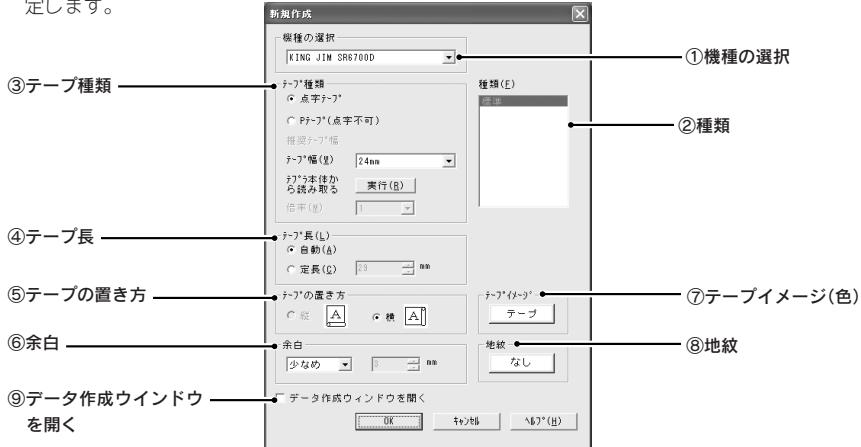
ラベルを新規に作るときは、最初にテープの幅や長さなどを設定します。

① 専用エディタ「PCラベルシステムSDL6」を起動する

[新規作成] 画面が表示されます。

② 「新規作成」画面で各項目を設定する

接続している機種、テープの幅、長さ、置き方、余白、種類、テープイメージ(色)、地紋などを設定します。



①機種の選択：接続している「テプラ」PRO本体名を選択します。

②種類：目的に合ったラベルを選択します。特になければ「標準」を選択します。

「標準」以外を選択すると、「テープ幅」、「倍率」、「テープ長」、「テープの置き方」、「余白」が自動的に設定されます。

③テープ種類：	テープ種類	「点字テープ」または「Pテープ」を選択します。
	推薦テープ幅	「種類」で指定した推薦のテープ幅を表示します。「点字テープ」の場合は表示しません。
	テープ幅	右側の <input checked="" type="checkbox"/> をクリックして表示されるリストから「テプラ」PRO本体にセットしているテープ幅を選択します。
	テプラ本体から読み取る	[実行] をクリックすると、「テプラ」PRO本体にセットされているテープ幅を読み取ります。テープ幅は、本体がPCリンク状態でパソコンと接続されているときに読み取れます。
	倍率	テープ幅×倍率で貼り合わせるテープを作成します。例えば「2倍」の場合、画面ではテープが2枚貼り合わされます。「点字テープ」の場合は設定できません。

次へ進みます

④テープ長	自動	文章の長さに応じてテープの長さが自動的に調節されます。
	定長	指定した長さのラベルを作ります。「点字テープ」は29mm～569mm、「Pテープ」は10mm～2300mmの範囲で指定します。

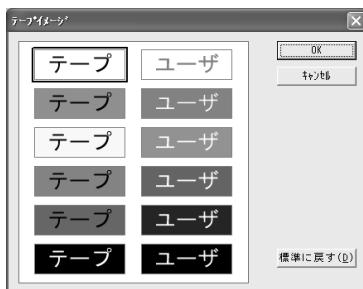
⑤テープの置き方	縦	テープは縦置き、テキストは縦書きに設定されます。 「点字テープ」の場合は設定できません。
	横	テープは横置き、テキストは横書きに設定されます。

⑥余白

ラベルの前後の余白の長さを設定します。右端のをクリックして選択します。
「数値指定」を選択したときは、右側にあるテキストボックスに数値を入力します。

⑦テープイメージ

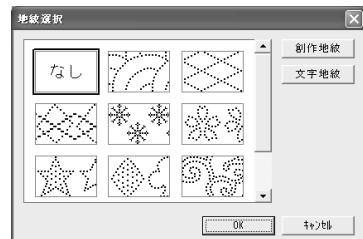
表示するテープの色の種類を選択します。クリックすると、「[テープイメージ]」画面が表示されるので、テープの色を選択して [OK] をクリックします。「ユーザ」を選択すると、「テープ色」と「インク色」を変更できます。使用するテープと同じ設定にすると、画面上でイメージを確認できます。この設定はパソコンの画面上でイメージを確認するためのもので、印刷には反映されません。



⑧地紋

地紋の種類を選択します。クリックすると、「[地紋選択]」画面が表示されるので、地紋を選択して [OK] をクリックします。[創作地紋] や [文字地紋] も編集できます。

参照 [P.79 「地紋を挿入する」](#)



⑨データ作成ウィンドウを開く

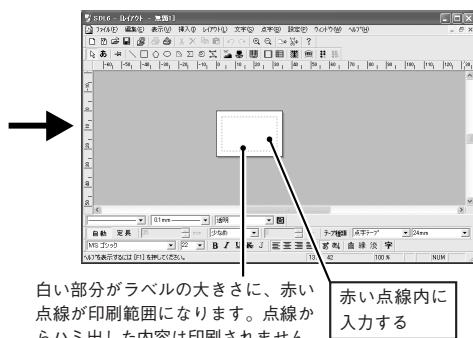
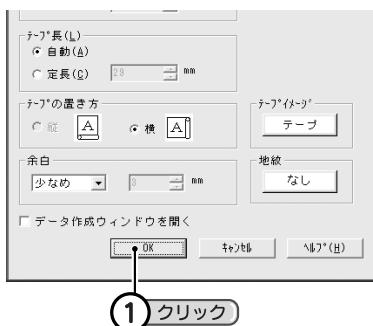
チェックするとレイアウト編集画面と同時にデータ作成ウィンドウも開きます。

参照 [P.62 「データを新規作成する」](#)

③ すべての項目を指定したあと [OK] をクリックする

レイアウト編集画面に設定したテープが表示され、入力や編集が可能になります。

参照☞P.28「文字を入力する」



MEMO

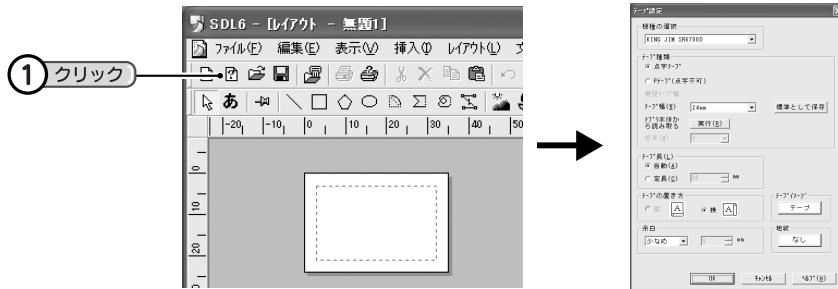
- テープの長さや幅、余白は、レイアウト編集画面上でもテープ設定ツールバーの各ボタンで変更できます。また、これらの操作は、[テープの設定]をクリックするか [ファイル] - [テープの設定]を指定して表示される[テープ設定]画面でも変更できます。参照☞P.24「テープ設定を変更する」
- ブロックの位置関係がわかりづらいときは、グリッドやガイドラインを表示することもできます。参照☞P.134「表示メニューの各コマンド」

テープ設定を変更する

新規作成時にテープの設定をしたあとでも、[テープ設定] 画面やテープ設定ツールバーで変更できます。

[テープ設定] 画面：図(テープの設定)をクリックするか [ファイル] — [テープの設定] を指定して開きます。項目の設定方法は [新規作成] 画面と同様です。

参照☞P.21「新規作成」



テープ設定ツールバー：「PCラベルシステム SDL6」のレイアウト編集画面下部に表示されます。



①テープ長

②余白

③テープ種類

①テープ長：テープの長さを「自動」か「定長」のどちらかで設定します。自動と定長のボタンのうち、設定されているボタンが押された状態になります。

<u>自動</u>	テープの長さを自動にします。
<u>定長</u>	テープの長さを指定します。このボタンを押すと、右側のテキストボックスで数値が指定できるようになります。

②余白：ラベルの前後の余白をリストから選択します。
「数値指定」を選択したときは、右側のテキストボックスで数値が指定できるようになります。



③テープ種類：[テープ種類]をクリックすると、「テープ」PRO本体にセットされているテープ種類と幅を読み取ります。テープ幅は、本体がPCリンク状態でパソコンと接続されているときに読み取れます。



または、右側の▼をクリックして本体にセットしているテープ種類とテープ幅を選択します。

ファイルを開く

ファイルに保存してあるラベルを表示するには、目的のファイルを開きます。

1 標準ツールバーの[開く]をクリックする

[開く] 画面が表示されます。



MEMO

[ファイル] - [開く] を選択しても、[開く] 画面が表示されます。

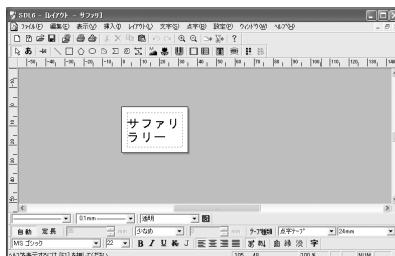
2 ファイルを指定して [開く] をクリックする

[開く] 画面にファイルがない場合は、「ファイルの場所」の▼や□(1つ上のフォルダ)などをクリックして、保存した場所を表示させます。



指定したファイルが表示され編集ができます。

参照☞P.29「文字を入力する」



MEMO

- 専用エディタでは、「SDL6ファイル(.td1)形式」のほか、「SPC9 DRAW3ファイル(.tpc)形式」、「SPC5 DRAW ファイル(.tpb)形式」、「SPC9 DRAW ファイル(.tpa)形式」のファイルを開くことができます。「ファイルの種類」の▼をクリックして形式を選ぶと、対応するファイルが表示され、選択できるようになります。
- ここでは事前に「サファリ」というファイルを保存していた場合を例に説明しています。初期状態では「サファリ」というファイルは存在しません。

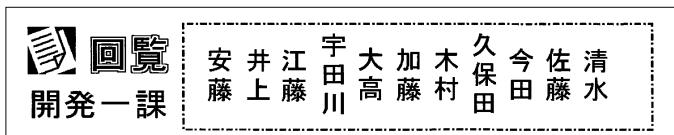
参照☞P.34「文書を保存する」

デザインフォームで作成

あらかじめ用意されているデザインフォームを利用すれば、簡単にラベルを作ることができます。

それぞれのデザインフォームのレイアウトは、操作途中の【デザインフォームの選択】画面(手順②)で確認できます。

例：



1 標準ツールバーの[図]をクリックする

【デザインフォームの選択】画面が表示されます。

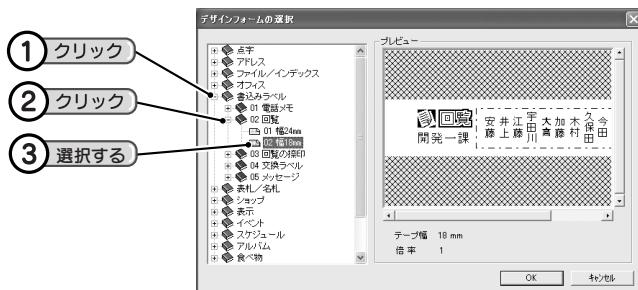


MEMO

【ファイル】→【デザインフォーム】を選択しても、【デザインフォームの選択】画面が表示されます。

2 分類の一覧から目的のデザインを選択する

分類名の前にある[+]をクリックすると、その中に含まれている内容が表示されます。更に小分類名の[+]をクリックし、目的のラベルを選択すると、ラベルのデザイン、テープ幅、倍率が確認できます。

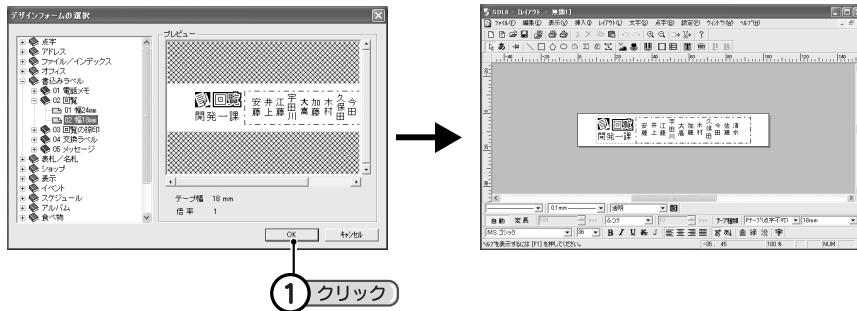


MEMO

デザインフォーム一覧は、CD-ROMに収録の「Manual」フォルダにある「SDL6_list.pdf」を開くと、確認することができます。確認するためにはAdobe Acrobat ReaderまたはAdobe Readerが必要です。

③ [OK] をクリックする

選択されたデザインのラベルが表示されます。



MEMO

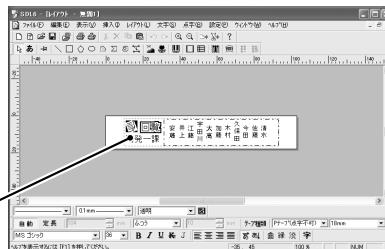
- 流し込み枠のあるデザインフォームを選択したときは、デザインフォームを選択して[OK]をクリックすると、それに対応したデータ作成画面が自動的に表示されます。データを入力するか、利用するデータを開いてください。
参照 [☞P.63 「既にあるデータを読み込む」](#)
参照 [☞P.64 「データを入力する」](#)
- 点字のあるデザインフォームを選択して表示される打刻ブロックの内容は[点字編集]画面で変更します。打刻ブロックの操作については、「点字の入力・編集」を参照してください。
参照 [☞P.35 「点字の入力・編集」](#)
- 機種により使用できるデザインフォームのラベル幅が異なります。接続している機種を確認して、デザインフォームを選択してください。機種の設定は、[テープ設定]画面で確認できます。
参照 [☞P.24 「テープ設定を変更する」](#)

④ ラベルの内容を変更する

レイアウト編集画面で読み込んだデザインフォームの文字や記号、イラストなどをクリックして選択し、変更します。

参照 [☞P.29 「文字を入力する」](#)

① クリック



!! 注意 !!

塗りつぶしの多い図形、文字などによっては、印刷するとカスレが発生することがあります。

MEMO

デザインフォームでは、書き換える頻繁なテキスト(文字)データについては、通常のテキストブロック同様、ダブルクリックして内容を変更できますが、あまり変更の必要のない記号やイラストについては、誤って変更しないよう、ロックが指定してあります。これらロックされているデータについても、ロックを解除すれば変更できるようになります。

参照 [☞P.58 「ロックを解除する」](#)

専用エディタを終了する

① 画面右上の[X]をクリックする

文書が保存されていれば、そのままウィンドウが閉じます。



MEMO

専用エディタの終了は、[ファイル] — [終了] を選択しても実行できます。

!! 注意 !!

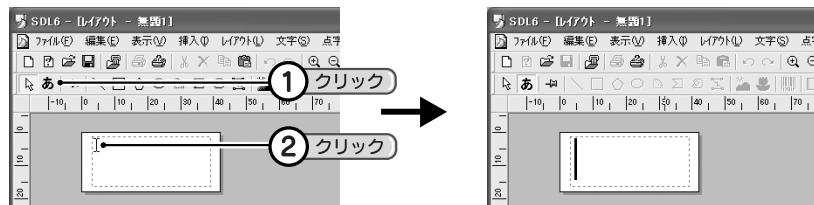
文書を保存しないまま終了操作をおこなったときは、保存を確認する画面が表示され、[はい] を選択すると[名前を付けて保存]画面が表示されます。保存を確認する画面で[いいえ]を選択すると、作った内容が破棄され専用エディタを終了します。一度データの内容が破棄されると、元に戻すことができませんので充分注意してください。

●専用エディタの基本操作

文字を入力する

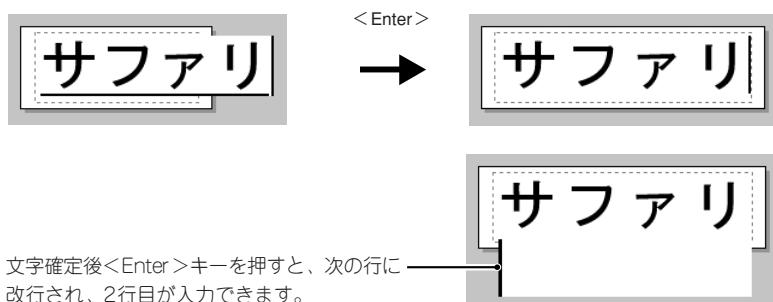
① あをクリックし、文字を入力する位置をクリックする

文字を入力できる状態になります。



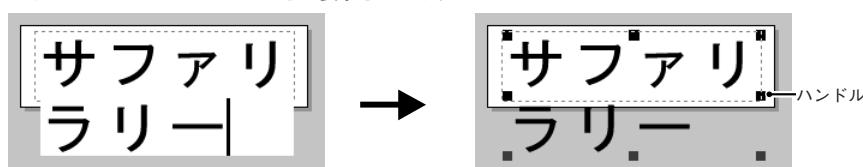
② 文字を入力する

文字入力後、キーボードの<変換>キーで変換し、<Enter>キーで確定します。

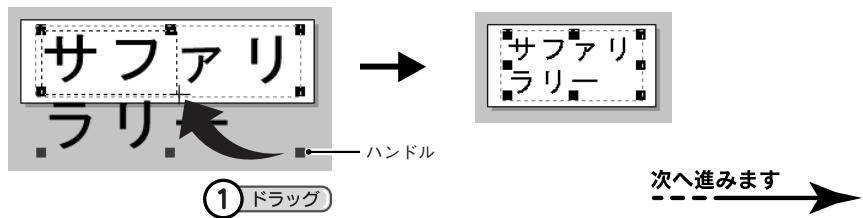


③ テキストブロック以外の場所をクリックする

テキストブロックがハンドルつきで表示されます。



④ カドのハンドルをドラッグして、テキストブロックの枠サイズをラベル幅に合わせる



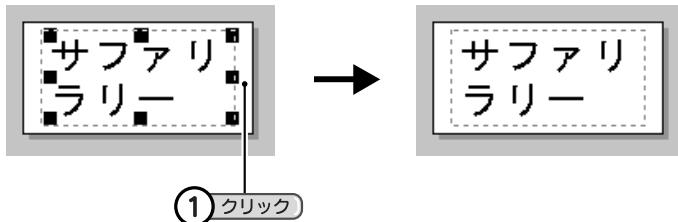
次へ進みます
SDL6 編 29

MEMO

- ・ハンドル表示中のテキストブロックは、内容、位置、枠サイズを変更できます。
枠サイズを変更するときは、ハンドルをドラッグします。
カドのハンドルをドラッグすると、縦横比を変えずに文字サイズを拡大、縮小できます。
また、キーボードの<Shift>もしくは<Ctrl>キーを押しながらハンドルをドラッグすると、テキストブロックの大きさを自由に変更しながら拡大、縮小できます。
- ・文字を縦書きにするとときは、ハンドル表示中に文字ツールバーの↑(縦書き)をクリック(または[文字]メニューから「縦書き」を選択)します。

⑤ テキストブロック以外の場所をクリックする

ハンドルが消えてテキストブロックが確定します。



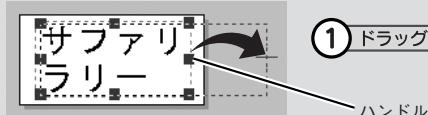
MEMO

改行したテキストブロックを1行に戻す場合は、次の操作をしてください。

① 右辺中央のハンドルをドラッグして、テキストブロックの枠サイズを広げる

元の行がブロックで折り返されている場合は、ここで、1行になります。

元の行が<Enter>キーで改行されている場合は、手順②以降の操作で改行を削除します。



② テキストブロックをダブルクリックして「テキスト編集」の状態にする

テキストブロック内に文字カーソルが表示され、文字を入力できる状態になります。

テキストの編集は、テキストブロックを右クリックしたときに表示される「テキストの編集」を選択しても文字を入力できる状態になります。

③ 文字カーソルを1行目の行末に移動し、<Delete>キーを押す

改行が削除され、1行になります。必要に応じてテキストブロックのサイズを変更してください。

改行の削除は、文字カーソルを2行目の行頭に移動してから<BackSpace>キーを押しても操作できます。



印刷する

- ① 「テプラ」PRO本体に印刷するサイズに合ったテープカートリッジがセットされていることを確認する
- ② 「テプラ」PRO本体の電源を入れた後、**シフト**+**（=PCリンク）**を押してPCリンク状態にする「テプラ」PRO本体のディスプレイに「PC通信可能」が点滅します。
- ③  (印刷)をクリックする

[印刷] 画面が表示されます。



MEMO

- ・[印刷] 画面は、「ファイル」—「印刷」を選択しても表示されます。打刻ブロックがある場合は「印刷と打刻」画面になります。
- ・レイアウト編集画面で  (プリンタプロパティ) をクリックすると、用紙の設定、テープカットの方法、テープ幅確認メッセージの有無などを変更できる [プロパティ] 画面が表示されます。また、上記 [印刷] 画面で「[プリンタ設定]」をクリックして開く「[プリンタの設定]」画面で「[プロパティ]」をクリックしても、「[プロパティ]」画面が表示されます。
- この「[プロパティ]」から変更したプリンタドライバの設定内容はアプリケーションを終了すると初期設定に戻ります。プリンタドライバの初期設定を変更したい場合は、「[コントロールパネル]」から開く「[プリンタとFAX]」(Windows 98/98SE/Me/2000は「[プリンタ]」)画面で設定してください。
参照 [P.141 「プリンタドライバ」](#)
- ・反射ラベル、透明つや消しラベル(カスレたときのみ上質紙ラベル、ふせん紙ラベル)を使用するときは、「[プリンタプロパティ]」画面のグラフィックタブで「濃度」を「+3」に設定してください。
参照 [P.142 「プリンタドライバ - グラフィックタブ」](#)

!! 注意 !!

- ・印刷中や、打刻中、テープ送り時にACアダプタ・USBケーブルをはずさないでください。印刷や打刻、テープ送りができなくなります。
- ・長いラベルを印刷する場合、印刷開始までに時間がかかる場合があります。
- ・反射ラベル、アイロンラベル、マグネットテープ、透明つや消しラベル、夜光ラベルを使用するときは、「[プリンタプロパティ]」画面のオプションタブをクリックし、「テープカットしない」に設定してください。
参照 [P.142 「プリンタドライバ - オプションタブ」](#)
- ・反射ラベル、アイロンラベル、マグネットテープ、透明つや消しラベル、熱収縮チューブ、伸縮ラベル、夜光ラベル、ロングテープ、上質紙ラベル、ふせん紙ラベル、ケーブル表示ラベルを使用するときは、「[プリンタプロパティ]」画面のオプションタブをクリックし、「ハーフカットしない」に設定してください。
参照 [P.142 「プリンタドライバ - オプションタブ」](#)

次へ進みます

4 [印刷] 画面の内容を確認する



プリンタ機種 : プリンタ機種が接続している「テプラ」PRO本体であることを確認します。

印刷部数 : 同じラベルを複数印刷するときは、「印刷部数」を変更します。点字ラベルの場合は部数を変更できません。

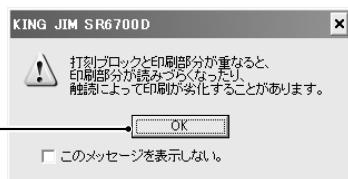
5 内容が正しければ [OK] をクリックする

打刻ブロックがある場合は、重記確認メッセージが表示されます(手順⑥)。

PTape使用時は、テープ幅確認メッセージが表示されます(手順⑦)。

6 [OK] をクリックする

テープ幅確認のメッセージが表示されます。



MEMO

- テープ幅確認メッセージや重記確認メッセージは、表示しないように設定することもできます。表示しないように設定するには、[プリンタプロパティ]画面のオプションタブをクリックし、「テープ幅確認メッセージを表示する」や「打刻ブロック重記確認メッセージを表示する」のチェックマークをはずしてください。
参照☞P.142「プリンタドライバーオプションタブ」
- 点字テープを装着しているにもかかわらず打刻ブロックがないラベルを印刷しようとすると、打刻確認メッセージが表示されます。

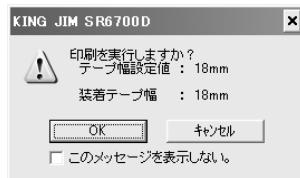
!! 注意 !!

- 打刻ブロックがあるラベルはPTapeでは印刷できません。
- ネットワーク経由で接続しているクライアント側から印刷する場合、テープ幅確認メッセージや重記確認メッセージは表示されません(共有プリンタに設定したパソコンに表示されます)。

参照☞P.141「プリンタドライバ」

7 テープ幅を確認する

テープ幅設定値：[新規作成] や [テープ設定] 画面などで設定したテープ幅が表示されます。
参照☞P.21「新規作成」
参照☞P.24「テープ設定を変更する」



装着テープ幅：「テプラ」PRO本体に装着されているテープカートリッジのテープ幅が表示されます。

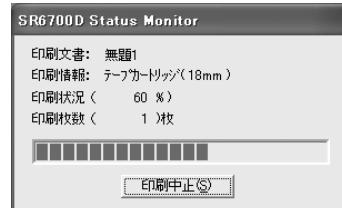
「テープ幅設定値」と「装着テープ幅」が異なっていると、正確な印刷結果が得られません。そのときは [キャンセル] をクリックして [テープ幅設定値] と [装着テープ幅] が揃うように設定してください。

8 [OK] をクリックする

印刷を開始します。パソコンの画面上にはステータスマニタが表示され、現在の印刷状況を確認できます。ステータスマニタの [印刷中止] をクリックすると、印刷を中止します。

打刻ブロックがある場合は、印刷後に打刻できる状態になります(手順⑨)。

打刻ブロックがない場合はここで終了です。



!! 注意 !!

- 本機の印刷中や打刻中、テープ送り時にACアダプタ・USBケーブルをはずさないでください。印刷や打刻、テープ送りができなくなります。
- 塗りつぶしの多い図形、文字などによっては印刷するとカスレが発生することがあります。
- ステータスマニタは、ネットワーク経由で接続しているクライアント側のパソコンには表示されません。
- ネットワーク経由で接続している場合、いくつかのメッセージはサーバー側のパソコンのみに表示されます。
- ネットワーク経由で接続している場合、打刻ブロックがあるラベルであっても、印刷した後に「テプラ」本体が打刻できる状態なりません。

9 点字ラベルの場合は、印刷後に打刻する

ラベルを点字ラベル差込み口に挿入し、「テプラ」PRO本体の [選択] を押します。

MEMO

打刻操作の詳細は、「テプラ」PRO本体の取扱説明書を参照してください。

10 [OK] をクリックします

① クリック



文書を保存する

作ったラベルの保存は、現在のファイル名でそのまま保存する「上書き保存」と、別のファイル名を入力して保存する「名前を付けて保存」があります。

① (保存)をクリックする

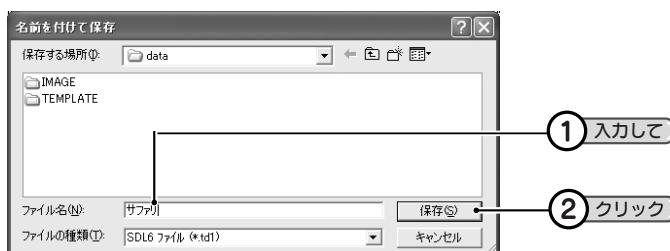
ファイルを開いた場所に同じ名前で上書き保存します。新規に作成したラベルの場合は、「名前を付けて保存」画面が表示されます。(手順②へ)



② ファイル名を入力して [保存] をクリックする

作った文書が保存され、編集画面に戻ります。

「保存する場所」のやなどをクリックして、保存場所を変更することもできます。



MEMO

- 上書き保存は、[ファイル] - [上書き保存] を選択しても実行できます。
- 別のファイル名で保存する場合は、[ファイル] - [名前を付けて保存] を選択します。「名前を付けて保存」を選択すると、手順②の [名前を付けて保存] 画面が表示され、ファイルの名前を変更できます。

!!注意!!

- 上書き保存をおこなうと、開いた元のファイルの内容が書き換わります。充分に確認してから上書き保存をしてください。
- 専用エディタでは、通常「SDL6 ファイル(.td1)形式」で保存されます。ただし、上書き保存の場合は、開いた元の形式のまま保存されます。
- 「SPC9 DRAW3 ファイル(.tpc)形式」や「SPC5 DRAW ファイル(.tpb)形式」、「SPC9 DRAW ファイル(.tpa)形式」で保存することもできますが、機能が一部制限されます。
- 「SDL6 ファイル(.td1)形式」で保存したファイルは、「PC ラベルシステム SPC9」Ver.1.0～3.1 や「PC ラベルシステム SPC5」Ver.1.0 で開くことはできません。

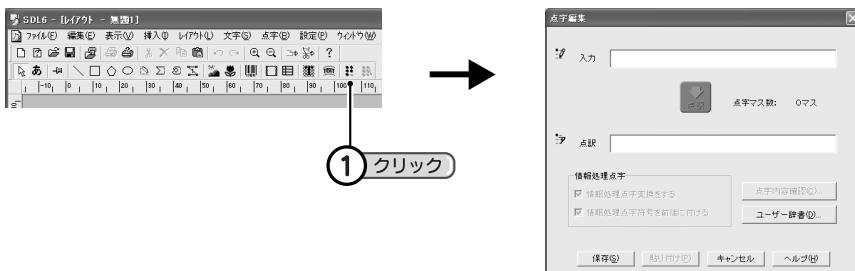
●点字の入力・編集

点字は、[点字編集] 画面で文章を入力したあと、自動点訳することで入力できます。また、6点を指定して入力することもできます。

点字を入力する(自動点訳)

1 (点字編集)をクリックする

〔点字編集〕 画面が表示されます。



!!注意!!

テープ種類が「Pテープ(点字不可)」に設定された状態では、点字を入力することはできません。点字を入力するときは、必ず「点字テープ」に設定してください。

参照 P.140 「テープ設定ツールバー」

2 入力行に文章を入力する

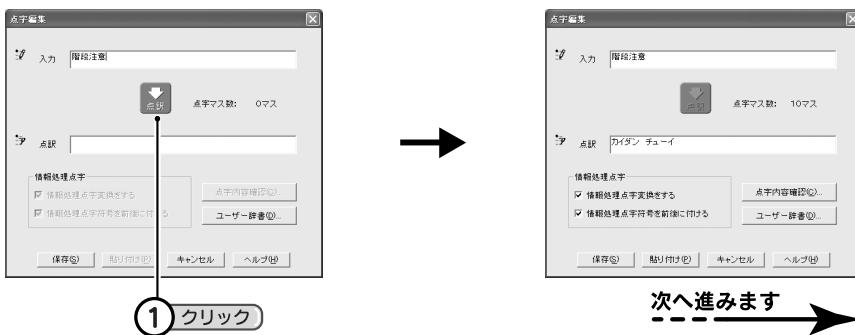
文字を入力後、キーボードの<変換>キーで変換し、<Enter>で確定します。



③  (点訳)をクリックする

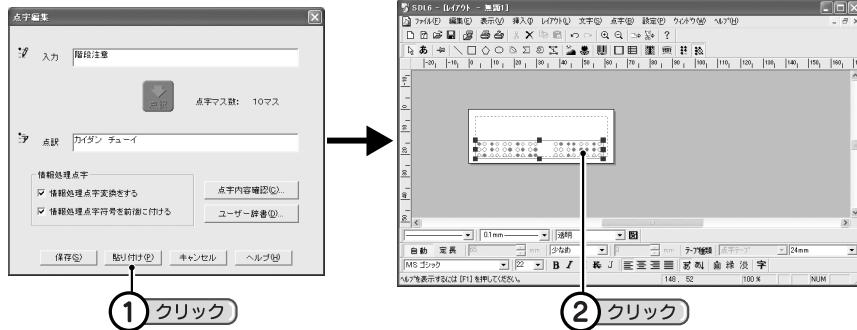
点訳の読みが表示されます。 (点訳) をクリックすると、入力行の内容が点訳され、自動的に文節の分かち書きや「う音」の長音変換がされます。

この訳文を編集することもできます



④ [貼り付け] をクリックし、ラベル上の挿入する位置をクリックする

点字の打刻ブロックが表示されます。



⑤ 必要に応じて、印字部分の文字を入力する

参照☞P.29 「文字を入力する」



MEMO

- 点訳の規則については、SR6700D取扱説明書を参照してください。
- 文字コードによる点字変換であるため、SR6700Dの点訳結果と異なることがあります。
- 手順④で「点字内容確認」をクリックすると、点字の状態が確認できます。さらに、点字やマスの追加ができます。
参照☞P.37 「点字を直接入力する」
- 手順④で「ユーザー辞書」をクリックすると、単語を登録できます。
参照☞P.39 「ユーザー辞書を登録する」
- 手順④で「保存」をクリックすると、変更内容を保存し、レイアウト編集画面に戻ります。点字の内容を消去する場合などは、「保存」をクリックしてレイアウト編集画面に戻ります。
- インターネットのアドレス(URL)やEメールアドレスなどは、特殊な情報処理文字です。手順④で「情報処理点字」の機能をチェックし、情報処理用点字として入力してください。
- 点訳の結果には漢字が表示されませんが、点訳時に文節を認識させるために、入力行では漢字に変換してください。
- 打刻ブロックの位置は、点字メニューで設定できます。
参照☞P.40 「打刻ブロックを移動する」
- 内容を変更するときは、打刻ブロックを選択して、[点字編集]をクリックすると[点字編集]画面が表示され、変更できます。内容を変更した場合は、変更後、「貼り付け」をクリックすると打刻ブロックが変更されます。
- 打刻ブロックは、[点字表示]で表示/非表示を切り換えられます。
- 打刻ブロックは、1ラベル1ブロックのみ挿入できます。
- 入力できる点字のマス数は最大40マスです。

!! 注意 !!

点字の内容は、ラベルを貼る前に必ず確認してください。自動点訳は点訳規則に従っておこなっていますが、100%の正確さを保証するものではありません。なお、これによって生じた損害および逸失利益などにつきましては、当社ではいっさいその責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

点字を直接入力する

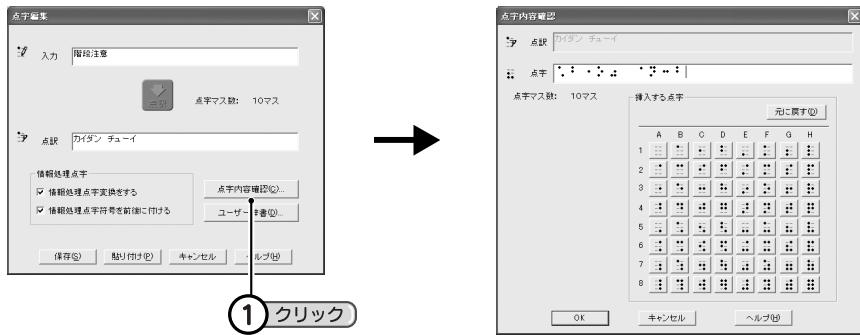
1 【点字編集】画面で点訳をする

参照☞P.35「点字を入力する」手順①～③



2 【点字内容確認】をクリックする

【点字内容確認】画面が表示されます。



3 挿入する点字一覧で、目的の点字をクリックする

クリックした点字が、点字行に追加されます。

キーボードの<Back Space>や<Delete>で削除もできます。

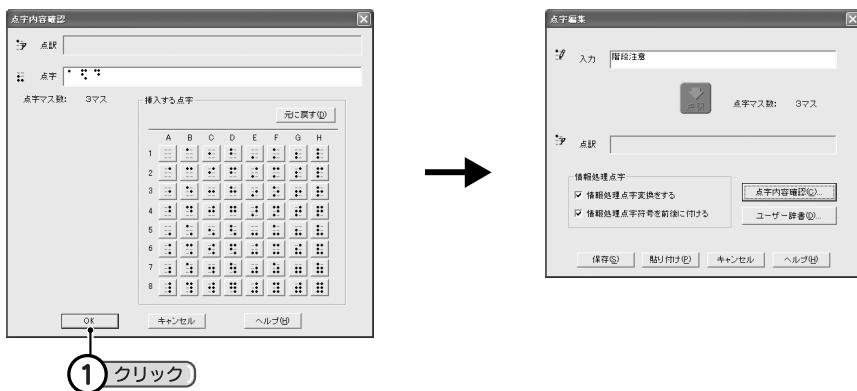


次へ進みます

④ [OK] をクリックする

〔点字編集〕画面が表示されます。

〔点字内容確認〕画面で点字行を編集した結果、〔点字編集〕画面の
入力行と点訳行が一致しない場合、点訳行が表示されません。



⑤ [貼り付け] をクリックし、ラベル上の挿入する位置をクリックする

点字の打刻ブロックが表示されます。

MEMO

- 手順④の点字編集画面で入力行を変更して  (点訳) をクリックすれば、再度 [点訳] 機能が使用できます。この場合、「手動で更新した内容が失われる」という内容のメッセージが表示されます。
- 点字が正しく入力されているか、必ず確認してください。
- 打刻ブロックの位置は、点字メニューで設定できます。

参照  P.40 「打刻ブロックを移動する」

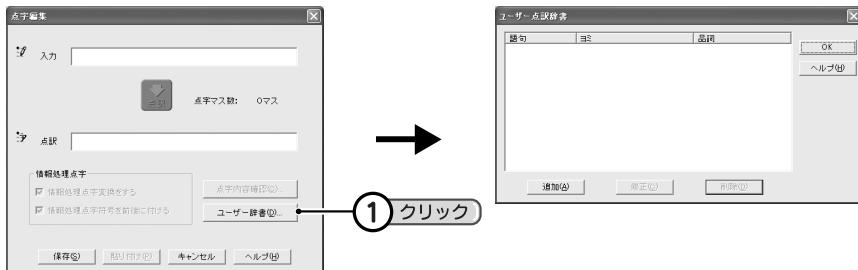
- 打刻ブロックは1ラベル1ブロックのみ挿入できます。
- 入力できる点字のマス数は最大40マスです。

ユーザー辞書を登録する

人名など、入力時の読みに関わらず読みが正しく点訳行に表示されないことがあります。この場合は、あらかじめユーザー辞書に登録しておきます。

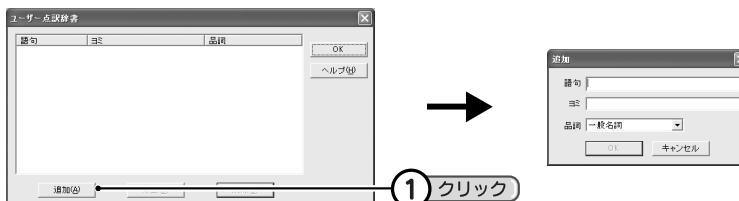
① [点字編集] 画面で [ユーザー辞書] をクリックする

[ユーザー点訳辞書] 画面が表示されます。



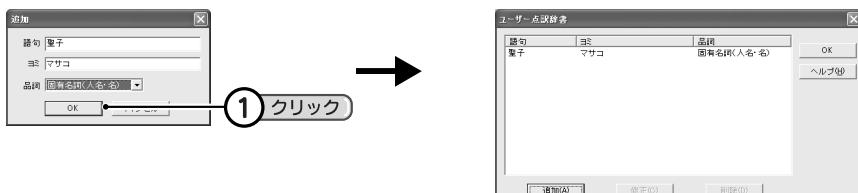
② [追加] をクリックする

[追加] 画面が表示されます。



③ 「語句」と「ヨミ」を入力、品詞を指定して [OK] をクリックする

入力した語句が辞書に登録されます。以降は点訳時に優先的に表示されます。



④ [OK] をクリックする

[点字編集] 画面に戻ります。

MEMO

- ユーザー辞書は点訳語句を登録するもので、漢字変換候補には反映されません。
- 語句によっては、あらかじめ優先して変換されるように設定されたものがあります。これらの語句と同じ漢字で構成され異なる読みをもつ語句を登録した場合、その語句が優先的に表示されないことがあります。
- アプリケーションをアンインストールすると、ユーザー辞書は削除されます。登録したユーザー辞書の内容を削除せずにアンインストールする場合は、ユーザー辞書のファイル (¥ProgramFiles¥KING JIM¥PC ラベルシステム SDL6 1.0¥briluser.dic) を別のフォルダなどに保存してください。

打刻ブロックを移動する

打刻ブロックは、ドラッグまたは点字メニューで位置を変えられますが、移動できる範囲は限定され、24mmテープでは上下どちらかに揃い、12mmテープでは上下に移動できません。

ドラッグで移動する

1 移動する打刻ブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

① クリック

階段注意

2 ブロックをドラッグして移動する

① ドラッグ

階段注意

点字メニューで配置を指定する

1 移動する打刻ブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

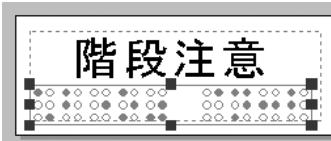
2 [点字] - [配置] で位置を指定する

打刻ブロックの位置が移動します。

① クリック

② クリック

③ クリック



テープの先端・中央・末端	水平位置を指定します。中央、末端は定長指定時のみ有効です。
上側・下側	上下位置を指定します。12mmテープでは指定しても変わりません。
標準位置	標準位置(テープの先端、下側)になります。

!!注意!!

- 打刻ブロックがテープ外になっている場合は、印刷と打刻はできません。
- 打刻ブロックと他のブロックを同時に選択してドラッグしても、打刻ブロックは移動せず、他のブロックのみ移動します。

打刻ブロックを前面・背面に移動する

打刻ブロックに他のブロックが重なってしまった場合、打刻ブロックを背面や前面に移動することができます。

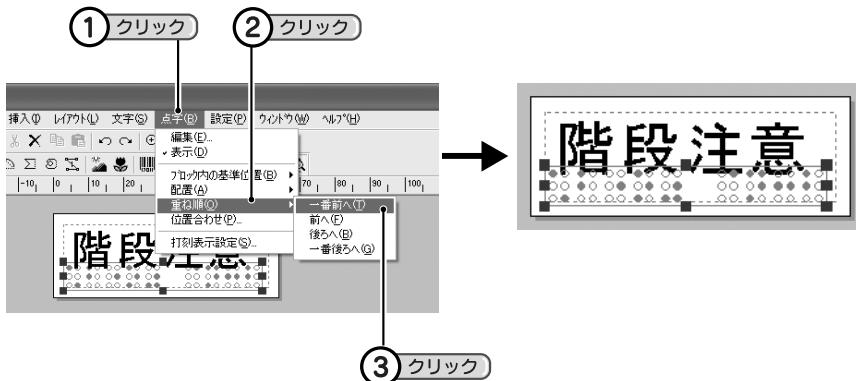
例：打刻ブロックをテキストブロックの前面に移動する

① 移動する打刻ブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

② [点字] - [重ね順] - [一番前へ] を選択する

打刻ブロックがテキストブロックの前面になります。



一番前へ	打刻ブロックを、重なっているブロックの最前面に移動します。
前へ	打刻ブロックを、重なっている中で1段階だけ前面に移動します。
後ろへ	打刻ブロックを、重なっている中で1段階だけ背面に移動します。
一番後ろへ	打刻ブロックを、重なっているブロックの最背面に移動します。

MEMO

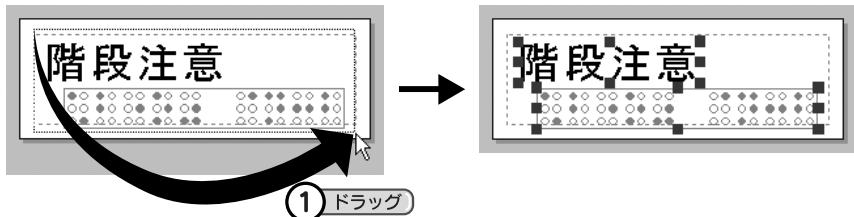
- テキストブロックや図形ブロックの重ね順は [レイアウト] メニューで指定します。
参照☞P.56 「前面・背面に移動する」
- 点字と印字を重ねると、文字が読みづらくなったり、触読によって印字が劣化することがあります。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば [編集] - [元に戻す] で直前の状態に戻すことができます。
- 特に設定しない場合、ブロックは作った順に上に重なります。
- 重ね順コマンドは、ブロックを選択した状態で右クリックをしても表示されます。

打刻ブロックの位置を揃える

例：打刻ブロックと他のブロックの左右を指定した位置に揃える

① すべてのブロックをマウスでドラッグして囲む

すべてのブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

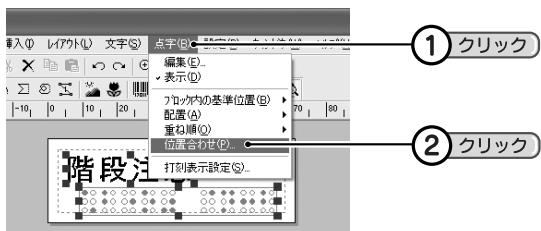


MEMO

パソコンのキーボードの<Shift>キーを押しながら各ブロックをクリックしても、複数のブロックを選択できます。すべてのブロックを選択する場合は、[編集] - [全体選択] を選択します。

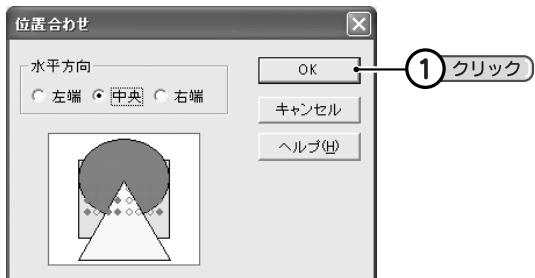
② [点字] - [位置合わせ] を選択する

[位置合わせ] 画面が表示されます。



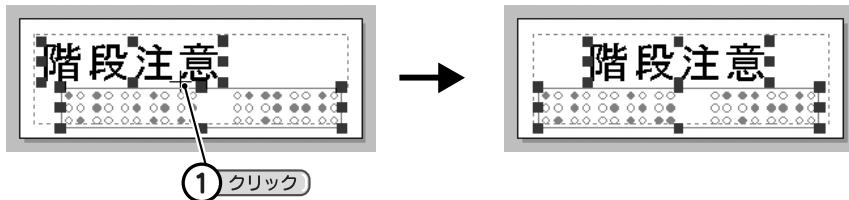
③ 水平方向の位置を選択し、[OK] をクリックする

レイアウト編集画面に戻ります。



④ 基準とする位置をクリックする

選択しているプロックが基準に対し、指定した条件で揃います。



MEMO

- ・[位置合わせ] は、打刻プロックのみを選択した状態でも実行できます。
- ・テキストプロックや図形プロックの位置合わせは [レイアウト] メニューで指定します。
参照 [P.57 「位置を揃える」](#)
- ・操作を間違えた場合は、直後であれば [編集] — [元に戻す] で直前の状態に戻すことができます。
- ・[位置合わせ] は、プロックを選択した状態で右クリックをしても表示されます。
- ・ラベル外を基準位置にすると、正しく配置されないことがあります。

参考

点字メニューのその他の機能

点字メニューには、配置や重ね順のほか、以下の機能があります。

編集	(点字編集)と同じ機能で、[点字編集] 画面が表示されます。
表示	(点字表示)と同じ機能で、打刻プロックの表示/非表示を切り換えられます。
プロック内の基準位置	点字の内容を変更して打刻プロック長が変わるときの基準位置を指定します。 「先端」を選択すると、長さが変わるとときにプロック末端が変動します。「末端」を選択するとプロック先端が変動します。
打刻表示設定	打刻プロックの表示色と背景色を選択できます。画面上で視認性が悪い場合に変更してください。

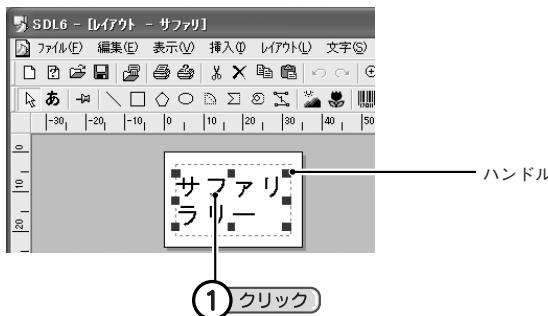
○文字の編集

入力した文字は、文字ツールバーで書体やサイズを変更したり、装飾することができます。

書体を変更する

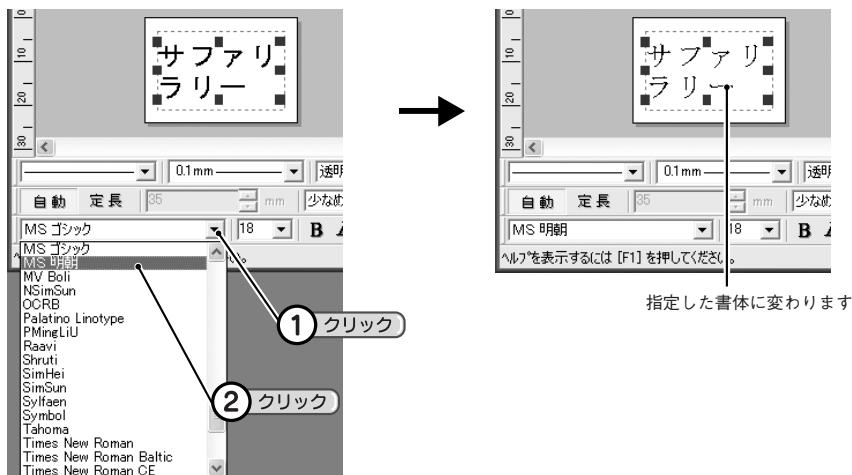
1 テキストをクリックする

テキストブロックがハンドルつきで表示されます。



2 文字ツールバーの「フォント名」で書体を指定する

表示されるリストから書体を選択します。



MEMO

パソコンに内蔵されている書体(True Typeフォントのみ)が指定できます。

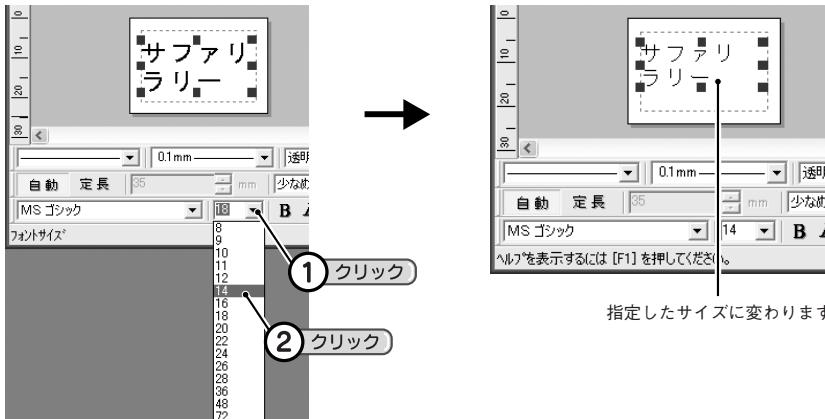
文字サイズを変更する

① テキストをクリックする

テキストブロックがハンドルつきで表示されます。

② 文字ツールバーの【フォントサイズ】で文字サイズを指定する

表示されるリストから数値を選択するか、直接入力します。



MEMO

文字サイズは、カドのハンドルをドラッグすると、縦横比を変えずに拡大、縮小できます。目的の文字サイズで指定するときは、上図のように数値を指定します。また、キーボードの<Shift>キーもしくは<Ctrl>キーを押しながらハンドルをドラッグすると、テキストブロックの大きさを自由に変更しながら拡大、縮小できます。

装飾を指定する

1 テキストをクリックする

テキストブロックがハンドルつきで表示されます。

2 文字ツールバーの機能ボタンで装飾を指定する



B (太字) 文字を太字にします。

I (斜体) 文字を斜体にします。

U (下線) 文字に下線を付けます。

【】 (取消し線) 文字に二重線の取り消し線を付けます。

J (影) 文字に影を付けます。

〔〕 (左寄せ) 文字列をプロック内の左側に配置します。

〔〕 (中央寄せ) 文字列をプロック内の中央に配置します。

〔〕 (右寄せ) 文字列をプロック内の右側に配置します。

〔〕 (均等割付) 文字列をプロック内で均等に配置します。

〔〕 (横書き) 文字列を横書きにします。

〔〕 (縦書き) 文字列を縦書きにします。

〔〕 (白抜き) 文字を白抜きにします。

〔〕 (縁取り) 文字に縁取りを付けます。

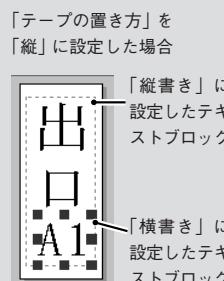
〔〕 (淡文字) 文字を淡い色にします。

〔文字の設定〕 「文字の設定」画面を表示し、フォントや装飾などの詳細を設定します。

参照☞P.47 「[文字の設定] 画面」

MEMO

- フォントや装飾は、テキストブロックを右クリックして「プロパティ」を選択しても変更できます。
- 文字サイズは、カドのハンドルをドラッグすると、縦横比を変えずに拡大、縮小できます。また、キーボードの<Shift>キーもしくは<Ctrl>キーを押しながらハンドルをドラッグすると、テキストブロックの大きさを自由に変更しながら拡大、縮小できます。
- 操作を間違えて編集した場合は、操作の直後であれば「編集」メニューの「元に戻す」または「(元に戻す)」で直前の状態に戻すことができます。
- テキストブロックを複数使うと、右図のように、縦書きと横書きが混在するラベルを作成することができます。



[文字の設定] 画面

[文字の設定]画面は、テキストブロックを選択して [文字の設定] をクリックまたは、テキストブロックを右クリックして [プロパティ] を選択すると表示されます。

[文字の設定] 画面



タブをクリックし、それぞれの項目を設定します。

設定の結果は、右側のイメージで確認できます([間隔] タブは除く)。

設定変更後、[OK] をクリックすると設定が反映され、レイアウト編集画面に戻ります。

[文字] タブ



フォント 書体を選択します。

サイズ 文字サイズを選択します。

スタイル 文字のスタイルを指定します。

字体 字体を指定します。長体は縦長に、平体は横長になります。

折り返して表示する

..... テキストブロック内で行を折り返すかどうか設定します。

[修飾] タブ



文字の色 文字の表面を選択します。

輪郭をつける ... 文字に輪郭をつけます。

輪郭 輪郭の太さを選択します。「任意指定」にすると、mmで指定できます。

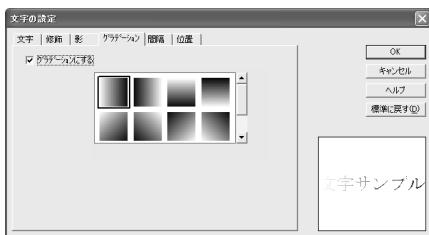
[影] タブ



影をつける 文字に影をつけます。

影の色 影の表面を選択します。

[グラデーション] タブ



グラデーションにする

..... 文字にグラデーションをつける場合にチェックし、グラデーションのパターンを選択します。

MEMO

グラデーションなどの修飾、文字サイズ、または画数の多い文字によっては、文字のつぶれが発生することがあります。

[間隔] タブ



文字間 文字と文字の間を指定します。

行間 行と行の間を指定します。

ベースライン .. 文字のベースラインの位置を指定します。

[位置] タブ



プロックの座標 テキストプロックの左上の位置を指定します。

プロックの大きさ ... テキストプロックのサイズを表示します。

ここでサイズを変更することはできません。

プロックの回転角 .. テキストプロックの回転角度を指定します。

MEMO

- 【位置】タブは、テキストプロックを右クリックして【プロパティ】を選択したときのみ表示されます。
- テキストプロックを選択しないで、字(文字の設定)をクリックしたときの【文字の設定】画面で変更した設定内容は、変更後に入力した文字すべてに反映されますが、アプリケーションを終了すると初期設定に戻ります。文字の設定の初期設定を変更したい場合は、【環境設定】画面([設定] - [環境設定]を選択)で変更できます。【環境設定】での変更内容は、次回のテキストプロック挿入時より反映されます。

●図形の描画・編集

図形の描画

ツールボタン  を利用すると、さまざまな図形を描画できます。

-  (直線) 直線を描きます。
-  (四角形) 四角形を描きます。
-  (正多角形) 正多角形を描きます。
-  (円) 円を描きます。

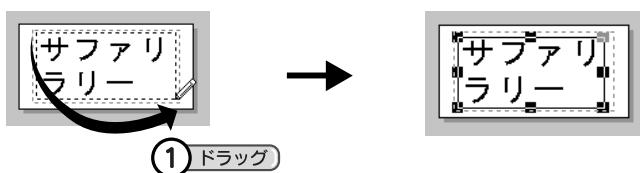
-  (扇形) 扇形、弓形、円弧を描きます。
-  (連続直線) 連続した直線で図形を描きます。
-  (自由線) フリー手で図形を描きます。
-  (ベジェ曲線) ベジェ曲線で図形を描きます。

例：四角形を描画する

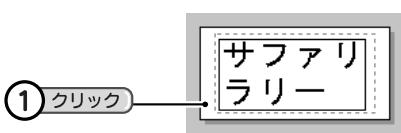
1 ツールバーの  (四角形) ボタンをクリックする



2 描画する始点から終点までマウスでドラッグする
四角形を描画できます。



3 図形以外の場所をクリックする
ハンドルが消えて図形が確定します。



MEMO

- 四角形の場合は、右上カドのハンドルをドラッグすると角の丸みを調整できます。
- 正多角形の場合は、手順①の操作後に開く[正多角形の設定]画面で多角形の角数と形を設定したあとに、描画できます。
- 図形を描画する線種や線の太さ、塗りつぶしなどは、ハンドル表示中に図形ツールバーで設定します。

線種

線の太さ

塗りつぶし

図形の設定



参照  P.50 「図形の編集」

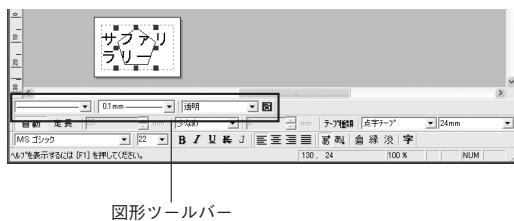
図形の編集

図形は、図形ツールバーで線の種類や表面の塗りつぶしを変更できます。

1 図形をクリックする

図形ブロックがハンドルつきで表示されます。

2 図形ツールバーの機能ボタンで装飾を指定する



図形ツールバー

_____ (線) 線の種類を選択します。

01mm (線の太さ) 線の太さを選択します。

透明 (塗りつぶし) ... 図形内の塗りつぶしの種類を選択します。

_____ (図形の設定) 「図形の設定」画面を表示し、線や塗りつぶし、形状などの詳細を設定します。

参照 [P.51 「\[図形の設定\] 画面」](#)

MEMO

- 線や塗りつぶしは、図形ブロックをダブルクリックして開く図形のプロパティ画面でも変更できます。図形のプロパティ画面は、図形を右クリックして表示される「プロパティ」コマンドでも開きます。参照 [P.51 「\[図形の設定\] 画面」](#)
- 塗りつぶしを指定した際、テキストブロックが隠れて見えなくなってしまった場合は、図形ブロックを背面に移動してください。
参照 [P.56 「前面・背面に移動する」](#)
- 操作を間違えた場合は、直後であれば「編集」 - 「元に戻す」で直前の状態に戻すことができます。

!! 注意 !!

塗りつぶしの多い図形は、印刷すると図形や文字にカスレが発生することがあります。

【図形の設定】画面

【図形の設定】画面は、図形を選択して  (図形設定) ボタンをクリック、図形ブロックをダブルクリックまたは右クリックして [プロパティ] を選択すると表示されます。

【図形の設定】画面



タブをクリックし、それぞれの項目を設定します。

設定の結果は、右側のイメージで確認できます。

設定変更後、[OK] をクリックすると設定が反映され、レイアウト編集画面に戻ります。

【線】タブ

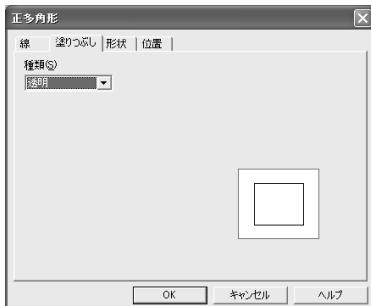


種類 線の種類を選択します。

太さ 線の太さを選択します。

矢印 線を矢印にする場合の形状を指定します。

【塗りつぶし】タブ



種類 図形の表面の模様を選択します。

[形状] タブ



[位置] タブ([図形のプロパティ] 画面のみ)



角丸正方形／角丸長方形

..... 角の丸みを%で指定します。

正多角形 形状と角数を指定します。星形の場合は比率も指定します。

扇形 扇形の形状を選択します。

ブロックの座標 図形ブロックの左上の位置を指定します。

ブロックの大きさ 図形ブロックのサイズを指定します。

ブロックの回転角 ... 図形ブロックの回転角度を指定します。

MEMO

- 【位置】タブは、図形ブロックをダブルクリックまたは、右クリックして【プロパティ】を選択したときのみ表示されます。
- 図形ブロックを選択しないで、□(図形の設定)をクリックしたときの【図形の設定】画面で変更した設定内容は、変更後に入力した図形すべてに反映されますが、アプリケーションを終了すると初期設定に戻ります。図形の設定の初期設定を変更したい場合は、【環境設定】画面([設定] - [環境設定]を選択)で変更できます。【環境設定】での変更内容は次回の図形挿入時より反映されます。

● ブロックを編集する

テキストブロックや图形ブロックは、位置を移動したり、同じものを複写することができます。また、重なって隠れている部分の前後を入れ替えたり、複数の要素の位置を揃えて並べることができます。

移動する

例：多角形を後ろに移動する

1 移動するブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。



2 ブロックをドラッグして位置を移動する



MEMO

- 操作を間違えた場合は、直後であれば【編集】 - 【元に戻す】で直前の状態に戻すことができます。
- ハンドルつきで表示されているブロックは、パソコンのカーソルキーで位置を移動できます。
- 打刻ブロックの上下位置は、上揃えまたは下揃えのみとなります。

複写する

ブロックをコピーして貼り付けると、同じものが複写できます。

例：多角形を後ろにコピーする

1 複写するブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

2 【編集】 - 【コピー】を選択する

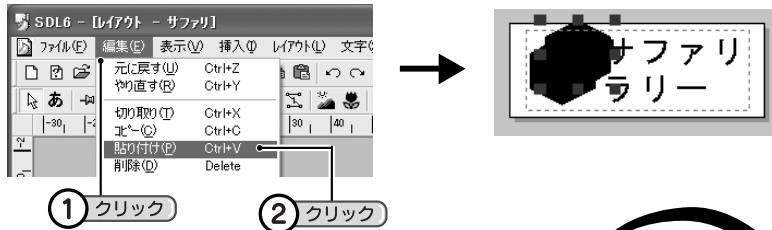
ブロックがクリップボードにコピーされます（表示は変わりません）。



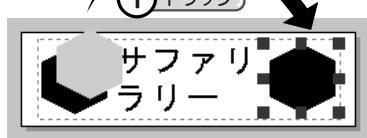
次へ進みます

③ [編集] - [貼り付け] を選択する

プロックがラベル上に貼りつけられます。



④ 貼りつけたプロックをドラッグして位置を移動する



MEMO

- 手順②で [コピー] の代わりに [切り取り] を選択すると、選択したプロックが削除されます。その後に [貼り付け] を選択すると、切り取ったプロックを貼りつけることができます。
- 手順③でさらに [貼り付け] を選択すると、複数のプロックを貼りつけることができます。
- 他のソフトでテキストや図形を [コピー] または [切り取り] したあと、このソフト上で [貼り付け] を選択すると、テープ上に貼りつけることができます。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば [編集] - [元に戻す] で直前の状態に戻すことができます。
- [コピー] や [貼り付け] などは、プロックを選択した状態で右クリックをしても表示されます。
- コピーするプロックを選択したあと、パソコンのキーボードの<Ctrl>キーを押しながらプロックをドラッグしてもコピーできます。
- 打刻プロックはコピーできません。

回転する

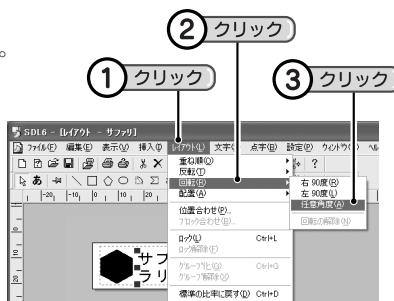
例：テキストプロックを任意の角度に回転する

① 回転させたいプロックをクリックする

プロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

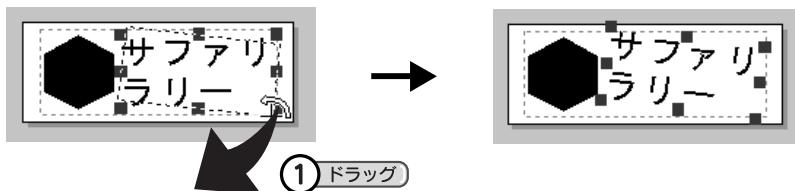
② [レイアウト] - [回転] - [任意角度] を選択する

回転が指定できるようになります(マウスカーソルをハンドルに近づけると、矢印に変わります)。



③ ハンドルをドラッグして回転させる

マウスを離すと、回転角度が固定されます。



MEMO

- 手順②で【回転】 - 【右90度】や【左90度】を選択すると、右または左に90度回転します(手順③の操作は不要です)。
- 手順③の操作のあとでさらに回転したいときは、再度手順②の操作をします。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば【編集】 - 【元に戻す】で直前の状態に戻すことができます。また、【レイアウト】 - 【回転】 - 【回転の解除】を選択しても元に戻ります。
- 打刻ブロックは回転できません。

反転する

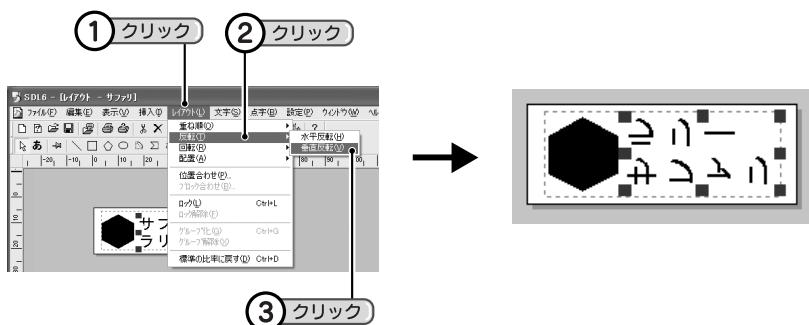
例：テキストブロックを垂直反転する

① 反転するブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

② 【レイアウト】 - 【反転】 - 【垂直反転】を選択する

上下に反転します。



MEMO

- 手順②で【反転】 - 【水平反転】を選択すると、左右に反転します。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば【編集】 - 【元に戻す】で直前の状態に戻すことができます。
- 打刻ブロックは反転できません。

前面・背面に移動する

プロックが重なって隠れてしまった場合、それぞれのプロックを背面や前面に移動することができます。

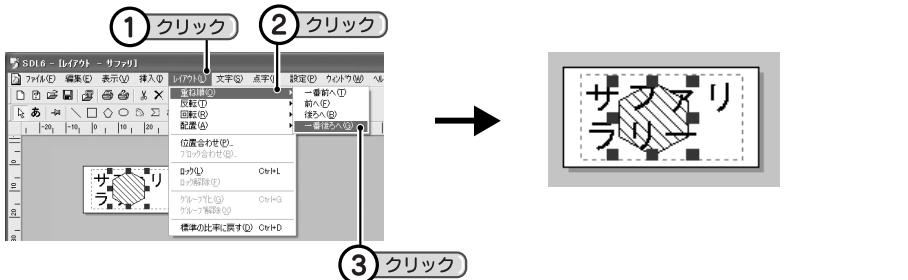
例：図形プロックをテキストプロックの背面に移動する

① 移動するプロックをクリックする

プロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

② [レイアウト] - [重ね順] - [一番後ろへ] を選択する

図形プロックがテキストプロックの背面になります。



一番前へ	選択されているプロックを、重なっている図形の最前面に移動します。
前へ	選択されているプロックを、重なっている中で1段階だけ前面に移動します。
後ろへ	選択されているプロックを、重なっている中で1段階だけ背面に移動します。
一番後ろへ	選択されているプロックを、重なっている図形の最背面に移動します。

MEMO

- 手順②で「[後ろへ]」を繰り返しあなても同じ結果になります。
- 手順①でテキストプロックを選択し、手順②で「[一番前へ]」を選択しても同じ結果になります。
- プロックの前後関係によっては、背面のプロックをマウスで選択できない場合があります。この場合は、前面のプロックを「[後ろへ]」移動するなどすれば、選択できるようになります。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば「[編集] - [元に戻す]」で直前の状態に戻すことができます。
- 特に設定しない場合、プロックは作った順に上に重なります。
- 前後の移動コマンドは、プロックを選択した状態で右クリックをしても表示されます。
- 打刻プロックの重ね順は「[点字]」メニューで指定します。

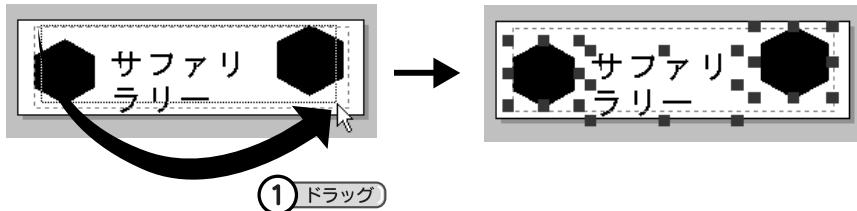
参照☞P.41「打刻プロックを前面・背面に移動する」

位置を揃える

例：各ブロックの上下中央を指定した位置（またはブロック）に揃える

① すべてのブロックをマウスでドラッグして囲む

すべてのブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。



MEMO

パソコンのキーボードの<Shift>キーを押しながら各ブロックをクリックしても、複数のブロックを選択できます。すべてのブロックを選択する場合は、[編集] - [全体選択]を選択します。

② [レイアウト] - [位置合わせ]（または[ブロック合わせ]）を選択する

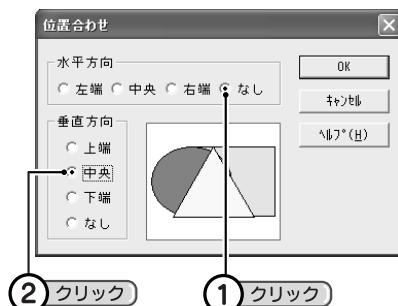
[位置合わせ]画面（または[ブロック合わせ]画面）が表示されます。



③ 水平方向と垂直方向の位置を選択する

上下の中央に揃える場合は、水平方向を「なし」、垂直方向を「中央」にします。

中央のラベルイメージの位置が変わります。



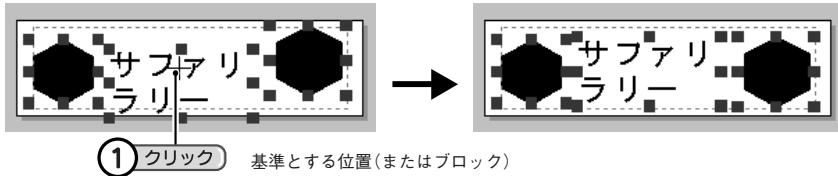
④ [OK] をクリックする

レイアウト編集画面に戻ります。

次へ進みます

⑤ 基準とする位置(またはブロック)をクリックする

選択している他のブロックが基準に対し、指定した条件で揃います。



MEMO

- 各ブロックをラベルの上下中央で揃えるときは、手順②で [レイアウト] - [配置] - [上下中央] を選択します。[配置] コマンドには、この他、次の機能があります。
 - 左右中央 ラベルの左右中央に揃えます(テープ長「定長」設定時のみ)。
 - 水平等間隔 左右の間隔がすべて同じになるよう配置します。
 - 垂直等間隔 上下の間隔がすべて同じになるよう配置します。
 - テープの先端 選択したブロックを印刷範囲(赤い点線)の左端に配置します。
 - テープの末端 選択したブロックを印刷範囲(赤い点線)の右端に配置します。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば [編集] - [元に戻す] で直前の状態に戻すことができます。
- [位置合わせ] や [ブロック合わせ] は、ブロックを選択した状態で右クリックをしても表示されます。
- 打刻ブロックの位置合わせは [点字] メニューで指定します。

参照☞P.42「打刻ブロックの位置を揃える」

ブロックをロックする

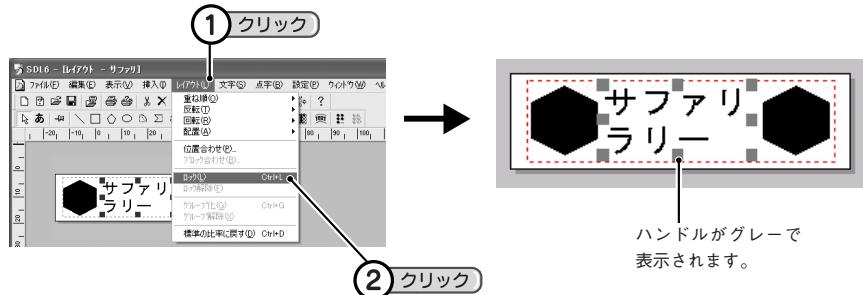
テキストブロックや図形ブロックをロックすると、そのブロックが編集できなくなります。誤って変更すると困る内容は、ロックしておくと安心です。

① ロックしたいブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

② [レイアウト] - [ロック] を選択する

選択しているブロックがロックされ、編集できなくなります。



MEMO

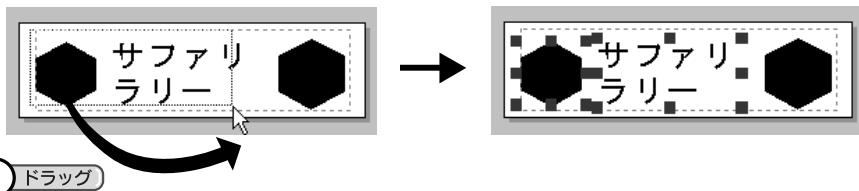
- ロック中のブロックは、選択したときのハンドルがグレーで表示されます。
- ロックを解除するには、ブロックを選択し、[レイアウト] - [ロック解除] を選択します。

ブロックをグループ化する

複数のブロックをグループ化すると、一体のブロックとして編集できるようになります。まとめて位置やサイズを変更したい場合などに便利です。

① グループ化したいブロックをマウスでドラッグして囲む

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

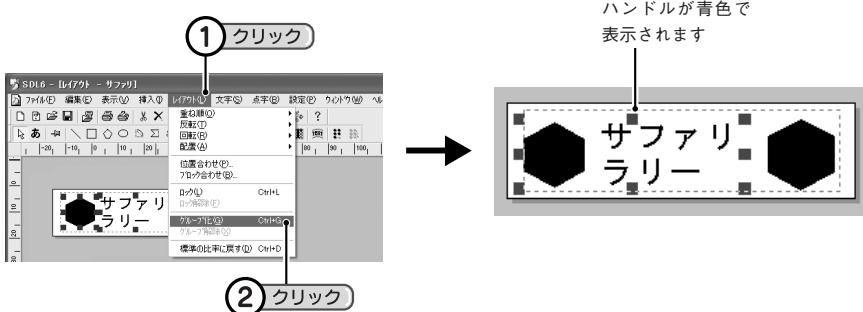


MEMO

- パソコンのキーボードの<Shift>キーを押しながら各ブロックをクリックしても、複数のブロックを選択できます。
- すべてのブロックを選択する場合は、[編集] – [全体選択] で選択できます。

② [レイアウト] – [グループ化] を選択する

選択しているブロックがグループ化されます。



MEMO

- グループ化したブロックは、選択したときのハンドルが青色で表示されます。
- グループを解除するには、ブロックを選択し、[レイアウト] – [グループ解除] を選択します。
- 打刻ブロックはグループ化できません。

削除する

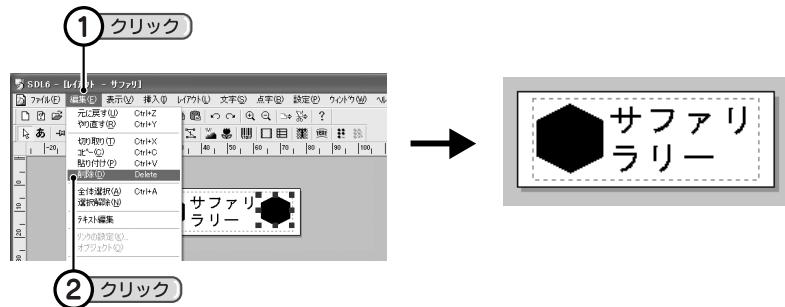
例：後ろの図形ブロックを削除する

① 削除するブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

② [編集] - [削除] を選択する

選択していたブロックが削除されます。



MEMO

- 手順②でパソコンのキーボードの<Delete>キーを押しても削除できます。
- 手順②で【編集】-【切り取り】を選択しても削除できます。
- すべてのブロックを削除する場合は、【編集】-【全体選択】で全ブロックを選択してから削除します。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば【編集】-【元に戻す】で直前の状態に戻すことができます。

●流し込み機能

流し込み操作の流れ

専用エディタでは、あらかじめ作っておいたデータの項目をラベルにレイアウトして印刷する機能があります。住所録からあて名ラベルを作るときなどに便利です。

① データ作成

流し込み用のデータは、データ作成画面で作成します。

専用エディタでデータ作成画面を開き、住所など必要な項目を入力します。

データ作成画面に他のアプリケーションで作った「.xls形式」や「.csv形式」のデータを読み込むこともできます。

参照☞P.62 「データを新規作成する」

② 流し込み(レイアウト操作)

データ作成画面のデータをレイアウト編集画面のラベル上に列単位で流し込み、レイアウトします。

参照☞P.65 「データを流し込む」



③ 印刷

印刷します。

データが行ごとに流し込まれ、指定したデータのラベルが印刷されます。

参照☞P.66 「データを流し込み印刷する」

データを新規作成する

データ作成画面を開き、流し込み用のデータを新規に作成します。

① 【新規作成】画面で、【データ作成ウィンドウを開く】を設定する

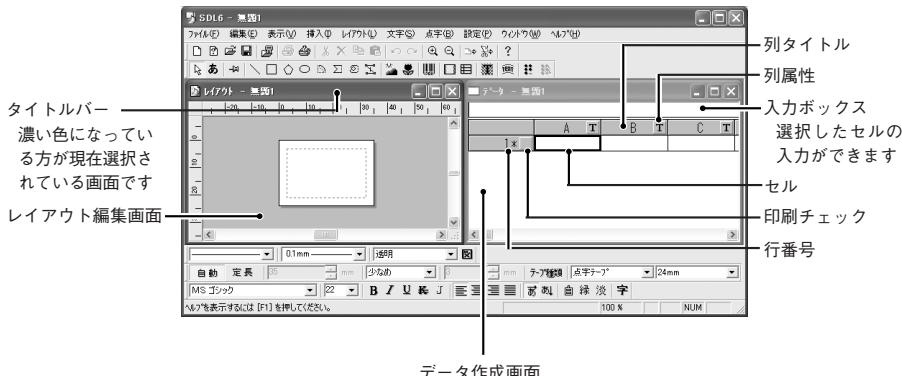
【新規作成】画面で、【データ作成ウィンドウを開く】のチェックボックスにチェックを入れて[OK]をクリックします。

参照☞P.21「新規作成」

レイアウト編集画面で【ウィンドウ】→【データ作成ウィンドウを開く】を指定しても開くことができます。

データ作成画面が表示されると、データを入力できます。

参照☞P.64「データを入力する」



セル	データを入力する枠です。選択しているセルには太い枠ができます。
列タイトル	その列のタイトルをつけられます。 タイトルをつけない場合は、A、B…となります。
列属性	その列のデータの種類を示します。 属性には、以下の種類があります。 ■ (テキストデータ) ■ (点字入力列) ■ (点訳列) ■ (イメージデータ) ■ (バーコード) ■ (カスタマバーコード) 参照☞P.71「テキスト以外のデータを入力する」
行番号	何行目かを示します。選択している行には「*」ができます。
印刷チェック	流し込み印刷時に、チェックマークをつけた行のみ印刷することができます。打刻ロックがある場合は、チェックマークをつけることはできません。

MEMO

- カスタマバーコードの表記方法や住所表示番号については、「カスタマバーコードについて」を参照してください。
参照☞P.95「カスタマバーコードについて」
- 点字入力については「点字を入力する」を参照してください。
参照☞P.74「点字を入力する」

既にあるデータを読み込む

既に専用エディタや市販のアプリケーションで作ってあるデータを読み込んで利用することができます。

① [ファイル] - [データ読み込み] を選択する

[データ読み込み] 画面が表示されます。



② ファイルを指定して [開く] をクリックする

[データ読み込み] 画面にファイルがない場合は、「ファイルの場所」の ▾ や ▶などをクリックして、保存した場所を表示させます。



③ Excelファイルの場合は、シート名を選択し、[OK] をクリックする

「.csv形式」、「.txt形式」の場合はこの手順は不要です。

データ作成画面が表示され、データを流し込めます。
参照☞P.65 「データを流し込む」



MEMO

- 読み込むデータは、「.xls形式(Excelで作成したデータ)」、「.txt形式」、「.csv形式(カンマ区切りのテキスト)」のファイルです。また、「.xls形式」のデータを読み込むにはMicrosoft® Excelが必要です。
- 読み込むデータは、行数が最大32,767行、列数が最大64列です。
- 既にデータ作成画面にデータが入力されているときは[読み込み方法の選択]画面が表示されますので、読み込み方法を選択してください。
- 列属性が点字になっている状態で読み込む場合にも、[読み込み方法の選択]画面が表示され、データを追加するか、置き換えるか選択できますが、このとき[現在のデータに追加する]を選択すると、入力列／点訳列属性の列のデータは読み込まれません。
- Excelファイルを読み込む場合は、以下の点に注意してください。
 - 読み込みできるデータは、Microsoft® Excel5.0/7.0/95/97/2000/2002/2003のファイルです。
 - シート名、列のタイトルの1文字目にスペースは使用できません。
 - データは2行目から認識します。1行目には A1から列のタイトルを入力してください。
 - 1行目の列のタイトルは、列タイトルとして読み込まれます。
 - タイトルがついていても、データの入力されていない列は読み込まれません。
 - Excelの表示形式で指定した日付や通貨表示等は読み込まれません。
 - 数値データは、桁数が多いと指数表示や異なる値で読み込まれる場合があります。
Excelでセルの表示形式を文字列として入力したデータをお使いください。
 - セルの表示形式が「数値」のものと「文字列」のものが複雑に混在しているデータを読み込む場合、一部のセルの値が読み飛ばされることがあります。このようなデータを読み込む際には、そのシートを「.csv形式」で保存してから使用してください。
 - 保存時に既存のファイル名を指定した場合、ファイルそのものが上書きされます。

データを入力する

データ作成画面にデータを入力します。

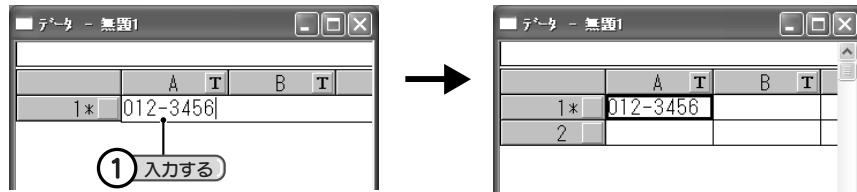
例：あて名ラベル用の住所データを作る

1 データ作成画面が表示されていないときは [ウィンドウ] - [データ作成ウィンドウを開く] を選択する
参照☞P.62「データを新規作成する」

2 1行目の最初の列をダブルクリックしてデータを入力する

ダブルクリックすると、セル内にカーソルが表示されて入力できます。

入力後<Enter>キーを押すか、入力したセル以外の場所をクリックすると、自動的に2行目が表示されます。



MEMO

データ入力は、セルを選択してから [編集] - [データ入力] を選択しても入力できます。また、入力ボックスでも入力できます。

3 同様に、2列目以降を入力し、1行目を完成する



MEMO

文字(テキストデータ)以外を入力する場合は列属性を変更します。

参照☞P.71「テキスト以外のデータを入力する」

4 同様に、2行目以降を入力し、データを完成する
作ったデータはラベルに流し込んで印刷できます。



5 データ流し込み作業をおこない、ラベルを印刷する
参照☞P.65「データを流し込む」
参照☞P.66「データを流し込み印刷する」

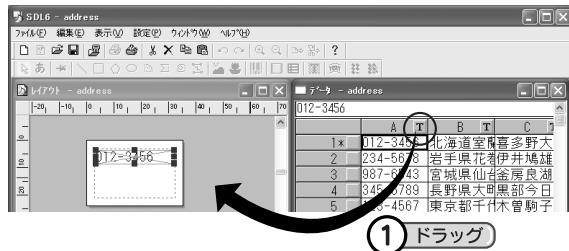
データを流し込む

作ったデータや読み込んだデータをラベル上にレイアウトすると、自動的にデータが流し込まれます。

例：あて名ラベルをレイアウトする

1 ラベルに流し込みたい列の属性アイコンをドラッグし、ラベル上に移動する

属性アイコンにマウスカーソルを合わせてドラッグすると、カーソルが手の形に変わります。ラベル上にデータが流し込まれ、流し込み枠が表示されます。



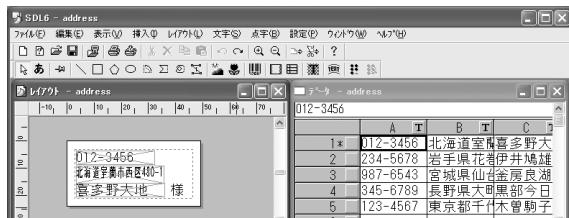
!! 注意 !!

- 点字属性のデータを流し込む場合、 (点字入力列)、 (点訳列)のどちらをドラッグしても同じ流し込み枠が表示されます。
- 点字属性のデータを複数個挿入することはできません。既に打刻ブロックがある場合は、点字属性のデータを流し込むことはできません。

2 同様に、必要な列の属性アイコンをドラッグする

3 流し込み枠の位置とサイズを変更してレイアウトする

移動やサイズ変更は、テキストブロックや図形ブロックの操作と同じです。



MEMO

データの流し込みは、レイアウト編集画面を選択した状態で [挿入] - [流し込み枠] を選択し、表示される [流し込みデータ選択] 画面で列を選択して [OK] をクリックしても流し込めます。

!!注意!!

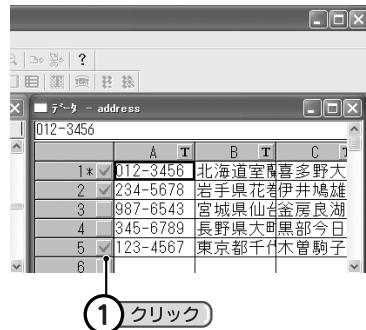
流し込み枠の文字サイズは、流し込み枠を超える大きさに設定することはできません。流し込み枠を超える大きさに設定する場合は、流し込み枠のハンドルをドラッグして流し込み枠の大きさを変更してください。

データを流し込み印刷する

① 印刷する行に印刷チェックマークをつける

行番号の右側のボックスをクリックしてチェックマークをつけてます。

すべての行を印刷するときはチェックマークは不要です。



!!注意!!

打刻ブロックがある場合は、チェックマークをつけることはできません。

② レイアウト編集画面をクリックして選択し、

〔印刷〕をクリックする

[印刷] 画面が表示されます。

① クリック



!!注意!!

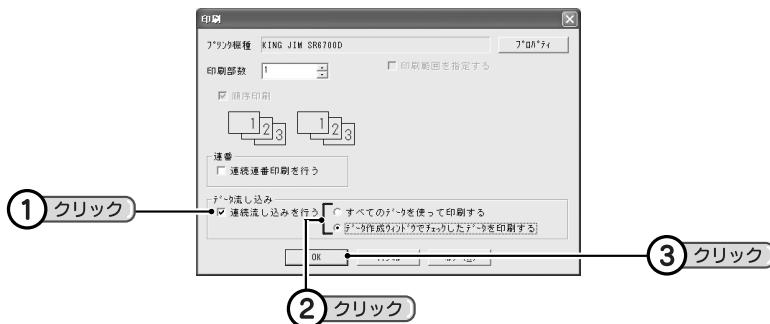
〔印刷〕は、レイアウト編集画面が選択されていないとクリックできません。

③ データ流し込み印刷条件を指定して印刷する

「連続流し込みを行う」にチェックマークをつけます。

印刷チェックマークをつけた行のみを印刷するときは、「データ作成ウィンドウでチェックしたデータを印刷する」を選択してから印刷します。

すべての行を印刷するときは、「すべてのデータを使って印刷する」を選択してから印刷します。
参照☞P.31「印刷する」



!! 注意 !!

点字属性の列がある場合は、「連続流し込みを行う」を指定できません。レイアウト編集画面に表示されたラベルを1枚ずつ印刷してください。

データを保存する

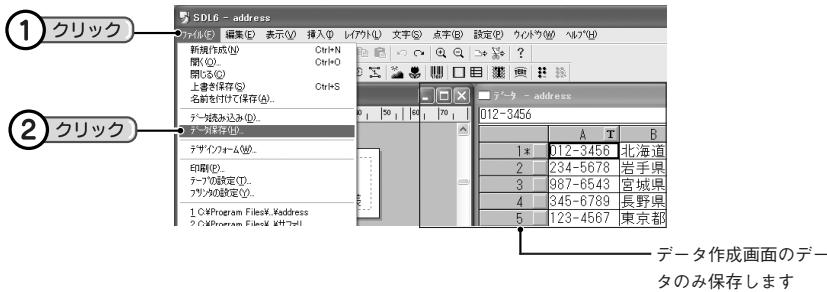
作ったデータは、データのみを保存する方法(「.xls形式」、「.txt形式」、「.csv形式」)と、レイアウトしたラベルごと保存する方法(「.td1形式」、「.tpc形式」、「.tpb形式」、「.tpa形式」)があります。

データのみ保存する

データ作成画面に入力したデータのみ保存します。

① [ファイル] - [データ保存] を選択する

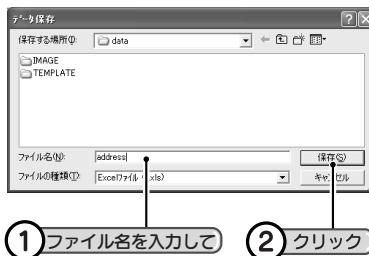
[データ保存] 画面が表示されます。



② ファイル名を入力して [保存] をクリックする

データ入力画面部分が保存されます。

「保存する場所」の ▾ や []などをクリックして、保存場所を変更することもできます。



MEMO

- 保存できるファイルの形式は、「.xls形式(Excelで作成したデータ)」、「.txt形式」、「.csv形式(カンマ区切りのテキスト)」のファイルです。
- 「.xls形式」で保存すると、列タイトルが1行目のデータとして保存されます。「.csv形式」、「.txt形式」の場合、列タイトルは保存されません。
- 保存したデータを読み込むときは、[ファイル] - [データ読み込み] でファイルを指定します。
- [ファイル] - [データ保存] では、レイアウトしたラベルは保存されません。

すべて(データとレイアウトしたラベル)を保存する

ラベルを保存する操作と同様、[ファイル] - [上書き保存] または [名前を付けて保存] で保存すると、ラベルレイアウトにデータを含めた状態で保存されます。

参照☞P.34「文書を保存する」

行や列を挿入する

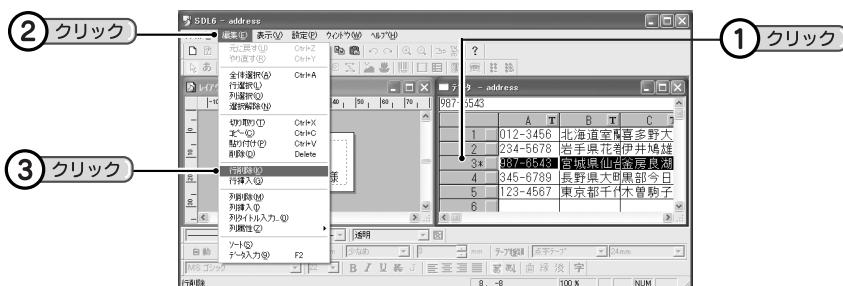
1 挿入位置の直後の行または列をクリックして選択し、[編集] の [行挿入] または [列挿入] を選択する

行または列が挿入されます。



行や列を削除する

1 削除する行または列をクリックして選択し、[編集] の [行削除] または [列削除] を選択する
選択した行または列が削除されます。



MEMO

- 【貼り付け】コマンドでデータを貼りつけると、そのセルの元のデータは削除され、貼りつけたデータになります。ただし、点字属性列への貼り付けはできません。
- 行全体を選択して[削除]すると、その行そのものが削除されます(行削除と同様の結果になります)。列全体を選択して[削除]しても、セル内のデータのみ削除し、列は空白のまま残ります。
- 点字の入力列、点訳列は、どちらか一方の列を削除すると、両方の列が削除されます。

行を並び換える(ソート)

行の表示順を郵便番号順やフリガナの読み順などに並び換えることができます。

例：郵便番号が数字順（JIS コード順）になるように並び換える

1 [編集] - [ソート] を選択する

[ソート] 画面が表示されます。



2 「並び」と「優先順位」を選択する

「並び」では並び換える順番を選択します。「優先順位」では、並び換えのキーワードになる列を選択します。

ここでは、郵便番号が入力してある「A列」を選択します。



MEMO

第2優先、第3優先は、第1優先の列に同じ内容のセルがあるときのキーワードになります。

3 [OK] をクリックする

データが並び換えられます。



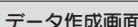
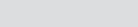
テキスト以外のデータを入力する

データには、住所や名前などのテキスト(文字)だけでなく、イメージやバーコードなどのデータを入力することができます。

テキスト以外のデータを入力するには、列属性を変更する必要があります。

列属性を変更する

変更できる列属性には、以下のものがあります。

 (テキスト) 参照  P.64	文字データを表示できます。	
	 データ作成画面	住所や名前などの文字を入力します。
	 レイアウト編集画面	データ作成画面で入力した内容を表示します。
 (点字入力)  (点訳) 参照  P.74	点字を表示できます。	
	 データ作成画面	「入力列」に文字を入力します。
	 レイアウト編集画面	「点訳列」には点訳の結果が表示されます。
 (イメージ) 参照  P.72	画像などのイメージを表示できます。	
	 データ作成画面	画像などのイメージデータの保存先を指定します。
	 レイアウト編集画面	データ作成画面で指定したイメージを表示します。
 (バーコード) 参照  P.73	バーコードを表示できます。	
	 データ作成画面	指定したバーコードの数字(または英数字)を入力します。
	 レイアウト編集画面	データ作成画面で入力したバーコードを表示します。
 (カスタマバーコード) 参照  P.73	カスタマバーコードを表示できます。	
	 データ作成画面	カスタマバーコードの書式で数字を入力します。
	 レイアウト編集画面	データ作成画面で入力したカスタマバーコードを表示します。

MEMO

- 指定できるバーコードの種類は、[挿入] – [バーコード] で指定するバーコードと同じです。
参照  P.92 「バーコードを挿入する」
- カスタマバーコードは、[挿入] – [カスタマバーコード] で指定するカスタマバーコードと同じ要領で指定します。
参照  P.95 「カスタマバーコードを挿入する」
- カスタマバーコードは20桁まで入力可能です。21桁以上入力されたセルを指定すると、21桁目以降の数字はカスタマバーコードに反映されません。

① 属性を変更する列をクリックして選択し、[編集] - [列属性] で属性を選択する
 変更すると、列の属性アイコンが変わります。
 バーコードのときは、バーコードの種類も選択します。



② 同様の操作で他の列も変更する



イメージファイルを入力する

① 列属性をイメージに変更する

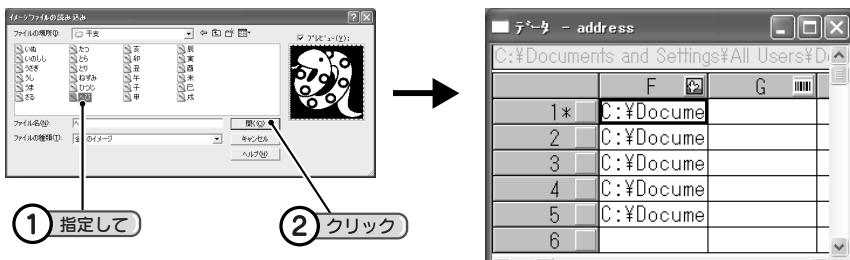
[編集] - [列属性] - [イメージ] を選択します。

参照 [P.71 「列属性を変更する」](#)

② ファイルを指定する

セルをダブルクリックすると、[イメージファイルの読み込み]画面が開いてイメージファイルを指定できます。

セル内には、イメージデータの保存先とファイル名が表示されます。



[イメージファイルの読み込み] 画面にファイルがない場合は、「ファイルの場所」の ▾ や □ などをクリックして、保存場所を表示させます。

!!注意!!

イメージファイルを指定した保存先から移動や削除をおこなうと、反映できなくなります。

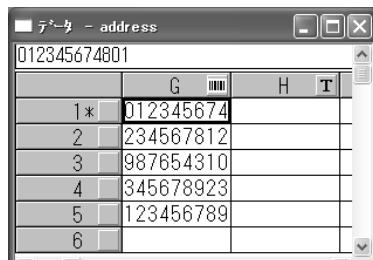
バーコードを入力する

① 列属性をバーコードに変更する

[編集] - [列属性] - [バーコード] でバーコードの種類を選択します。
参照 [P.71 「列属性を変更する」](#)

② データを入力する

バーコードの数字を入力します。
レイアウト編集画面に流し込むとバーコードに変換されます。



The screenshot shows a data entry window titled 'address'. The data is as follows:

	G	H	I
1*	012345674		
2	234567812		
3	987654310		
4	345678923		
5	123456789		
6			

MEMO

バーコードの種類により入力できる桁数や文字が異なります。詳細は「バーコードの設定項目」を参照してください。
参照 [P.94 「バーコードの設定項目」](#)

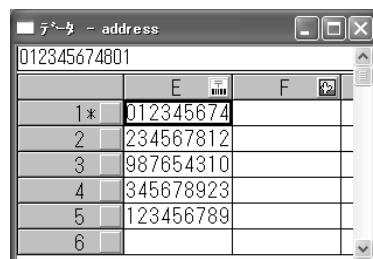
カスタマバーコードを入力する

① 列属性をカスタマバーコードに変更する

[編集] - [列属性] - [カスタマバーコード] を選択します。
参照 [P.71 「列属性を変更する」](#)

② データを入力する

カスタマバーコードの数字を入力します。
レイアウト編集画面に流し込むとカスタマバーコードに変換されます。
カスタマバーコード入力時、郵便番号の一(ハイフン)は入力しないでください。



The screenshot shows a data entry window titled 'address'. The data is as follows:

	E	F	G
1*	012345674		
2	234567812		
3	987654310		
4	345678923		
5	123456789		
6			

MEMO

カスタマバーコードの表記方法や住所表示番号については、「カスタマバーコードを挿入する」を参照してください。
参照 [P.95 「カスタマバーコードを挿入する」](#)

点字を入力する

データ作成画面で点字を入力するには、列属性を点字にし、点字の入力列と点訳列を準備します。

MEMO

属性を点字に変更する場合、入力列と点訳列の2列が必要になります。あらかじめ、どの列を使用するか確認してください。

1 列属性を点字に変更する

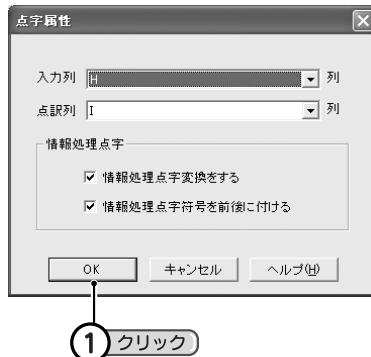
【編集】 - 【列属性】 - 【点字】 を選択します。

点字属性画面が表示されます。

参照 [P.71 「列属性を変更する」](#)

2 入力列と点訳列を指定して【OK】をクリックする

列属性変更の確認画面が表示されます。



3 【はい】をクリックする

指定した列が点字列になります。



!! 注意 !!

- すでにデータが入力されている列を指定すると、入力列に指定した列は点訳原文として扱われ、点訳列に指定した列に点訳結果が表示されます。先に点訳列に入力されていたデータは破棄されますので、注意してください。また点字にしたときに40マス以上になる場合は、データが削除されます。
- 列属性の変更によって、ラベル上に打刻ブロックが複数になる場合は、点字属性の流し込みブロック1つのみになります。

④ 入力列のセルをダブルクリックする

[点字編集(流し込みデータ)] 画面が表示されます。

	H	I	J
1*			
2			
3			
4			
5			
6			

1

ダブルクリック

⑤ 入力行に文章を入力し、 (点訳) をクリックする

点訳行に自動点訳の結果が表示されます。

点訳が適切でない場合は、ここで修正してください。



1

クリック

⑥ [保存] をクリックする

点訳列に点訳の内容が入力されます。



1

クリック



	H	I	J
1*	喜多野大地	キタノ	タ
2			
3			
4			
5			
6			

MEMO

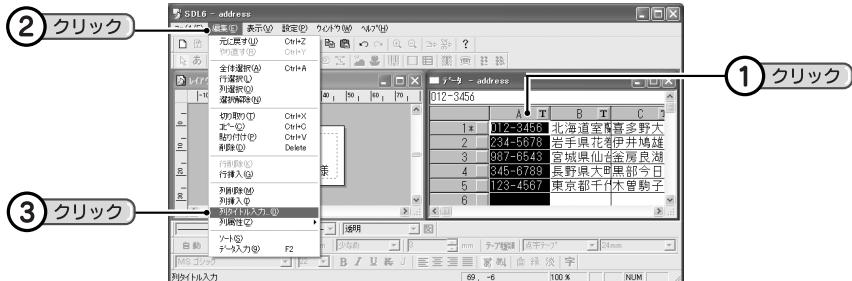
[点字編集(流し込みデータ)] 画面の操作は [点字編集] 画面と同じで、[点字内容確認] での直接入力、[ユーザー辞書] での点訳語句登録ができます。

参照 ↴ P.35 「点字の入力・編集」

列のタイトルを変更する

分類しやすいうように列のタイトルを変更できます。

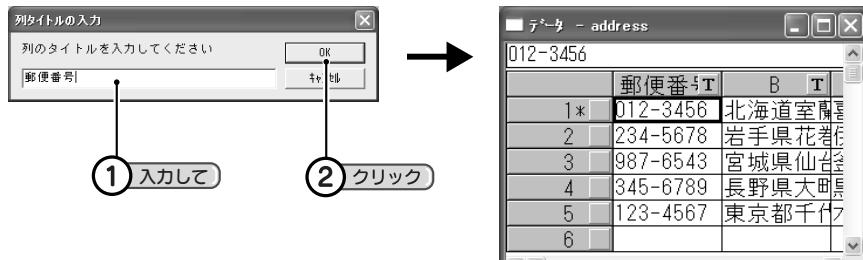
① A列をクリックして選択し、[編集] - [列タイトル入力] を選択する
[列タイトルの入力] 画面が表示されます。



MEMO

[列タイトルの入力] コマンドは、列を選択した状態で右クリックをしても表示されます。

② 列タイトルを入力して [OK] をクリックする
列タイトルが変更されます。



③ 同様の操作でB列以降も変更する

●貼り合わせラベルを印刷する(貼り合わせ印刷)

ラベル2~8枚を貼り合わせて、約2~8倍の幅のラベルを作ることができます。
DLテープ(点字テープ)では、貼り合わせ印刷を指定できません。

貼り合わせラベルを作成する

貼り合わせ印刷をするには、テープ幅の倍率を設定します。

① 専用エディタ「PCラベルシステム SDL6」を起動する

【新規作成】画面が表示されます。

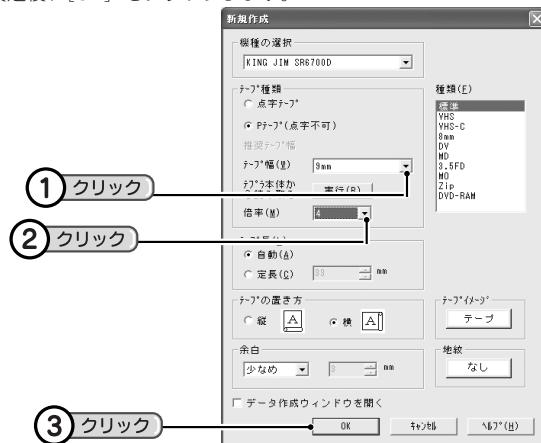
MEMO

レイアウト編集画面から【新規作成】画面を開くときは、【ファイル】—【新規作成】を選択するか、標準ツールバーの□(新規ファイル)をクリックします。

② 【新規作成】画面でテープ種類とテープ幅、倍率を設定する

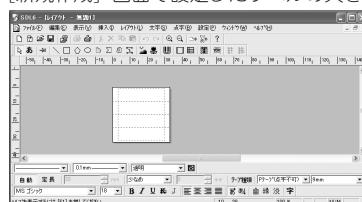
【倍率】の項目では貼り合わせたい枚数(1~8)を設定します。

設定後、【OK】をクリックします。



③ ラベルの内容を入力する

【新規作成】画面で設定したラベルの大きさに合わせて文字や記号、イラストなどを入力します。



貼り合わせラベルを印刷する

① (印刷)をクリックする

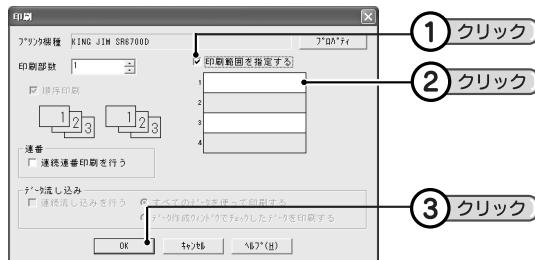
[印刷] 画面が表示されます。



② 印刷を指定する

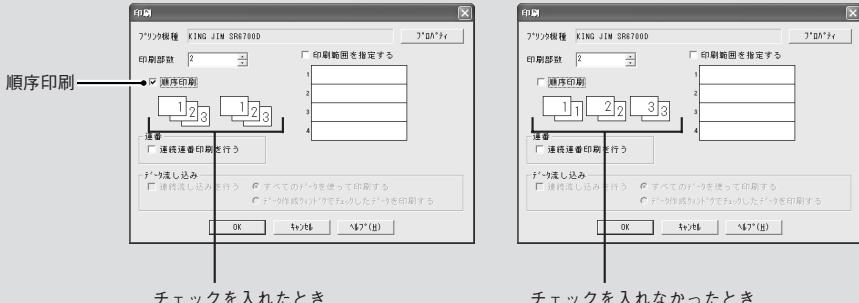
全体を印刷する場合はそのまま [OK] をクリックします。

ラベルの一部分を印刷する場合は、「印刷範囲を指定する」にチェックマークをつけ、印刷するラベルをクリックして指定します。



MEMO

- 貼り合わせるラベルそれぞれを、同じ幅の違う色のテープに印刷するとカラフルなラベルを作れます。ただし違う色のテープで印刷をおこなうと、長さが若干異なる場合があります。また、テープカートリッジを入れ換えるときにはテープをセットしたあとに、必ずテープ送りをおこなってください。
- 順序印刷の項目は、貼り合わせラベルの印刷時に「印刷部数」で複数枚数を指定したときに設定できます。チェックマークをつけると、1列目、2列目…とデータ順に印刷します。チェックマークをはずすと、同じ列を指定枚数分続けて印刷してから次の列を印刷します。



- 貼り合わせラベルを貼り合わせたとき、多少のズレが生じことがあります。
- 貼り合わせるラベルには、それぞれ上下に余白があります。上下の余白をカッターなどで切り、貼り合わせてください。

●地紋を挿入する

ラベルの背景に、地紋を入れられます。

あらかじめ用意された地紋から選ぶ

① [地紋]をクリックする

[地紋選択]画面が表示されます。

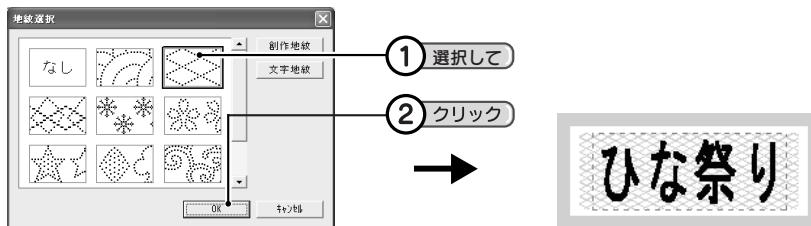


MEMO

[地紋選択]画面は、[ファイル]—[テープの設定]で表示される[テープ設定]画面で[地紋]をクリックしても表示されます。

② 挿入する地紋を選択し、[OK]をクリックする

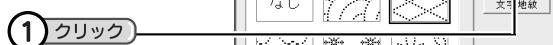
ラベルの背景に地紋が挿入されます。



創作地紋を作る

① [地紋選択]画面で「創作地紋」をクリックする

[創作地紋]画面が表示されます。



② [新規作成]をクリックする

[地紋編集]画面が表示されます。



次へ進みます

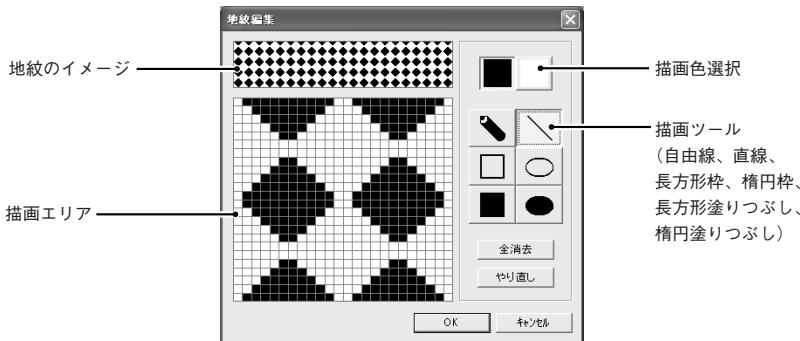
MEMO

- 既に作ってある地紋を変更するときは【編集】をクリックします。
- 作った地紋をラベルに挿入するときは、一覧から選択します(手順⑤)。
- 全面を塗りつぶした創作地紋は、印刷結果にムラが生じることがあります。

③ 地紋の模様を描く

描画エリアに模様を描きます。

描画色選択で色を選んだあと、ツールを選び、描画エリアのドットを塗りつぶします。

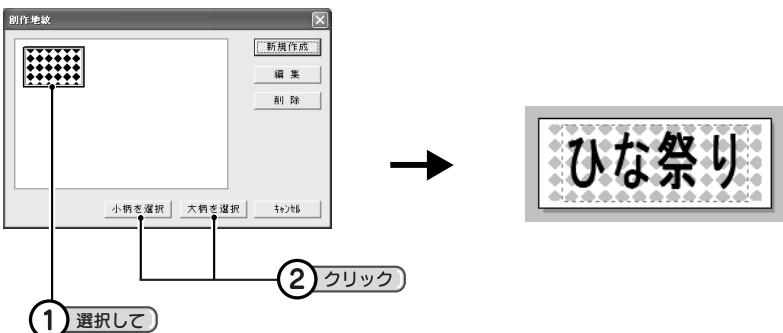


④ [OK] をクリックする

創作地紋のリストに登録されます。

⑤ 挿入する地紋を選択し、【小柄を選択】または【大柄を選択】をクリックする

ラベルの背景に地紋が挿入されます。



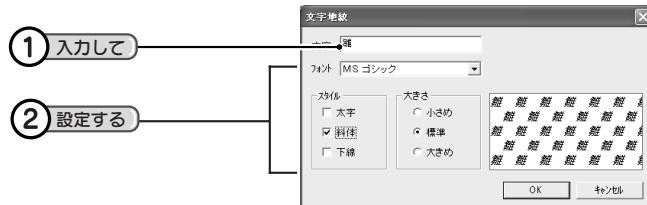
文字地紋を作る

① [地紋選択] 画面で [文字地紋] をクリックする

[文字地紋] 画面が表示されます。

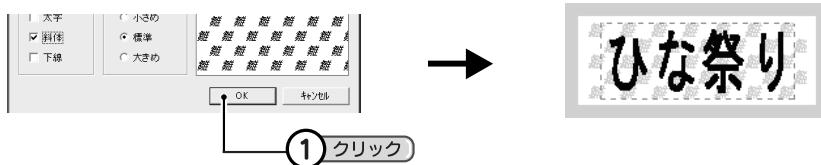


② 文字を入力し、各項目を設定する



③ [OK] をクリックする

ラベルの背景に地紋が挿入されます。



MEMO

文字の大きさ、または画数の多い文字によっては、文字のつぶれが発生することがあります。

○表組みを挿入する

表組み機能を使うと、カンタンに表組みを挿入することができます。

1 (表組み)をクリックする

[表組み] 画面が表示されます。

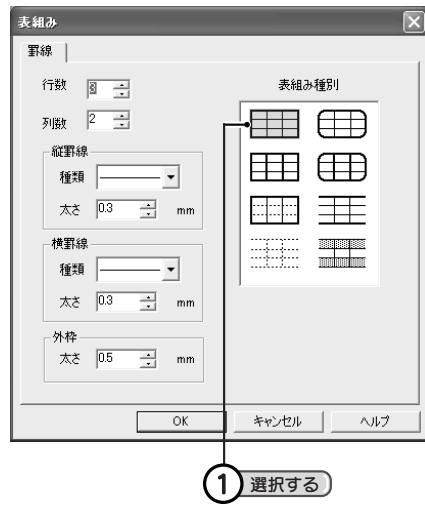
[挿入] - [表組み] を選択しても表示されます。



2 内容を指定する

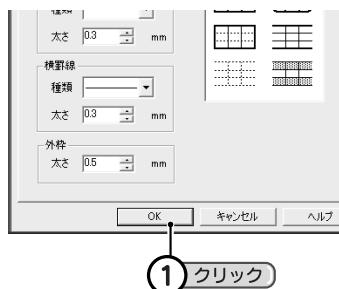
右側の「表組み種別」で表のスタイルを選択し、行数と列数を指定します。各罫線の種類や太さも変更できます。

表組み種別 .. 表組みのスタイルを指定します。
行数 表の行数を指定します。
1~20の範囲で指定します。
列数 表の列数を指定します。
1~20の範囲で指定します。
縦罫線 縦罫線の種類や太さを指定します。
0.1~5.0の範囲で指定します。
横罫線 横罫線の種類や太さを指定します。
0.1~5.0の範囲で指定します。
外枠 外枠の太さを指定します。
0.1~5.0の範囲で指定します。



3 [OK] をクリックする

ラベル幅に合わせて表組みが挿入されます。



4 サイズや位置を決める

ハンドルつきの状態でサイズや位置を変更できます。

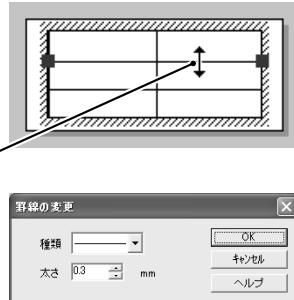
表組み以外の場所をクリックすると、表組みのサイズや位置が確定します。

表組みをクリックすると、罫線の位置を変更できます。

文字を入力し、表組みに合わせてサイズや位置を調整します。

罫線編集

表組みをクリックすると、表組みの周囲にハンドルが表示されます。この状態で内側の罫線をクリックしてハンドルつき状態でドラッグすると位置を変更できます。さらに、内側の罫線をダブルクリックすると[罫線の変更]画面が表示され、罫線の種類や太さを変更できます。



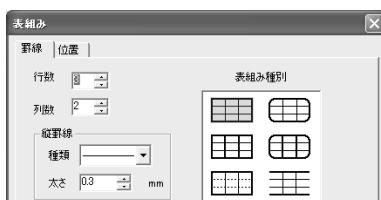
[表組み] 画面

表組みを右クリックして「プロパティ」を選ぶと「表組み」画面が表示されます。

タブをクリックし、それぞれの項目を設定します。

設定変更後、[OK] をクリックすると設定が反映され、レイアウト編集画面に戻ります。

[表組み] タブ



各項目の設定は表組み挿入時と同じです。

参照☞P.82 「表組みを挿入する」

[位置] タブ



ブロックの座標

..... 表組みブロックの左上の位置を指定します。

ブロックの大きさ

..... 表組みブロックのサイズを指定します。

○アートテキストを挿入する

曲線文字や変形文字を入力できます。

①  (アートテキスト)をクリックする
[アートテキスト] 画面が表示されます。



MEMO

[アートテキスト] 画面は、[挿入] — [アートテキスト] を選択しても開きます。

② 文字を入力する

文字を入力し、各項目を設定します。

設定の結果は、右側の文字サンプルで確認できます。



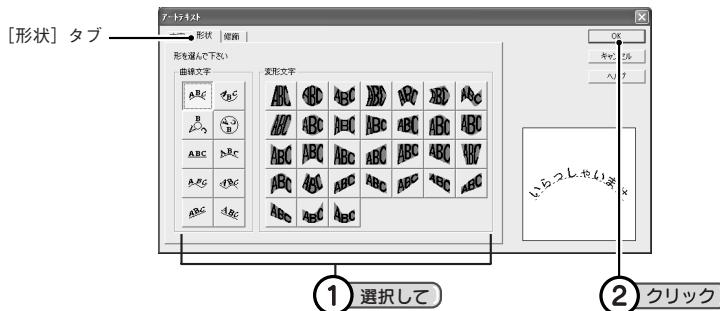
① 入力する

MEMO

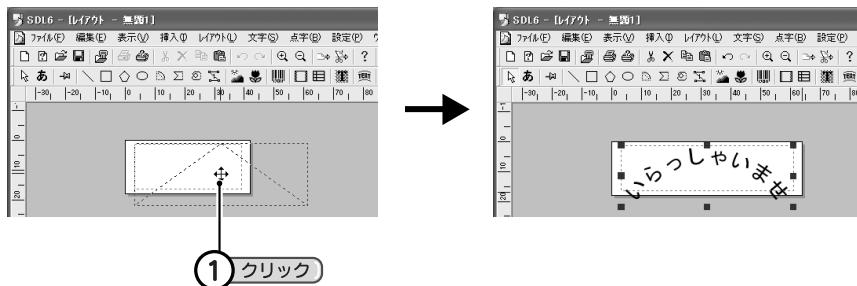
- 「文字の向き」を「正立」にすると、文字が常に縦向きになります。「標準」にすると、ベースラインに対して垂直になります。
- 【修飾】タブでは、【文字の設定】画面同様、塗りつぶしなどの修飾を選択できます。
参照☞P.47「[文字の設定] 画面」

③ [形状] タブでデザインを選択し、[OK] をクリックする。

カーソルがアートテキストの枠になります。



④ アートテキストを挿入する位置にカーソルを合わせてクリックする。



⑤ サイズや位置を決める

ハンドルつきで表示されている状態でサイズや位置を変更できます。

アートテキスト以外の場所をクリックすると、アートテキストのサイズや位置が確定します。

○イメージファイルを挿入する

専用エディタには、いろいろなイメージファイルがあり、イメージを確認しながら挿入できます。

1 [イメージ]をクリックする

[イメージファイルの読み込み]

画面が表示されます。

① クリック



2 カテゴリをダブルクリックで開き、挿入するイメージを選択し、[開く]をクリックする

カーソルがイメージの枠になります。



① ダブルクリック



① 選択して

② クリック

MEMO

イメージファイル一覧表は、CD-ROMに収録の「Manual」フォルダにある「SDL6_list.pdf」を開くと、確認することができます。確認するためにはAdobe Acrobat ReaderまたはAdobe Readerが必要です。

3 イメージを挿入する位置にカーソルを合わせてクリックする

イメージが挿入されます。



① クリック



4 サイズや位置を決める

ハンドルつきで表示されている状態でサイズや位置を変更できます。

イメージ以外の場所をクリックすると、イメージのサイズや位置が確定します。

MEMO

- 市販のアプリケーションで作成したイメージファイル(BMP、WMF、EMF、PCD、JPG、TIF形式のファイル)を挿入する場合は、手順②で目的のイメージファイルの保存先とファイル名を指定してください。イメージは自動的に白黒(2値)の画像に変換されます。
- イメージをダブルクリックして開く[イメージ]画面ではイメージファイルの枠や形などを設定できます。

[イメージ] 画面

イメージをダブルクリックすると、[イメージ] 画面が表示されます。

タブをクリックし、それぞれの項目を指定します。指定の結果は、右側のイメージで確認できます。

指定変更後、[OK] をクリックすると指定が反映され、レイアウト編集画面に戻ります。

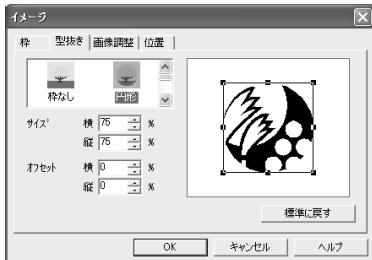
[枠] タブ



枠をつける ... イメージに枠をつけるときにチェックします。

太さ 枠の太さを選択します。

[型抜き] タブ



種類 円形・星型・ハートなどイメージを型抜きする图形を選択します。

サイズ 型抜き图形の縦横の比率を選択します。

オフセット ... 型抜きの位置を選択します。

[画像調整] タブ



減色方式 イメージファイルがカラーデータの場合に2値化(白/黒への減色)方法を選択します。

閾値(いきち) ... カラーデータを近似色減色する場合の白/黒の境界値を選択します。

[位置] タブ



ブロックの座標 図形ブロックの左上の位置を指定します。

ブロックの大きさ 図形ブロックのサイズを指定します。

ブロックの回転角 図形ブロックの回転角度を指定します。

○記号を挿入する

専用エディタには、いろいろな記号があり、一覧から選択して挿入できます。

1 記号(記号)をクリックする

【記号】画面が表示されます。

① クリック



MEMO

【記号】画面は、【挿入】→【記号】を選択しても開きます。

2 各タブの中から挿入する記号を選択し、[OK]をクリックする

カーソルが記号の枠になります。

カーソルが記号の枠になります。

① 選択して

② クリック



3 記号を挿入する位置にカーソルを合わせてクリックする

記号が挿入されます。

① クリック



4 サイズや位置を決める

ハンドルつきで表示されている状態でサイズや位置を変更できます。

記号以外の場所をクリックすると、記号のサイズや位置が確定します。

MEMO

記号一覧表は、CD-ROMに収録の「Manual」フォルダにある「SDL6_list.pdf」を開くと、確認することができます。確認するためにはAdobe Acrobat ReaderまたはAdobe Readerが必要です。

●連番を設定する

連番機能で、連続した英数字のラベルを作れます。

例：1、2、3の入ったラベルを連番で印刷する

① [挿入] - [連番] を選択する

[連番] 画面が表示されます。



② 連番の内容を指定し、[OK] をクリックする

例では、「属性」が「数字」、「書式」が「顧客リスト#」、「初期値」、「増分」、「繰り返し数」がすべて「1」になります。



①属性 : 「数字」または「アルファベット」を選択します。
 * 「アルファベット」を選択した場合は、「③初期値」と「⑥最大(小)値」に大文字と小文字を混在させないでください。

②書式 : 表示させる数を「#」で表します。連番以外の文字も入力できます。
 * 連番は最大9桁まで表示できます。
 * シンボルやイラストは入力できません。

③初期値 : 「①属性」で「数字」を選択した場合は、カウントを始める最初の数字、「アルファベット」を選択した場合は、カウントを始める最初のアルファベットを入力します。

④増分 : 印刷ごとに加算される増分を最大5桁までの半角数字で指定します。
 マイナス値や小数点も指定できます。
 * 例えば、増分を「1」にすると、1、2、3…と数字が1つずつ増え、増分を「-2」にすると、1、-1、-3…と数字が2つずつ減ります。

⑤繰り返し数 : 増分するまで同じ内容を何枚印刷するかを半角数字で指定します。

⑥最大(小)値 : 増分が十の場合は最大値、一の場合は最小値を半角数字で指定します。

⑦フォント : 連番に使用する文字のフォントを指定します。

⑧サイズ : 連番に使用する文字のサイズを指定します。
 * サイズはレイアウト時にも変更できます。

⑨文字配置 : ブロック範囲内での配置を選択します。

⑩スタイル : 斜体・太字・下線・取り消し線を指定します。

次へ進みます

MEMO

連番の設定方法について

書式の入力内容によって、連番の表示内容を変更することができます。

・連番の前の桁に「0(ゼロ)」を表示させる場合(例：0010)

入力する「#」の前に「0」を入力します。

例)連番「0010」と表示させる場合

書式：0#### 初期値：10

・カンマを表示させる場合(例：1,000)

入力する「#」の間にカンマ(,)を入力します。

例)連番「1,000」と表示させる場合

書式：#,### 初期値：1000

・連番以外の文字と合わせて表示させる場合

・桁数制限を必要としない場合

(例：LABEL55)

連番以外の文字と「#」を一緒に入力します。

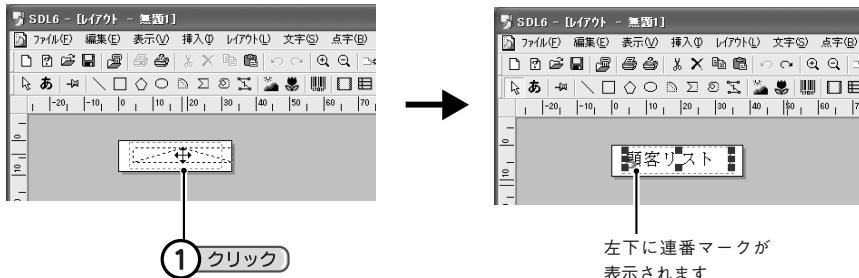
また、桁数制限を必要としない場合は「#」を1つだけ入力します。

例)連番「LABEL55」と表示させる場合

書式：LABEL# 初期値：55

③ 連番を挿入する位置にカーソルを合わせてクリックする

連番が挿入されます。表示される連番の番号は初期値です。



左下に連番マークが表示されます

④ サイズや位置を決める

ハンドルつきで表示されている状態でサイズや位置を変更できます。

連番以外の場所をクリックすると、連番のサイズや位置が確定します。

5 連続印刷を指定して印刷する

「連続連番印刷を行う」にチェックマークをつけ、印刷部数を指定します。
「繰り返し数」と「最大(小)値」で指定した連番ラベルが枚数分印刷されます。
参照☞P.31「印刷する」



MEMO

- ここで指定する印刷部数は、印刷する全ての枚数になります。
- ハーフカットONで連番のくり返し回数を2回以上に指定して連続印刷を実行した場合、ハーフカットは自動でOFFになります。

!! 注意 !!

打刻ブロックのあるラベルは、「連続連番印刷を行う」を指定できません。

○バーコードを挿入する

数字をバーコードにして印刷できます。

① (バーコード)をクリックする

[バーコード] 画面が表示されます。



MEMO

[バーコード] 画面は、[挿入] — [バーコード] を選択しても開きます。

② バーコードの種類を選択し、コードを入力する

「オプション」や「バーコードの高さ」、「細いバーの幅」、「比率」、「フォント」、「サイズ」なども設定します。



MEMO

バーコードの種類により入力できる桁数や文字が異なります。詳細は「バーコードの設定項目」を参照してください。

参照☞P.94「バーコードの設定項目」

QRコードの最大入力可能文字数

テープ幅	モデル1		モデル2	
	全角	半角	全角	半角
24mm	177	690	167	652
18mm	126	493	118	461
12mm	48	186	48	187
9mm	10	40	10	41

※4mm、6mmテープにはQRコードを印刷することはできません。

※上表は、「誤り訂正レベル=7%」、「シンボルサイズ=極小」で入力する場合の文字数です。

③ [OK] をクリックする

マージン確認画面が表示されます。

1 クリック



④ [OK] をクリックする

カーソルがバーコードの枠になります。

1 クリック



MEMO

このメッセージ画面を表示しないように設定する場合は、表示タブのチェックを解除してください。



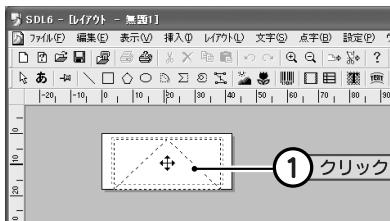
!!注意!!

バーコードを挿入する時は、左右に空白(マージン)を確保してください。

QR CODE指定時は上下左右の空白(マージン)が必要になります。

⑤ バーコードを挿入する位置にカーソルを合わせてクリックする

バーコードが挿入されます。



⑥ サイズや位置を決める

ハンドルつきで表示されている状態でサイズや位置を変更できます。

バーコード以外の場所をクリックすると、バーコードのサイズや位置が確定します。

MEMO

- バーコードブロックを小さくすると、空白になったり、となり、バーコードが表示・印刷されなくなります。バーコードが表示される大きさにしてください。
- バーコードの数値や種類を変更する場合は、バーコードをダブルクリック(またはバーコードを右クリックして「プロパティ」を選択)して「バーコード」画面を表示し、内容を変更します。
- 印刷したバーコードは、バーコードリーダーで読み取れることを確認してから、ご使用ください。バーコードリーダーで読み取りやすい白地に黒インクのテープのご使用をお奨めします。
- お持ちのバーコードリーダーで読み取れない場合は、「バーコード」画面を表示し、設定を変更するなどして再度確認してください。
- バーコードを回転したり、縦横の比率を極端に変えたり、サイズを小さくすると、バーコードリーダーで読み取れないことがあります。
- バーコードと地紋を重ねると、バーコードリーダーで読み取れないことがあります。
- 外側の囲み枠は印刷されません。

バーコードの設定項目

JAN-8/JAN-13	コード	数字のみ入力可 (チェックデジットは自動計算され付加されます) JAN-8: 7桁/JAN-13: 12桁
	テキスト	チェックデジットも出力します
Code 39	コード	数字・大文字のアルファベットおよび「.」、「_」(スペース)、「\$」、「/」、「+」、「-」、「%」を入力可 最大128桁
	比率	2.5~3.0
	テキスト	チェックデジットの出力を設定できます
Code 128	コード	数字、英字(大文字、小文字)、記号、特殊コードを入力可 最大128桁 特殊コードは右に表示されるリストボックスから選択します 入力すると「.」と表示されます Code AとCode Bに対応します(但し、Shiftコードはサポートしていません)
	テキスト	チェックデジットは付加されますが、テキストには表示されません 特殊コードは入力画面でのみ表示され、テキストには表示されません
UPC-A	コード	数字のみ入力可 11桁(チェックデジットは自動計算され付加されます)
	テキスト	チェックデジットも出力します
UPC-E	コード	数字のみ入力可 6桁(チェックデジットは自動計算され付加されます)
	テキスト	チェックデジットも出力します
NW-7(CodaBar)	コード	数字・および「.」、「_」、「\$」、「/」、「+」、「-」、を入力可 最大126桁 コード前後には必ず「A」「B」「C」「D」のいずれかを付加
	比率	2.5~3.0
	テキスト	チェックデジットの出力を設定できます
ITF(Interleaved2of5)	コード	数字のみ入力可 最大128桁
	比率	2.5~3.0
	テキスト	チェックデジットの出力を設定できます
EAN-128	コード	数字、英字(大文字、小文字)、記号、特殊コードを入力可 最大128桁 特殊コードは右に表示されるリストボックスから選択します 入力すると「.」と表示されます Code A、Code B、Code Cに対応します(但しShiftコードはサポートしていません)
	テキスト	チェックデジットは付加されますが、テキストには表示されません 特殊コードは入力画面でのみ表示され、テキストには表示されません
EAN-128(定型)	コード	数字および「.」「_」「-」を入力可 44桁 入力された記号は、テキスト表示にのみ利用しバーコードの生成には利用しません(チェックデジットは自動計算され付加されます) 44桁目のチェックデジットは所定の計算式による入力が必要です
	テキスト	所定の計算式により入力したチェックデジットが表示されます
QR CODE	コード	英数字・記号(半角のみ)・および漢字 モデル1: 半角英数のみ最大690文字、全角のみ最大177文字 モデル2: 半角英数のみ最大652文字、全角のみ最大167文字
	テキスト	表示されません

!!注意!!

- 上表の「テキスト」とは、バーコードの下に表示される数字などを指しています。
- 全バーコードに対し、高さは0.1~100cm、細いバーの幅は0.1~25mmが指定可能です。但し、バーコードリーダーでの読み取り保証範囲ではありませんのでご注意ください。
- 上表のQRコードの文字数は、24mm幅テープカートリッジを使用して、「誤り訂正レベル=7%」、「シンボルサイズ=極小」と設定した際に印刷範囲内に収まる最大数です。

●カスタマバーコードを挿入する

郵便番号と住所表示番号を入力してカスタマバーコードを印刷できます。

カスタマバーコードについて

カスタマバーコードは「郵便番号」+「住所表示番号」で指定します。

基本的なルールは、町域名までの住所を「郵便番号」で、町域名以降の住所の数値部分を「住所表示番号」で表わします。

カスタマバーコードの例

＜住所表示が数字のみの場合＞

東京都青梅市河辺町
「郵便番号」 101-0123

11丁目6番1号 永井タワー601
「住所表示番号」 11-6-1-601

＜住所表示にアルファベットがある場合＞

神戸市中央区港島中町
「郵便番号」 678-9012

9丁目7-6 南シティA棟1階1号
「住所表示番号」 9-7-6A1-1

例：郵便番号「101-0123」、住所表示番号「11-6-1-601」の場合

1 [挿入] - [カスタマバーコード] を選択する

[カスタマバーコード] 画面が表示されます。



2 郵便番号や住所表示番号を入力する

!! 注意 !!

住所表示番号は、数字、大文字のアルファベット、-（ハイフン）のみ入力してください。

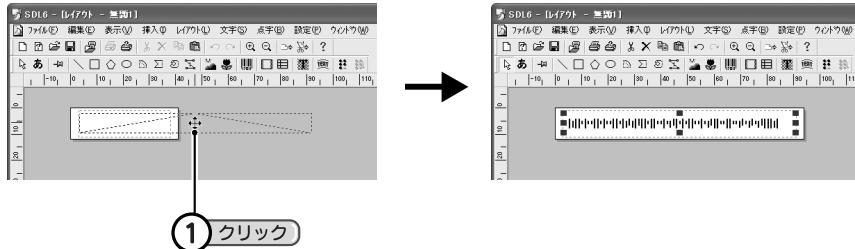


3 [OK] をクリックする

カーソルがカスタマバーコードの枠になります。

次へ進みます

④ カスタマバーコードを挿入する位置にカーソルを合わせてクリックする カスタマバーコードが挿入されます。



⑤ サイズや位置を決める

ハンドルつきで表示されている状態でサイズや位置を変更できます。

カスタマバーコード以外の場所をクリックすると、カスタマバーコードのサイズや位置が確定します。

MEMO

- カスタマバーコードブロックを小さくすると、空白になったり、となり、カスタマバーコードが表示・印刷されなくなります。カスタマバーコードが表示される大きさにしてください。
- カスタマバーコードの数値を変更する場合は、カスタマバーコードをダブルクリック(またはカスタマバーコードを選択した状態で「編集」-「プロパティ」を選択)して「カスタマバーコード」画面を表示し、内容を変更します。
- カスタマバーコードで入力できる文字数は、郵便番号が7桁、住所表示番号がハイフンなどを含めて13桁です。

●日付・時刻を挿入する

日付や時刻を入力できます。日付の入ったラベルを作るだけでなく、ファイルを開いたときや印刷するときの日付、時刻を印刷するように設定できますので、製造日などを入れるラベルにも便利です。

1 [挿入] - [日付・時刻] を選択する

[日付・時刻の設定] 画面が表示されます。



2 日付や時刻の内容を指定し、[OK] をクリックする

日付と時刻、更新方法を選択し、さらに右端のリストから表示形式を選択します。

設定の結果は、右側の文字サンプルで確認できます。



MEMO

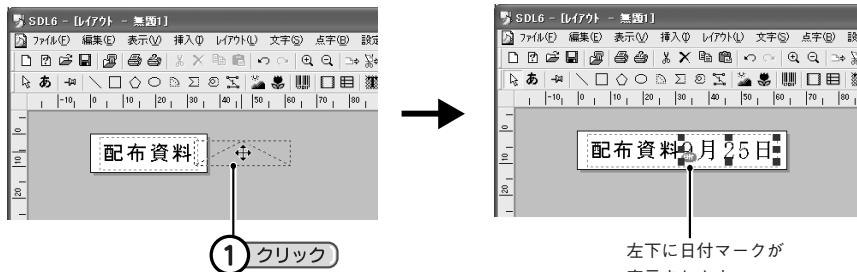
- 挿入される日付や時刻はパソコンの設定を利用します。
- [文字] [修飾] [影] [間隔] の各タブでは、「文字の設定」画面同様、フォントや修飾などの詳細を選択できます。

参照 [P.47 「\[文字の設定\] 画面」](#)

SDL6 編

3 日付・時刻を挿入する位置にカーソルを合わせてクリックする

日付・時刻が挿入されます。表示される日付・時刻は現在の値です。



4 サイズや位置を決める

ハンドルつきで表示されている状態でサイズや位置を変更できます。

日付・時刻以外の場所をクリックすると、日付・時刻のサイズや位置が確定します。

○外枠を挿入する

専用工エディタには、いろいろな外枠があり、一覧から選択して挿入できます。

1 □(外枠)をクリックする

【外枠】画面が表示されます。

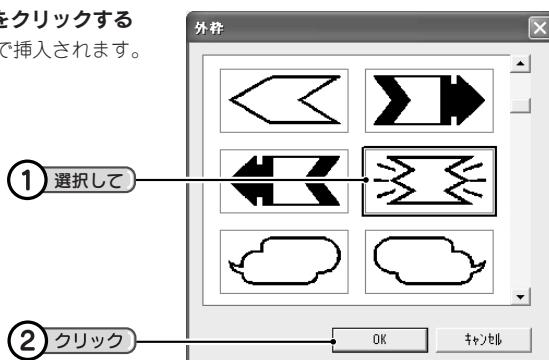


MEMO

【外枠】画面は、【挿入】—【外枠】を選択しても開きます。

2 挿入する外枠を選択し、【OK】をクリックする

外枠がラベル幅いっぱいのサイズで挿入されます。



3 サイズや位置を決定する

ハンドルつきで表示されている状態で、サイズや位置を変更できます。

外枠以外の場所をクリックすると、外枠のサイズや位置が確定します。



MEMO

外枠一覧表は、CD-ROMに収録の「Manual」フォルダにある「SDL6_list.pdf」を開くと、確認することができます。確認するためにはAdobe Acrobat ReaderまたはAdobe Readerが必要です。

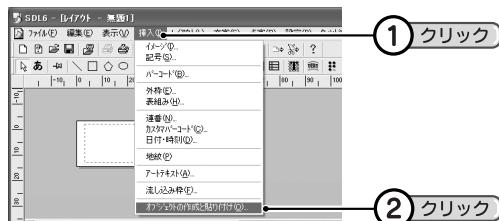
●市販のアプリケーションから印刷してみよう

オブジェクトとして取り込む

市販のアプリケーションを呼び出して作成する場合

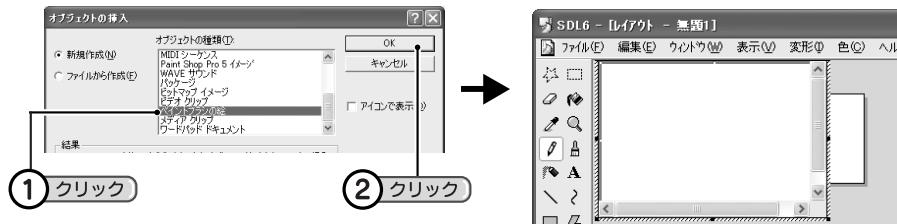
① [挿入] - [オブジェクトの作成と貼り付け] を選択する

[オブジェクトの挿入] 画面が表示されます。



② 呼び出すソフトを選択し、[OK] をクリックする

専用エディタのレイアウト編集画面に選択したアプリケーションが表示されます。

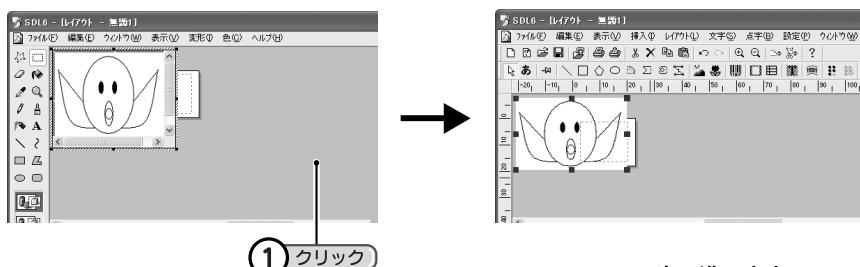


MEMO

- ・アプリケーションの種類によっては、専用エディタのレイアウト編集画面に表示されず、アプリケーションが起動することがあります。
- ・「アイコンで表示」にチェックマークをつけると、画面や印刷結果には内容が表示されず、アイコンだけが表示/印刷されます。アイコンリストなどを印刷するときに利用してください。

③ 呼び出したアプリケーションでデータを作ったあと、オブジェクト以外の部分をクリックする

専用エディタの編集画面に戻り、データが貼りつけられます。



次へ進みます

MEMO

手順❷でアプリケーションが起動したときは、データ作成後【ファイル】メニューから【閉じてxxに戻る】や【終了してxxに戻る】などのコマンドを選択してアプリケーションを終了します。アプリケーションで作ったデータがオブジェクトとして専用エディタの編集画面に貼りつけられます。

④ サイズや位置を決める

ハンドルつきで表示されている状態で、サイズや位置を変更できます。

オブジェクト以外の場所をクリックすると、オブジェクトのサイズや位置が確定します。

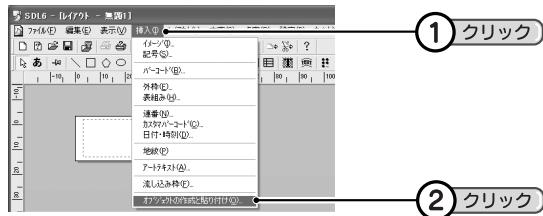
MEMO

オブジェクトをダブルクリックすると、作ったアプリケーションが呼び出され(手順❸と同じ表示)、内容を変更することができます。

市販のアプリケーションで作成したファイルを読み込む場合

① 【挿入】 – 【オブジェクトの作成と貼り付け】を選択する

【オブジェクトの挿入】画面が表示されます。

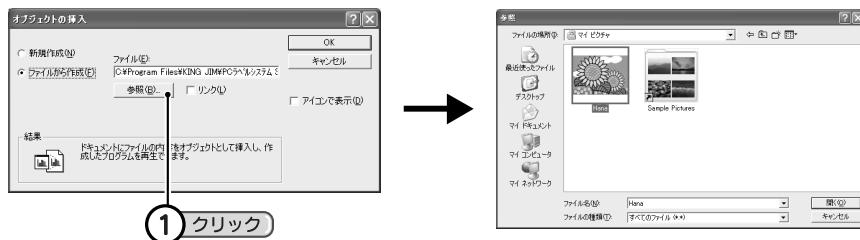


② 「ファイルから作成」をクリックする

ファイルを指定する画面が表示されます。



③ [参照] をクリックし、読み込むファイルを指定して [開く] をクリックする
 [参照] 画面にファイルがない場合は、「ファイルの場所」の ▾ や □などをクリックして、目的のファイルを表示させます。

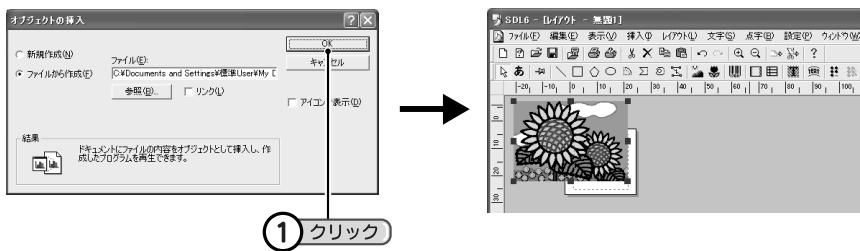


MEMO

- 「オブジェクトの挿入」画面で「リンク」にチェックマークをつけると、元のファイルとリンクされます。リンクした状態では、参照元のファイルの内容を変更すると取り込んだオブジェクトの内容に反映され、逆に取り込んだオブジェクトの内容を変更すると参照元のファイルの内容にも反映されます。リンク機能の詳細は、Windowsの説明書またはヘルプを参照してください。
- 「アイコンで表示」にチェックマークをつけると、画面には内容が表示されず、アイコンだけが表示され、印刷するときもアイコンが印刷されます。アイコンリストを印刷する場合に利用してください。
- ファイルから読み込む場合、「アイコンで表示」にチェックマークを付けなくてもアイコンだけが表示されることがあります。

④ [OK] をクリックする

専用エディタのレイアウト編集画面に選択したファイルのデータが貼りつけられます。



⑤ サイズや位置を決める

ハンドルつきで表示されている状態でサイズや位置を変更できます。

オブジェクト以外の場所をクリックすると、オブジェクトのサイズや位置が確定します。

MEMO

- オブジェクトをダブルクリックすると、作ったアプリケーションが呼び出され、内容を変更することができます。
- 専用エディタで取り込んだオブジェクトを「テプラ」PRO本体で印刷すると、白黒の濃淡で表現されるため、濃い色は黒っぽく、薄い色は白っぽく印刷されます。
- 市販のアプリケーションで作成したイメージファイルは、 (Image) ボタンで挿入することもできます。P86の「イメージファイルを挿入する」の手順②で目的のイメージファイルを指定してください。イメージは自動的に白黒(2値)の画像に変換されます。

市販のアプリケーションから印刷する

「テプラ」PRO本体を指定することで、市販のアプリケーション(Word、Excelなど)からも印刷することができます。市販のアプリケーションを利用するときは、以下の注意をよくお読みになってご使用ください。

MEMO

専用エディタをインストールすると、テンプレート(Word 97/98/2000/2002/2003用、Excel 97/2000/2002/2003用)がインストール先に保存されます。テンプレートを利用すると、その他の市販アプリケーションを使用するよりも簡単にラベルを作成することができます。

参照☞P.103「テンプレートを利用する」

- プリント名には必ず現在パソコンと接続している「テプラ」PRO本体の機種名(例：KING JIM SR6700D)を指定してから、文書を作ってください。
- Windows98/98SEの場合、「テプラ」PRO本体を接続していない状態でパソコンを起動すると、「プリンタの設定」がオフラインになります。接続しても印刷できないときは、[スタート] - [設定] - [プリンタ] からご使用になる「テプラ」PROプリンタドライバ(例：KING JIM SR6700D)を選択し、右クリックで表示されるメニューから「プリンタをオフラインにする」を指定し、チェックをはずしてください。
- 印刷前には、必ず「印刷プレビュー」で印刷状態を確認してください。
- 用紙の設定は、「テプラ」本体にセットしているテープカートリッジのテープ幅に合わせてください。
- ヘッダー・フッターは指定しないでください。また、ページ番号は入れないでください。
- 文字サイズの指定は、テープ幅に合ったポイントになるよう調整するか、拡大率を指定してください。
- 文字数の多い文章はテープの幅に収まらない可能性があります。
- 画像やイラストを印刷するときは、テープ幅に収まるサイズになるよう調整してください。レイアウトがわからないときは、「印刷プレビュー」で状態を確認してください。
- 画像やイラストを「テプラ」PRO本体で印刷すると、白黒の濃淡で表現されるため、濃い色は黒っぽく、薄い色は白っぽく印刷されます。
- グラデーションなどの装飾、文字サイズ、または画数の多い文字によっては、文字のつぶれが発生することがあります。
- アプリケーションによっては正しく印刷できないものがあります。
- 「Word 97/98/2000/2002/2003」、「Excel 97/2000/2002/2003」から印刷するときは、テンプレートを利用することをお奨めします。テンプレートを利用するときは、テンプレートのデータフォルダを各アプリケーションのテンプレートフォルダにコピーしてください。各アプリケーションのテンプレートフォルダの場所や操作方法については、お使いのアプリケーションの説明書を参照してください。
- 幅の狭いテープで余白値を大きくすると、上下の印刷範囲が狭くなり文字が入力できなくなることがありますので、上下余白の設定は、下表を参考にできるだけ余白を小さく設定してください。
左右の余白値は好みで設定してください。

テープ幅	上余白	下余白	左右余白
4mm	0.6mm	0.6mm	10mm
6mm	0.7mm	0.7mm	10mm
9mm	0.9mm	0.9mm	10mm
12mm	1.1mm	1.1mm	10mm
18mm	1.6mm	1.6mm	10mm
24mm	3.1mm	3.1mm	10mm

* 上下左右の余白値はテープを横置きにした場合です。

縦置きの場合は「上下余白」が「左右余白」、「左右余白」が「上下余白」となります。

* 「上下余白」(縦置きの場合は「左右余白」)を表の値より小さくすることはできません。

* アプリケーションによっては、表の設定で正しく印刷できないものがあります。

- 市販のアプリケーションでは点字ラベルを作成できません。

テンプレートを利用する

専用エディタには、Word 97/98/2000/2002/2003用やExcel 97/2000/2002/2003用のテンプレートが用意されており、本機に適応した書式・余白・用紙幅の設定で簡単に文書が作成できます。

テンプレートは、「C:\Program Files\KING JIM\PCラベルシステム SDL6 1.0\DATA\TEMPLATE」以下に次の名称で収録されています。

Excel (Excel 97_2003\SR6700D)

ファイル名	用途
4mmテープ.xlt	4mmテープ用
6mmテープ.xlt	6mmテープ用
9mmテープ.xlt	9mmテープ用
12mmテープ.xlt	12mmテープ用
18mmテープ.xlt	18mmテープ用
24mmテープ.xlt	24mmテープ用
24mmテープ(ケーブル用).xlt	24mmテープ用

Word (Word 97_2003\SR6700D)

ファイル名	用途
18mmテープ横.dot	18mmテープ横書き用
18mmテープ縦.dot	18mmテープ縦書き用
24mmテープ横.dot	24mmテープ横書き用
24mmテープ縦.dot	24mmテープ縦書き用

テンプレートの使いかた

ここでは、テンプレートの使いかたを、Word 2002を例に説明します。

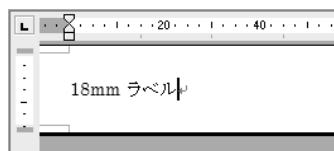
- ① 「C:\Program Files\KING JIM\PCラベルシステム SDL6 1.0\DATA\TEMPLATE」にある「Word 97_2003\SR6700D」フォルダをWord 2002で設定されているユーザーテンプレートフォルダにコピーする
- ② Word 2002を起動し、[ファイル] - [新規作成]を選択する
- ③ [新しい文書] 作業ウィンドウで [テンプレートから新規作成] - [標準のテンプレート] をクリックする
- ④ 「テプラ」PRO本体の機種名の[SR6700D]タブをクリックし、目的のテープを選択し [OK] をクリックする

選択したテープ幅の新規文書が開きます。



- ⑤ 文字を入力し、印刷する

余白の設定値は変更しないでください。



!!注意!!

- ・テンプレートの用紙情報は、「テプラ」PRO本体で印刷できるように設定されています。用紙情報を変更するとうまく印刷できない場合があります。
- ・Windows98/98SEの場合、「テプラ」PRO本体を接続していない状態でパソコンを起動すると、「プリンタの設定」がオフラインになります。接続しても印刷できないときは、[スタート] - [設定] - [プリンタ] からご使用になる「テプラ」PROプリンタドライバ(例:KING JIM SR6700D)を選択し、右クリックで表示されるメニューから「プリンタをオフラインにする」をクリックし、チェックをはずしてプリンタをオンラインにしてください。
- ・WordやExcelでは点字ラベルは作成できません。

MEMO

コピー先となるテンプレートフォルダの場所や、アプリケーションの機能および使いかたについては、アプリケーションのバージョンや設定によって異なります。お使いのソフトの説明書をご覧ください。Word 2002の場合、[ツール] - [オプション] - [既定のフォルダ] でユーザー-テンプレートフォルダの場所を参照できます。また、「¥Program Files¥KING JIM¥PC ラベルシステム SDL6 1.0 ¥ DATA¥TEMPLATE¥Word97_2003(または¥Excel97_2003)¥SR6700D」フォルダにあるデータをダブルクリックしても表示することができます。

データ転送ソフト 「DATAメモリーシステム *SDD6*」編

転送ソフト「DATAメモリーシステム SDD6」を利用して「テプラ」PRO本体のデータをパソコンでやりとりする方法について説明します。

●転送ソフトの起動～終了

起動する

① パソコンと「テプラ」PRO本体を接続し、電源ボタン、次に **シフト** + **らく** (=PCリンク) を押してPCリンク状態にする

「テプラ PRO本体のディスプレイに「PC通信可能」が点滅します。

参照☞P.18「パソコンと「テプラ」PRO本体を接続する」

2 転送ソフト「DATAメモリーシステム SDD6」を起動する

[スタート] をクリックして、[すべてのプログラム] – [TEPRA PRO] – [DATAメモリーシステム SDD6 1.0] – [DATAメモリーシステム SDD6 1.0] をクリックします。

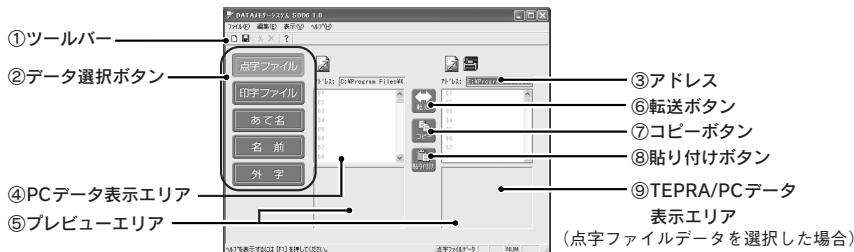
「DATAメモリーシステム SDD6」が起動します。

MEMO

起動するには、あらかじめ「DATAメモリーシステム SDD6」と接続する「テプラ」PRO本体のプリンタドライバをインストールしておく必要があります。

③ データ選択ボタンから転送するデータをクリックする

選択したボタンに応じてデータ転送画面が変わります。



- ①ツールバー : 新規作成、上書き保存、切り取り、削除など、データを操作するボタンです。
- ②データ選択ボタン : 表示するデータを選択します。「点字ファイル」、「印字ファイル」、「あて名」、「名前」、「外字」は、「テプラ」PRO本体のファイルメニューに関連づけられています。あて名および名前データは点字には対応していません。
- ③アドレス
- ④PCデータ表示エリア : データの保存場所を表示します。
- ⑤プレビューエリア : パソコンに保存されているファイル(.dd1形式、.d9b形式)のデータが一覧で表示されます。選択されているときは赤い枠が表示されます。
- ⑥  転送ボタン : 選択されているデータを、転送先の同じデータ番号に転送します。
- ⑦  コピーボタン : 選択されているデータをクリップボードにコピーします。
- ⑧  貼り付けボタン : クリップボードにコピーされたデータを好きなデータ番号に貼り付けることができます。
- ⑨TEPRA/PCデータ表示エリア : 接続している「テプラ」PRO本体またはパソコンのデータが一覧で表示されます。選択されているときは赤い枠が表示されます。

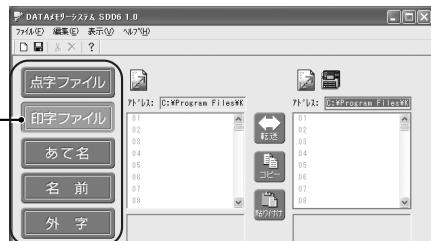
「テプラ」PRO本体のデータを表示する

「テプラ」PRO本体のファイルを読み込むときは、（「テプラ」PRO本体ファイル読み込み）をクリックします。

1 データ選択ボタンをクリックする

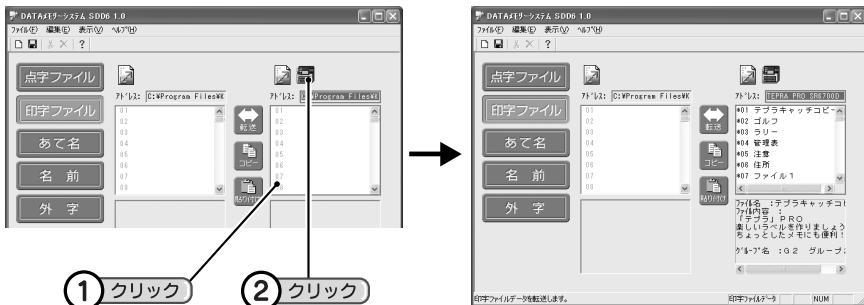
表示したいデータを選択します。

1 クリック



2 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアをクリックして、（「テプラ」PRO本体ファイル読み込み）をクリックする

選択した表示エリアに赤い枠が表示され、「テプラ」PRO本体のデータ番号とファイル名またはデータの一部が一覧で表示されます。



MEMO

- 「テプラ」PRO本体と通信をおこなうときは、「テプラ」PRO本体とパソコンがUSBケーブルで接続されていること、「テプラ」PRO本体のディスプレイに「PC通信可能」が点滅していることを確認してください。
- 参照  P.18 「パソコンと「テプラ」PRO本体を接続する
- 「テプラ」PRO本体と通信中のとき、パソコン画面上に「「テプラ」PRO本体と通信中です。しばらくお待ちください」と表示されます。
- 通信中は、他のアプリケーションを動作・起動させないでください。
- （「テプラ」PRO本体ファイル読み込み）をクリックすると、手順①で選択したデータのみ「テプラ」PRO本体から読み込まれます。他のデータを読み込みたい場合は、手順①から操作しなおしてください。

!! 注意 !!

- パソコンに「テプラ」PRO本体を複数台接続した状態では通信をおこなうことはできません。通信をおこなう「テプラ」PRO本体1台のみ接続してください。
- 「DATAメモリーシステム SDD6」が通信できる「テプラ」PRO本体はSR6700Dのみです。

③ データをクリックする

プレビューエリアに選択しているデータの内容が表示されます。

① クリック

プレビューエリアにデータの内容が表示されます



MEMO

- データが保存されている番号には「*」がつきます。
- 記号や特殊文字は「■」で表示されます。また、文字モード指定マークは表示されません。
- プレビューエリアに表示しきれない内容は省略されます。

パソコンのデータを表示する

すでに作成したSDD6ファイル(.dd1形式)を開くときは (PCファイル読み込み)を、新しいSDD6ファイルを作成するときは (新規作成)をクリックします。

SDD6ファイル(.dd1形式)を開く

① データ選択ボタンをクリックする

表示したいデータを選択します。

① クリック

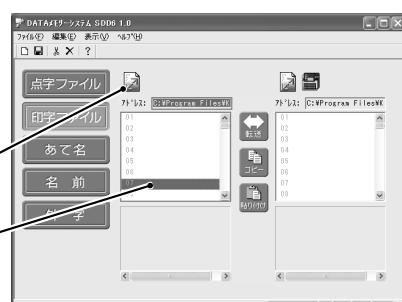


② 表示させたい表示エリアをクリックして、 (PCファイル読み込み)をクリックする

選択した表示エリアには赤い枠が表示されます。その後、「開く」画面が表示されます。

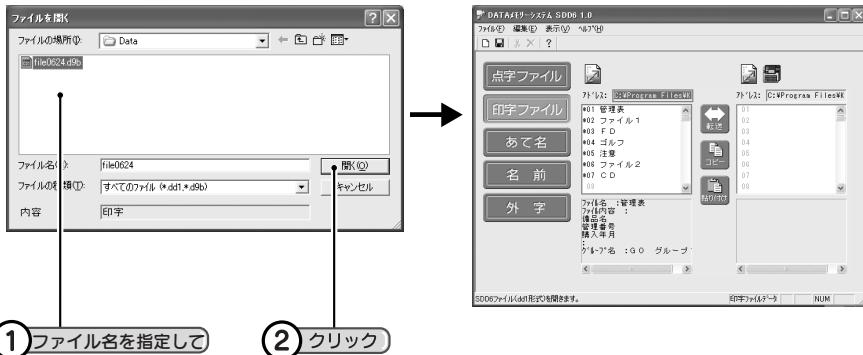
② クリック

① クリック



③ ファイルを指定して【開く】をクリックする

【開く】画面にファイルがない場合は、「ファイルの場所」の▼や■などをクリックして、保存場所を表示させます。ファイルが開くと、表示エリアにデータ番号とファイル名またはデータの一部が一覧で表示されます。



MEMO

- 「SDD6 ファイル(.dd1 形式)」のほかに、DATA メモリーシステム SDM9 Ver.3.0、3.1 で作成された「SDM9 ファイル(.d9b 形式)」を開くことができます。
- 「SDM9 ファイル(.d9b 形式)」は点字ファイルを持たないため、「点字ファイル」が設定されているときに「SDM9 ファイル(.d9b 形式)」ファイルを開いても何も表示されません。
- 【開く】画面でファイルを選択すると、画面下部に「内容」が表示され、保存されているデータ(ファイル、あて名、名前、外字)を確認することができます。
- ファイルを指定して【開く】をクリックすると、SDD6 ファイルにあるすべてのデータ(ファイル、あて名、名前、外字)を開きます。開いた後に、データ選択ボタンをクリックすると、それぞれのデータが一覧で表示されます。

④ データをクリックする

プレビューエリアに選択しているデータの内容が表示されます。

① クリック

プレビューエリアにデータの内容が表示されます



MEMO

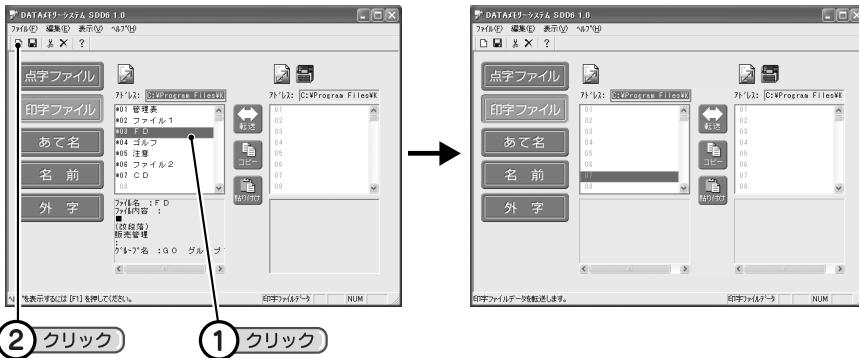
- データが保存されている番号には「*」がつきます。
- 記号や特殊文字は「■」で表示されます。また、文字モード指定マークは表示されません。
- プレビューエリアに表示しきれない内容は省略されます。

新しいSDD6ファイルを作成する

作業しているファイルを終了し、新しいSDD6ファイルを作成するときは  (新規作成)をクリックします。

① 表示させたい表示エリアをクリックして、 (新規作成)をクリックする

新しいSDD6ファイルが表示されます。



② データ選択ボタンをクリックする

表示したいデータを選択します。

MEMO

- 作業しているファイルを終了し、新しいSDD6ファイルを作成したとき、更新確認のメッセージが表示されることがあります。
- 転送ソフト起動直後に新しいSDD6ファイルを作成するときは、この操作は必要ありません(すでに新しいSDD6ファイルが開かれた状態になっています)。

終了する

① 画面右上の をクリックする

そのままウィンドウが閉じます。



MEMO

SDD6の終了は、[ファイル] - [終了]を選択しても実行できます。

●データを転送する

「テプラ」PRO本体のデータをパソコンに転送する

ここでは、印字ファイルデータを転送する画面を例に説明していますが、点字ファイルデータ、あて名データ、名前データ、外字データも基本的に同じ操作となります。

① データ選択ボタンをクリックする

転送したいデータを選択します。

① クリック



② 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアに、転送元となる「テプラ」PRO本体のデータを表示させる 参照☞P.107 「「テプラ」PRO本体のデータを表示する」

MEMO

右側のTEPRA/PCデータ表示エリアにもSDD6ファイル(.dd1形式)を開くことができます。左右の表示エリアに別々のSDD6ファイルを開けば、SDD6ファイル間でデータを転送することができます。



③ 左側のPCデータ表示エリアに、転送先となる ファイルを開く 参照☞P.108 「パソコンのデータを表示する」

④ 転送したいデータをクリックして選択する プレビューエリアに選択しているデータの内容が 表示されます。

① クリック

プレビューエリアにデータ
の内容が表示されます



MEMO

複数のデータを選択するときは、キーボードの<Ctrl>を押しながら1行ずつクリックします。

また、最初の候補をクリックして選択したあと、最後の候補を<Shift>を押しながらクリックすると最初～最後の候補までのすべての行を選択できます。

<Ctrl>を押しながら<A>を押すと、全データを選択できます。

次へ進みます

5 (転送)をクリックする

転送確認のメッセージが表示されます。

① クリック



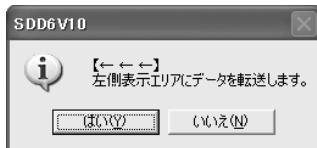
MEMO

すべてのデータを転送するときは、メニューバーの [編集] - [全転送] をクリックすると、一度に転送できるので便利です。

6 転送方向を確認し、[はい] をクリックする

転送元と同じ番号にデータが転送されます。

転送先にデータがある場合は、上書き確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると上書きされます。



7 左側のPCデータ表示エリアをクリックして (上書き保存)をクリックする

現在のファイル名で上書き保存されます。

別名で保存するときは [ファイル] - [名前を付けて保存] を選択し、保存画面でファイル名を入力します。

② クリック

① クリック



MEMO

- データを転送しても転送元のデータは残ります。
- SDD6ファイル(.dd1形式)は、1つのファイルで5つのデータ(点字ファイル、印字ファイル、あて名、名前、外字)を管理できます。
- データ表示エリアに表示された「外字データ」は、パソコン上で編集することができます。
参照☞P.125「外字の編集」
- データを異なる番号へ転送したい場合は「コピー・貼り付け」機能を利用してください。
参照☞P.115「データをコピーする・移動する」
- SDD6ファイル(.dd1形式)に保存できる最大データ数は、点字/印字ファイル100件、あて名100件、名前40件、外字20件です。
- 登録したデータが多いと転送に時間がかかることがあります。

パソコンにあるデータを「テプラ」PRO本体に転送する

① データ選択ボタンをクリックする

転送したいデータを選択します。

① クリック



② 左側のPCデータ表示エリアに、転送元となるファイルを開く

参照☞P.107 「パソコンのデータを表示する」

MEMO

右側のTEPRA/PCデータ表示エリアにもSDD6ファイル(.dd1形式)を開くことができます。左右の表示エリアに別々のSDD6ファイルを開けば、SDD6ファイル間でデータを転送することができます。



③ 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアに、転送先となる「テプラ」PRO本体のデータを表示させる

参照☞P.108 「「テプラ」PRO本体のデータを表示する」

④ 転送したいデータをクリックして選択する

プレビューエリアに選択しているデータの内容が表示されます。

① クリック

プレビューエリアにデータの内容が表示されます



MEMO

複数のデータを選択するときは、キーボードの<Ctrl>を押しながら1行ずつクリックします。

また、最初の候補をクリックして選択したあと、最後の候補を<Shift>を押しながらクリックすると最初～最後の候補までのすべての行を選択できます。

<Ctrl>を押しながら<A>を押すと、全データを選択できます。

次へ進みます

5 (転送)をクリックする

転送確認のメッセージが表示されます。

1 クリック



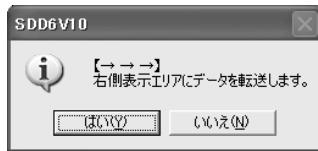
MEMO

すべてのデータを転送するときは、メニューバーの [編集] - [全転送] をクリックすると、一度に転送できるので便利です。

6 転送方向を確認し、[はい] をクリックする

転送元と同じ番号にデータが転送されます。

転送先にデータがある場合は、上書き確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると上書きされます。



MEMO

- データを転送しても転送元のデータは残ります。
- 「テプラ」PRO本体で作成した文章内に外字を使用している場合、その外字データをSDD6ファイルに転送して、移動や変更・削除などをおこなうと、「テプラ」PRO本体に転送しなおした際に、その文章の外字が空白や異なる外字で表示されます。
- データを異なる番号へ転送したい場合は「コピー・貼り付け」機能を利用してください。

参照☞P.115「データをコピーする・移動する」

!!注意!!

- 「テプラ」PRO本体へデータを転送する場合は、転送した時点で「テプラ」PRO本体のファイルに書き込まれます。上書き実行後は、元データの復元はできませんので、充分に確認してください。
- 「テプラ」PRO本体にデータを転送するとき、データ量によって時間がかかる場合があります。
- SDD6ファイル(.dd1形式)に保存できる最大データ数は、点字/印字ファイル100件、あて名100件、名前40件、外字20件です。
- SDD6ファイル(.dd1形式)に保存されている各データが「テプラ」PRO本体で登録できるデータ量よりも多い場合、「テプラ」PRO本体で登録できるデータ量を越えている部分は転送されません。

●データをコピーする・移動する

データを異なる番号へ転送したい場合は、「コピー・貼り付け」機能や「切り取り・貼り付け」機能を利用します。

ここでは、印字ファイルデータでの操作を例に説明していますが、点字ファイルデータ、あて名データ、名前データ、外字データも基本的に同じ操作となります。

コピーする

① データ選択ボタンをクリックする

転送したいデータを選択します。

① クリック



② 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアに、コピー元となる「テプラ」PRO本体のデータを表示させる 参照☞P.107 「テプラ」PRO本体のデータを表示する」

MEMO

右側のTEPRA/PCデータ表示エリアにもSDD6ファイル(.dd1形式)を開くことができます。左右の表示エリアに別々のSDD6ファイルを開けば、SDD6ファイル間でデータを転送することができます。

③ 左側のPCデータ表示エリアに、コピー先となるファイルを開く

参照☞P.108 「パソコンのデータを表示する」

④ コピーしたいデータをクリックして選択する

プレビューエリアに選択しているデータの内容が表示されます。

① クリック

プレビューエリアにデータ
の内容が表示されます



MEMO

複数のデータを選択するときは、キーボードの<Ctrl>を押しながら1行ずつクリックします。

また、最初の候補をクリックして選択したあと、最後の候補を<Shift>を押しながらクリックすると最初～最後の候補までのすべての行を選択できます。

<Ctrl>を押しながら<A>を押すと、全データを選択できます。



次へ進みます

5 (コピー)をクリックする

④で選択したデータがクリップボードにコピーされます。

① クリック



6 コピー先のデータ番号を選択し、 (貼り付け)をクリックする

貼り付け確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると、選択したデータ番号にコピーした内容が上書きされます。

コピー先にデータがある場合は、上書き確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると上書きされます。

① クリック

② クリック



MEMO

複数のデータをコピーしたときは、選択したコピー先データ番号を先頭に、連続して貼り付きます。コピー元を飛び飛びに選択した場合は、間隔をつめて連続で貼り付きます。

7 コピー先のファイルを保存する

 (上書き保存)をクリックすると、現在のファイル名で上書き保存されます。

別名で保存するときは [ファイル] - [名前を付けて保存] を選択し、保存画面でファイル名を入力します。

!!注意!!

「テプラ」PRO本体にデータをコピーする場合は、コピーした時点で「テプラ」PRO本体のファイルに書き込まれます。上書き実行後は、元データの復元はできませんので、充分に確認してください。

移動する

1 移動したいデータをクリックして選択する

「コピーする」の手順①～④の操作で移動したいデータを選択します。

参照☞P.115「コピーする」

① クリック

プレビューエリアにデータの内容が表示されます。



MEMO

複数のデータを選択するときは、キーボードの<Ctrl>を押しながら1行ずつクリックします。

また、最初の候補をクリックして選択したあと、最後の候補を<Shift>を押しながらクリックすると最初～最後の候補までのすべての行を選択できます。

<Ctrl>を押しながら<A>を押すと、全データを選択できます。

2 ⌂(切り取り)をクリックする

①で選択したデータがクリップボードにコピーされます。

① クリック



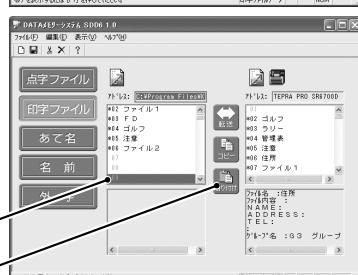
3 移動先のデータ番号を選択し、(貼り付け)をクリックする

貼り付け確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると、選択したデータ番号にコピーした内容が貼り付きます。移動元のデータは削除されます。

移動先にデータがある場合は、上書き確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると上書きされます。

① クリック

② クリック



MEMO

複数のデータを移動したときは、選択した移動先データ番号を先頭に、連続して貼り付きます。

移動元を飛び飛びに選択した場合は、間隔をつめて連続で貼り付きます。

4 移動先のファイルを保存する

〔上書き保存〕をクリックすると、現在のファイル名で上書き保存されます。別名で保存するときは〔ファイル〕→〔名前を付けて保存〕を選択し、保存画面でファイル名を入力します。

!! 注意 !!

「テプラ」PRO本体にデータを移動する場合は、移動した時点で「テプラ」PRO本体のファイルに書き込まれます。上書き実行後は、元データの復元はできませんので、充分に確認してください。

削除する

① 削除したいデータをクリックして選択する

① クリック

MEMO

複数のデータを選択するときは、キーボードの<Ctrl>を押しながら1行ずつクリックします。

また、最初の候補をクリックして選択したあと、最後の候補を<Shift>を押しながらクリックすると最初～最後の候補までのすべての行を選択できます。

<Ctrl>を押しながら<A>を押すと、全データを選択できます。



② X(削除)をクリックする

削除確認のメッセージが表示されます。

① クリック

MEMO

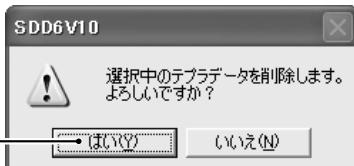
キーボードの<Delete>を押しても削除できます。



③ [はい] をクリックする

データが削除されます。

① クリック



④ ファイルを保存する

〔上書き保存〕をクリックすると、現在のファイル名で上書き保存されます。

別名で保存するときは〔ファイル〕-〔名前を付けて保存〕を選択し、保存画面でファイル名を入力します。

!!注意!!

- データ表示エリアに読み込んだ「テプラ」PRO本体のデータを削除する場合、削除実行後は元データの復元はできませんので、充分に確認してください。
- データ表示エリアに読み込んだ「テプラ」PRO本体のデータを削除するとき、データ量によって時間がかかる場合があります。

●あて名・名前データをパソコンとやりとりする

「.xls形式」、「.csv形式」などで作成したあて名や名前用のファイルを「テプラ」PRO本体で利用できるように、変換することができます。

また、「テプラ」PRO本体で作成したあて名や名前データを「.xls形式」、「.csv形式」などに変換することもできます。

パソコンであて名・名前用ファイルを作成するときの注意

あて名や名前用のファイルを「.xls形式」、「.csv形式」で作成する場合は、「テプラ」PRO本体のあて名や名前の登録項目と同じ順序、同じ制限文字数で作成する必要があります。

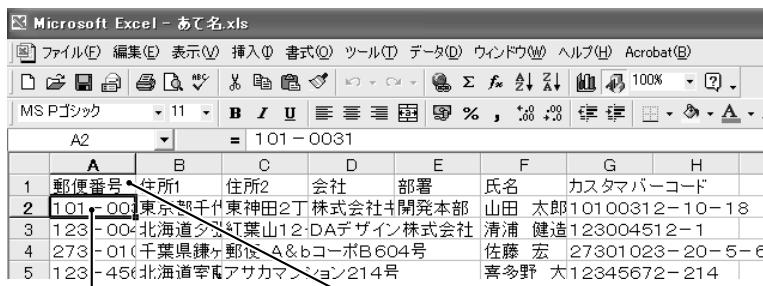
パソコンであて名用ファイルを作成する

パソコンであて名用ファイルを作成する場合、以下の項目を入力します。

(列番号)	A	B	C	D	E	F	G
項目	郵便番号	住所1	住所2	会社	部署	氏名	カスタマバーコード
文字数の制限	8文字	20文字	20文字	20文字	20文字	20文字	20文字

実際に作成する場合は以下の通りになります。

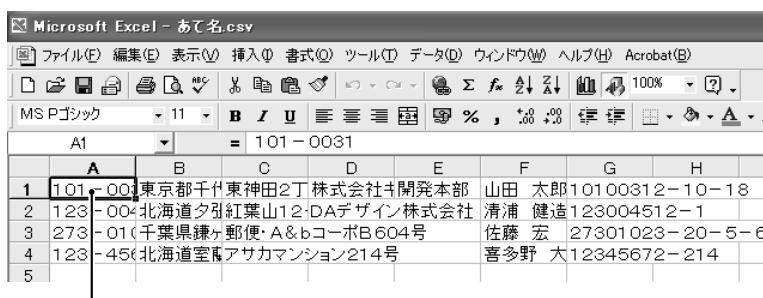
●「.xls形式」で作成する場合



	A	B	C	D	E	F	G	H
1	郵便番号	住所1	住所2	会社	部署	氏名	カスタマバーコード	
2	101-001	東京都千代田区東神田2丁	株式会社A	開発本部	山田 太郎	10100312-10-18		
3	123-004	北海道夕張紅葉山12	DAデザイン株式会社	清浦 健造	123004512-1			
4	273-010	千葉県鎌ヶ谷市A&bコーポB604号	佐藤 宏	27301023-20-5-6				
5	123-456	北海道室蘭市アカママンション214号	喜多野 大	12345672-214				

2行目からデータを入力します 1行目にタイトルを入力する必要があります

●「.csv形式」で作成する場合



	A	B	C	D	E	F	G	H
1	郵便番号	住所1	住所2	会社	部署	氏名	カスタマバーコード	
2	101-001	東京都千代田区東神田2丁	株式会社A	開発本部	山田 太郎	10100312-10-18		
3	123-004	北海道夕張紅葉山12	DAデザイン株式会社	清浦 健造	123004512-1			
4	273-010	千葉県鎌ヶ谷市A&bコーポB604号	佐藤 宏	27301023-20-5-6				
5	123-456	北海道室蘭市アカママンション214号	喜多野 大	12345672-214				

1行目からデータを入力します

パソコンで名前用ファイルを作成する

パソコンで名前用ファイルを作成する場合、以下の項目を入力します。

(列番号)	A	B	C	D
項目	氏(漢字)	名(漢字)	氏(読み)	名(読み)
文字数の制限	7文字	7文字	7文字	7文字

実際に作成する場合は以下の通りになります。

● 「.xls形式」で作成する場合

A	B	C	D	E
1	氏(漢字)名(漢字)			
2	佐藤	さとる	さとる	さとる
3	平川	ひらかわ	ひらかわ	ひらかわ
4	齊藤	さいとう	さいとう	さいとう
5	山田	やまだ	やまだ	やまだ

2行目からデータを入力します

1行目にタイトルを入力する

必要があります

● 「.csv形式」で作成する場合

A	B	C	D	E
1	佐藤	さとる	さとる	さとる
2	平川	ひらかわ	ひらかわ	ひらかわ
3	齊藤	さいとう	さいとう	さいとう
4	山田	やまだ	やまだ	やまだ
5				

!!注意!!

- 利用できるデータは「.xls形式(Excelで作成したデータ)」、「.csv形式(カンマ区切りのテキスト)」、「.txt形式」のファイルです。また、「.xls形式」のデータを読み込むにはMicrosoft® Excelが必要です。
- 半角数字は全角数字に変換されます。「テプラ」PRO本体が対応していない記号の一部は「■」で登録されます。
- 郵便番号はハイフン(ー)を含む数字8文字のデータ以外、正しく読み込まれない場合があります。
- Excelでデータを作成する場合は、以下の点に注意してください。
 - 対応しているExcelのバージョンは、Microsoft® Excel5.0/7.0/95/97/2000/2002/2003です。
 - 1行目にはタイトル名が必要です。あて名の場合、1行目には「A1～G1」までのセルにタイトル名を入力してください。名前の場合、1行目には「A1～D1」までのセルにタイトル名を入力してください。タイトル名がついていないと、データが入力されていても正しく読み込まれません。
 - データは2行目から認識します。1行目のタイトル名は、列認識のために使用され、あて名データや名前データには読み込まれません。
 - 読み込めるデータは、あて名では列数が7列、行数が最大101行(1行目のタイトル名を含む)、名前では列数が4列、行数が最大41行(1行目のタイトル名を含む)です。
 - シート名、列のタイトルの1文字目にスペースは使用できません。
 - Excelの表示形式で指定した日付や通貨表示等は読み込まれません。
 - 数値データは、桁数が多いと指数表示や異なる値で読み込まれる場合があります。Excelでセルの表示形式を「文字列」として入力したデータをお使いください。

パソコンで作成したあて名・名前用ファイルを「テプラ」PRO本体で利用できる形式に変換する

パソコンで作成したあて名データや名前データをSDD6に表示して、「テプラ」PRO本体で利用できる形式に変換します。

ここでは、あて名データでの操作を例に説明していますが、名前データも基本的に同じ操作となります。

① データ選択ボタンをクリックする

[あて名] または [名前] を選択します。

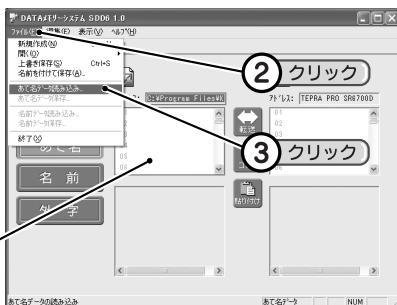
① クリック



② 左側のPCデータ表示エリアをクリックして、[ファイル] - [あて名データ読み込み] をクリックする

[あて名データ読み込み] 画面が表示されます。

① クリック



MEMO

名前データの場合は、ここで [ファイル] - [名前データ読み込み] をクリックします。

③ ファイルを指定して [開く] をクリックする

[開く] 画面にファイルがない場合は、「ファイルの場所」の や などをクリックして、保存場所を表示させます。

目的のファイルを選択して [開く] をクリックします。

「.csv形式」の場合は、ファイルが開きます。(手順⑤へ進みます。)

「.xls形式」の場合は、[シートの選択] 画面が表示されます。(手順④へ進みます。)



① ファイル名を指定して

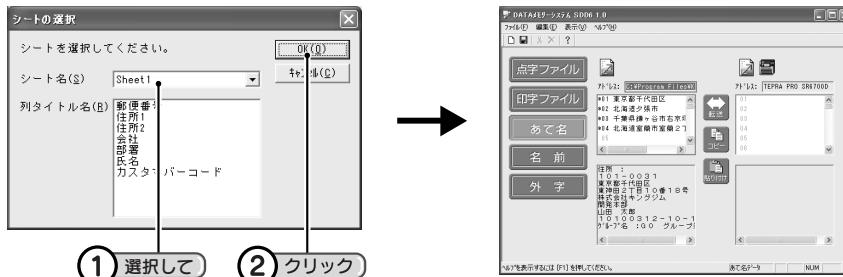
② クリック

次へ進みます

④ Excelファイルの場合は、シート名を選択し、[OK]をクリックする

「.CSV形式」の場合はこの手順は不要です。

ファイルが開くと、PCデータ表示エリアにデータが表示されます。



⑤ 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアに、転送先となる「テプラ」PRO本体のデータを表示させる

参考 ↗P.107 「テプラ」PRO本体のデータを表示する

MEMO

右側のTEPRA/PCデータ表示エリアにもSDD6ファイル(.dd1形式)を開くことができます。左右の表示エリアに別々のSDD6ファイルを開けば、SDD6ファイル間でデータを転送することができます。



⑥ データを「テプラ」PRO本体に転送する

以降は、データの転送機能やコピー機能を利用して、データをTEPRA/PC表示エリアに転送します。

参考 ↗P.113 「パソコンにあるデータを「テプラ」PRO本体に転送する」

参考 ↗P.115 「データをコピーする・移動する」

「テプラ」PRO本体で作成したあて名・名前データをパソコンで利用できる形式に変換する

SDD6に表示した「テプラ」PRO本体のあて名や名前データを、パソコンで利用できる形式のファイル（「.xls形式」、「.csv形式」）などに変換します。

ここでは、あて名データでの操作を例に説明していますが、名前データも基本的に同じ操作となります。

① データ選択ボタンをクリックする

【あて名】または【名前】を選択します。

① クリック



② 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアに、転送元となる「テプラ」PRO本体のデータを表示させる

参照☞P.107 「「テプラ」PRO本体のデータを表示する」

MEMO

右側のTEPRA/PCデータ表示エリアにもSDD6ファイル（.dd1形式）を開くことができます。左右の表示エリアに別々のSDD6ファイルを開けば、SDD6ファイル間でデータを転送することができます。



③ 左側のPCデータ表示エリアに、転送先となるファイルを開く

参照☞P.108 「パソコンのデータを表示する」

④ 変換したいデータを選択し、➡ (転送) (コピー) (貼り付け)などを利用してPCデータ表示エリアに転送する

参照☞P.111 「「テプラ」PRO本体のデータをパソコンに転送する」

参照☞P.115 「データをコピーする・移動する」

MEMO

「テプラ」PRO本体のデータをパソコンで利用できる形式に変換するには、一度SDD6ファイル（.dd1形式）に変換する必要があります。SDD6ファイル（.dd1形式）の場合は、この手順は不要です。

次へ進みます

5 左側のPCデータ表示エリアをクリックして
【ファイル】 - 【あて名データ保存】をクリックする

【あて名データ保存】画面が表示されます。

② クリック

③ クリック

① クリック



MEMO

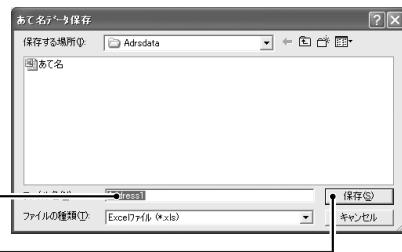
名前データの場合は、ここで【ファイル】 - 【名前データ保存】をクリックします。

6 ファイル名を入力して【保存】をクリックする

「ファイルの種類」でファイルの保存形式を「.xls形式(Excelデータ)」、「.csv形式(カンマ区切りのテキスト)」、「.txt形式」から選択できます。

① ファイル名を入力して

② クリック



!!注意!!

「.xls形式」、「.csv形式」、「.txt形式」で保存すると、あて名・名前データのグループ情報は削除されます。

MEMO

・既存のファイル名を指定した場合、ファイルそのものが上書きされます。

・「.xls形式」で保存すると、1行目には以下の項目名が表示されます。

あて名：「郵便番号」、「住所1」、「住所2」、「会社」、「部署」、「氏名」、「カスタマバーコード」

名前：「氏(漢字)」、「名(漢字)」、「氏(読み)」、「名(読み)」

●外字の編集

データ表示エリアに読み込んだ「テプラ」PRO本体の外字データを編集するだけでなく、新たに外字を作成して「テプラ」PRO本体に転送することができます。

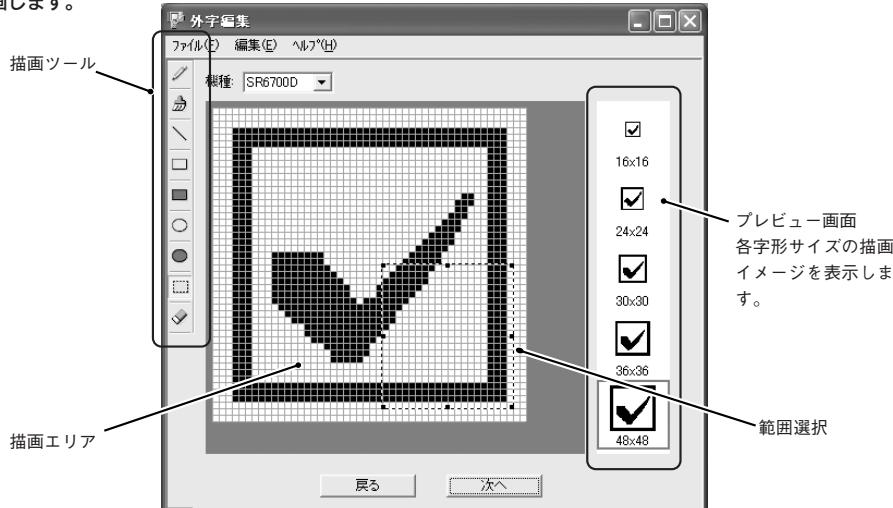
画面表示と描画方法

外字を編集するときは、1つの外字について、数段階の大きさの字形データを登録します。これは複数の文字サイズを美しく印刷するためです。登録する字形データの数は「テプラ」PRO本体の機種によって異なります。

描画方法

外字の編集は、方眼紙のマス目を点(ドット)で埋める作業です。

画面左側の描画ツールから描画方法を選び、描画エリアのマス目の上でマウスをクリックやドラッグして描画します。



描画ツール

	鉛筆	1ドットずつ描画します。
	ブラシ	太い幅で描画します。
	直線	直線を引きます。
	四角(外枠)	四角の枠を描画します
	四角(塗りつぶし)	塗りつぶしの四角形を描画します。
	楕円(外枠)	楕円の枠を描画します
	楕円(塗りつぶし)	塗りつぶしの楕円を描画します。
	範囲選択	描画エリアの一部を選択します。範囲選択後、範囲内をドラッグすると、その部分を移動することができます。
	消しゴム	塗りつぶした部分を消します。

新規に外字データを登録する

① データ選択ボタンで【外字】をクリックする
[外字編集] ボタンが表示されます。

① クリック

[外字編集] ボタンが表示
されます



② 「テプラ」PRO本体のデータ、またはパソコンのデータを表示する
参照☞P.107 「「テプラ」PRO本体のデータを表示する」
参照☞P.108 「パソコンのデータを表示する」

③ 新規に作成する外字のデータ番号を選択し、
[外字編集] をクリックする

外字編集画面が表示されます。

① クリック

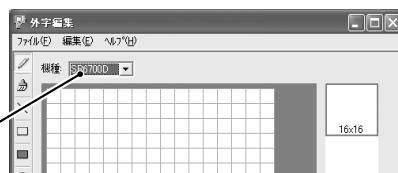
② クリック



④ 機種を選択する

接続している「テプラ」PRO本体、またはご使用
になる「テプラ」PRO本体を選択します。

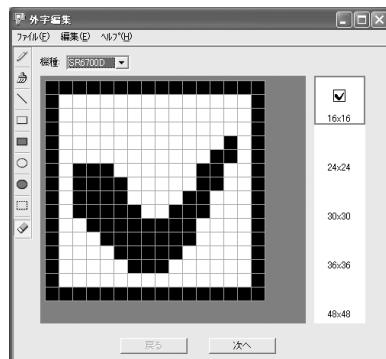
① クリック



MEMO

機種により、必要となる字形サイズが異なります。複数の機種に転送したい場合は、「全ドット数」を選択してください。ただし、SDD6からは他の機種には転送できません。

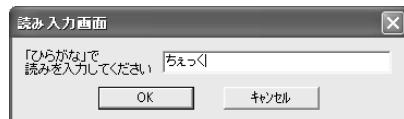
5 16×16ドットの字形パターンを編集する
描画ツールから描画方法を選び、描画エリアのマス目の上でマウスをクリックやドラッグして描画します。



6 [次へ] をクリックする
次のサイズの描画エリアが表示されます。
16ドットのデータを元にパターンが自動的に拡大されます。

7 拡大されたデータを補正する
最後の字形サイズを補正して [次へ] をクリックすると、読み入力画面が表示されます。

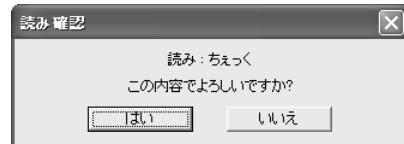
8 外字の読みをひらがなで入力し、[OK] をクリックする
読みの確認画面が表示されます。



MEMO

入力できる「読み」の文字数は16文字以内です。ただし、「テプラ」PRO本体では、濁音、半濁音を2文字と数えるため、転送後、超えた分は文末から削除されます。

9 [はい] をクリックする
外字の編集を終了し、外字が登録されます。



!! 注意 !!

データ表示エリアに読み込んだ「テプラ」PRO本体の外字データに登録する場合は、登録した時点で「テプラ」PRO本体のファイルに書き込まれます。

10 作成した外字をクリックして確認する

① クリック

プレビューエリアにデータの内容が表示されます。



外字データを修正する

1 データ選択ボタンで【外字】をクリックする

【外字編集】ボタンが表示されます。

1 クリック

【外字編集】ボタンが表示
されます



2 「テプラ」PRO本体のデータ、またはパソコンのデータを表示する

参照☞P.107 「「テプラ」PRO本体のデータを表示する」

参照☞P.108 「パソコンのデータを表示する」

3 新規に作成する外字のデータ番号を選択し、 【外字編集】をクリックする

外字編集画面が表示されます。

1 クリック

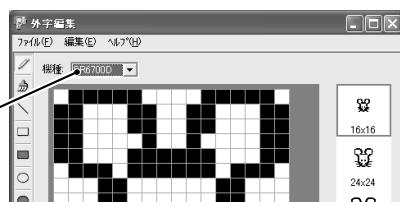
2 クリック



4 機種を選択する

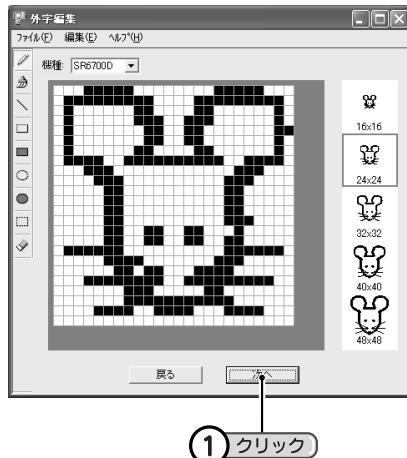
ご使用になる「テプラ」PRO本体を選択します。

1 クリック



5 修正したい字形サイズを選ぶ

修正したい字形サイズが表示されるまで、[次へ] ボタンをクリックします。



6 外字のパターンを修正する

描画ツールから描画方法を選び、描画エリアのマス目の上でマウスをクリックやドラッグして描画します。

7 他に修正する字形サイズを選ぶ

最後の字形サイズを修正して [次へ] をクリックすると、読み入力画面が表示されます。

MEMO

次の字形サイズがすでに登録されている場合は、[次へ] をクリックしても自動的に拡大されません。

8 外字の読みをひらがなで入力し、[OK] をクリックする

読みの確認画面が表示されます。

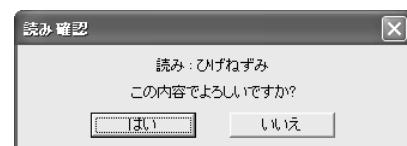


MEMO

入力できる「読み」の文字数は16文字以内です。ただし、「テプラ」PRO本体では、濁音、半濁音を2文字と数えるため、転送後、超えた分は文末から削除されます。

9 [はい] をクリックする

外字の修正を反映し、外字が登録されます。



!! 注意 !!

データ表示エリアに読み込んだ「テプラ」PRO本体の外字データを修正する場合は、登録した時点で「テプラ」PRO本体のファイルに書き込まれます。読み確認画面で [はい] をクリックすると、元データの復元はできませんので、充分に確認してください。

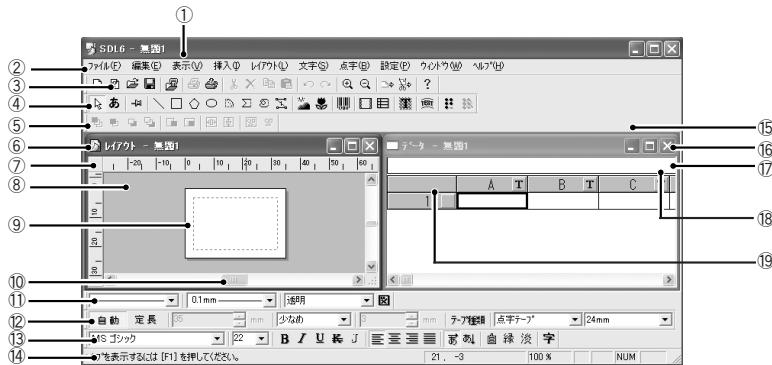
付録

付

録

●画面各部の名前とはたらき

専用エディタ「PCラベルシステム SDL6」



① タイトルバー 作っているラベルのファイル名などを表示します。
新規作成時には「無題」と表示されます。

② メニューバー すべての機能がメニューの中に含まれています。参照 [P.133](#)

③ 標準ツールバー よく使う機能がアイコン表示されています。参照 [P.138](#)

④ 編集ツールバー ブロックの編集機能がアイコン表示されています。参照 [P.139](#)

⑤ レイアウトツールバー ブロックの位置揃え機能がアイコン表示されています。参照 [P.139](#)

⑥ レイアウト編集画面 ラベルのレイアウトを編集する画面です。

⑦ 目盛り 位置の目安になります。

⑧ 作業領域 ラベル外の部分です。ブロックを一時的に移動しておけます。

⑨ 印刷範囲 赤い点線で表示されます。この線の内部が実際に印刷できる範囲です。打刻範囲は印刷範囲の外になります。

⑩ スクロールバー 作業領域内で、画面を上下左右にスクロールします。

⑪ 図形ツールバー 線の種類や太さ、図形の塗りつぶしを指定できます。参照 [P.140](#)

⑫ テープ設定ツールバー テープの幅や長さ、余白を指定できます。参照 [P.140](#)

⑬ 文字ツールバー 文字のフォントやサイズ、装飾を指定できます。参照 [P.140](#)

⑭ ステータスバー コマンドの説明や、現在のマウスポイントの座標、画面の表示倍率などが表示されます。

⑮ データ作成画面 ラベルに流し込むデータを編集する画面です。参照 [P.61](#)

⑯ 入力ボックス 選択したセルの入力ができます。

⑰ 列タイトル データ列のタイトルです。

⑱ 列属性 データ列の属性がアイコン表示されています。

⑲ 行 データの行番号です。

MEMO

- 各ツールバーは、[表示] — [ツールバー] で表示する/しないを切り換えられます。
- 目盛りは、[表示] — [目盛り表示] で表示する/しないを切り換えられます。

各メニューの機能(レイアウト編集画面選択時)

●ファイルメニューの各コマンド

ファイル(E)	編集(E)	表示(V)	挿入(I)
新規作成(N)	Ctrl+N		
開く(O)	Ctrl+O		
閉じる(C)			
上書き保存(S)	Ctrl+S		
名前を付けて保存(A)			
データ読み込み(D)			
データ保存(H)			
デザインフォーム(W)			
印刷と打刻(P)			
テープの設定(T)			
プリンタの設定(Y)			
1 address			
2 baseball			
3 arttxt1			
終了(X)			

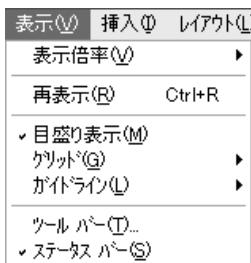
新規作成 ファイルを新規に作ります。参照☞P.21
開く 既存のファイルを開きます。参照☞P.25
閉じる 作業中のファイルを終了します。
上書き保存 作業中のファイルを同じ名前で上書きして保存します。参照☞P.34
名前を付けて保存 作業中のファイルを新しい名前をつけて保存します。参照☞P.34
データ読み込み 流し込み用のデータを読み込みます。
参照☞P.63
データ保存 作業中のデータ画面のデータのみ保存します。
参照☞P.68
デザインフォーム デザインフォームを開きます。参照☞P.26
印刷と打刻 作業中のファイルを印刷/打刻します。
参照☞P.31
テープの設定 テープの設定をします。参照☞P.24
プリンタの設定 プリンタのプロパティを表示して設定を変更します。
ファイル名 1, 2, 3, 4, 直前に編集したファイル名が番号とともに最大10個まで表示されます。選択すると開きます。
終了 専用エディタを終了します。参照☞P.28

●編集メニューの各コマンド

編集(E)	表示(V)	挿入(I)	レ
元に戻す(U)	Ctrl+Z		
やり直す(R)	Ctrl+Y		
切り取り(T)	Ctrl+X		
北(C)	Ctrl+C		
貼り付け(P)	Ctrl+V		
削除(D)	Delete		
全体選択(A)	Ctrl+A		
選択解除(N)			
テキスト編集			
リンクの設定(K)			
オブジェクト(O)			
プロパティ(E)	Alt+Enter		

元に戻す 直前におこなった操作を元に戻します。
やり直す 元に戻した操作をやりなおします。
切り取り 選択したブロックを切り取って、クリップボードに保存します。
コピー 選択したブロックをコピーして、クリップボードに保存します。参照☞P.53
貼り付け クリップボードのデータを貼りつけます。
削除 選択したブロックを削除します。参照☞P.60
全体選択 すべてのブロックを選択します。
選択解除 すべてのブロックの選択を解除します。
テキスト編集 選択しているテキストブロックを、文字入力できる状態にします。
オブジェクトを選択しているときは、名称が「オブジェクト編集」となり、オブジェクトを編集できます。
リンクの設定 ラベルに挿入されたオブジェクトの現在設定されているリンク、オブジェクトの種類、リンクの更新方法が表示されます。
オブジェクト オブジェクトを編集します。選択すると、さらに次の選択肢が表示され、開いたり、編集したりできます(オブジェクトの種類によって表示される名称が変わります)。編集終了後は、キーボードの<Esc>キーを押して専用エディタに戻ります。
プロパティ 選択しているブロックの設定変更画面を表示します。設定変更画面は、テキストブロックや图形ブロックなど、対象によって異なります。

●表示メニューの各コマンド



表示倍率 編集画面の拡大表示または縮小表示を切り替えます。選択すると、さらに次の選択肢が表示され、倍率を指定できます。

再表示 編集中のレイアウトを表示しなおします。

目盛り表示(M) 目盛りの表示と非表示を切り替えます。

グリッド 選択すると、さらに次の選択肢が表示されます。表示: グリッドの表示と非表示を切り替えます。設定: グリッドの間隔を設定します。

ガイドライン 選択すると、さらに次の選択肢が表示されます。表示: ガイドラインの表示と非表示を切り替えます。吸着: ブロック移動時にガイドラインに吸着します。

ツールバー 各ツールバーの表示と非表示をステータスバーの表示と非表示を切り替えます。

ステータスバー ステータスバーの表示と非表示を切り替えます。

●挿入メニューの各コマンド



イメージ イメージを挿入します。参照 [P.86](#)

記号 記号を挿入します。参照 [P.88](#)

バーコード バーコードを設定・挿入します。参照 [P.92](#)

外枠 外枠を挿入します。参照 [P.98](#)

表組み 表組みを挿入します。参照 [P.82](#)

連番 連番を設定・挿入します。参照 [P.89](#)

カスタマバーコード カスタマバーコードを設定・挿入します。参照 [P.95](#)

日付・時刻 日付・時刻を設定・挿入します。参照 [P.97](#)

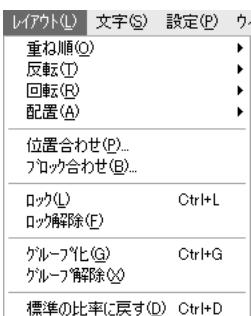
地紋 地紋を挿入します。参照 [P.79](#)

アートテキスト アートテキストを挿入します。参照 [P.84](#)

流し込み枠 流し込み枠を選択・挿入します。参照 [P.65](#)

オブジェクトの作成と貼り付け オブジェクトを選択・挿入します。参照 [P.99](#)

●レイアウトメニューの各コマンド



重ね順 ブロックの重ね順を変更します。参照 [P.56](#)

反転 ブロックを水平または垂直に反転します。参照 [P.55](#)

回転 ブロックを回転します。参照 [P.54](#)

配置 ブロックの相対位置を変更します。

位置合わせ マウスのクリック位置を基準にブロックの位置を合わせます。参照 [P.57](#)

ブロック合わせ 特定のブロックを基準に他のブロック位置を合わせます。参照 [P.57](#)

ロック ブロックを編集できない状態にします。参照 [P.58](#)

ロック解除 ロックを解除します。参照 [P.58](#)

グループ化 複数のブロックを1つのブロックにまとめます。参照 [P.59](#)

グループ解除 グループ化を解除します。参照 [P.59](#)

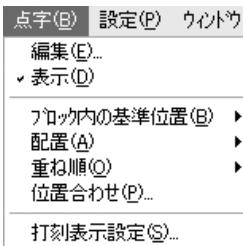
標準の比率に戻す ブロックのサイズを自動調整します。テキストは文字の範囲に、図形は縦横比が同じになります。

●文字メニューの各コマンド



縦書き 文字を縦書きにします。
横書き 文字を横書きにします。
左寄せ 文字をブロック内で左寄せにします。
中央合わせ 文字をブロック内で中央合わせにします。
右寄せ 文字をブロック内で右寄せにします。
均等割付 文字をブロック内で均等に配置します。

●点字メニューの各コマンド



編集 [点字編集] 画面が表示されます。
参照 ↪ P.35

表示 打刻ブロックの表示/非表示を切り替えます。
参照 ↪ P.36

ブロック内の基準位置 打刻ブロック長が変わるときの基準位置を指定します。

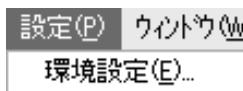
配置 打刻ブロックの位置を変更します。
参照 ↪ P.40

重ね順 打刻ブロックの重ね順を変更します。
参照 ↪ P.41

位置合わせ マウスのクリック位置を基準にブロックの位置を合わせます。参照 ↪ P.42

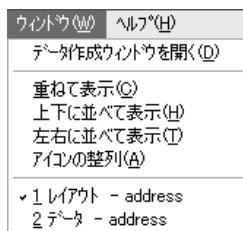
打刻表示設定 打刻ブロックの表示色と背景色を選択できます。

●設定メニューの各コマンド



環境設定 表示や印刷、機能の指定条件など、使用環境全般の設定ができます。

●ウインドウメニューの各コマンド



データ作成ウインドウを開く データ作成画面を開きます。参照 ↪ P.62

重ねて表示 全ウインドウを重ねて表示します。

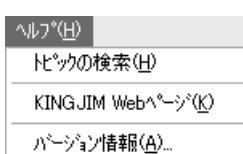
上下に並べて表示 全ウインドウを上下に並べて表示します。

左右に並べて表示 全ウインドウを左右に並べて表示します。

アイコンの整列 最小化されたウインドウをエディタ画面内で整列します。

ファイル名 1, 2 開いているファイルのファイル名が番号とともに表示されます。

●ヘルプメニューの各コマンド



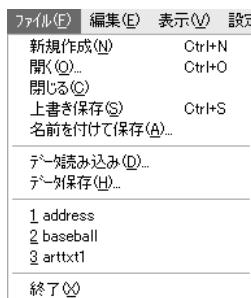
トピックの検索 キーワードを入力してトピックを検索します。

KINGJIM Webページ インターネットでKING JIMのWebページを参照します。

バージョン情報 専用エディタのバージョン情報を表示します。

各メニューの機能(データ作成画面選択時)

●ファイルメニューの各コマンド



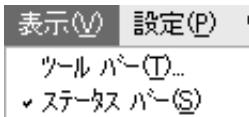
新規作成 ファイルを新規に作ります。参照 [P.21](#)
 開く 既存のファイルを開きます。参照 [P.25](#)
 閉じる 作業中のファイルを終了します。
 上書き保存 作業中のファイルを同じ名前で上書きして保存します。参照 [P.34](#)
 名前を付けて保存 作業中のファイルを新しい名前をつけて保存します。参照 [P.34](#)
 データ読み込み 流し込み用のデータを読み込みます。参照 [P.63](#)
 データ保存 作業中のデータ画面のデータのみ保存します。
 ファイル名 1, 2, 3, 4, ... 直前に編集したファイル名が番号とともに最大10個まで表示されます。選択すると開きます。
 終了 専用ディタを終了します。参照 [P.28](#)

●編集メニューの各コマンド



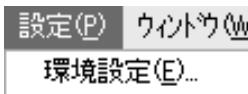
元に戻す 直前におこなった操作を元に戻します。
 やり直す 元に戻した操作をやりなおします。
 全体選択 すべてのセルを選択します。
 行選択 カーソルのある行を選択します。
 列選択 カーソルのある列を選択します。
 選択解除 すべてのセルの選択を解除します。
 切り取り 選択したセルのデータを切り取って、クリップボードに保存します。
 コピー 選択したセルのデータをコピーして、クリップボードに保存します。
 貼り付け クリップボードのデータを貼り付けます。
 削除 選択したセルのデータを削除します。
 行削除 カーソルのある行を削除します。参照 [P.69](#)
 行挿入 カーソルのある行の前に新しい行を挿入します。参照 [P.69](#)
 列削除 カーソルのある列を削除します。参照 [P.69](#)
 列挿入 カーソルのある列の前に新しい列を挿入します。参照 [P.69](#)
 列タイトル入力 カーソルのある列のタイトルを変更します。参照 [P.76](#)
 列属性 カーソルのある列の属性を設定します。参照 [P.71](#)
 ソート データの順番を並べ替えます。参照 [P.70](#)
 データ入力 カーソルのあるセルを、データ入力できる状態にします。

●表示メニューの各コマンド



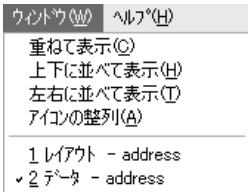
ツールバー 各ツールバーの表示と非表示を切り替えます。
 ステータスバー ステータスバーの表示と非表示を切り替えます。

●設定メニューの各コマンド



環境設定 表示や印刷、機能の指定条件など、使用環境全般の設定ができます。

●ウィンドウメニューの各コマンド



重ねて表示 全ウィンドウを重ねて表示します。
上下に並べて表示 全ウィンドウを上下に並べて表示します。
左右に並べて表示 全ウィンドウを左右に並べて表示します。
アイコンの整列 最小化されたウィンドウをエディタ画面内で整列します。
ファイル名 1, 2 開いているファイルのファイル名が番号とともに表示されます。
1 レイアウト - address
2 データ - address

●ヘルプメニューの各コマンド



トピックの検索 キーワードを入力してトピックを検索します。
KINGJIM Webページ インターネットでKING JIMのWebページを参照します。
バージョン情報 専用エディタのバージョン情報を表示します。

ツールバーの機能

MEMO

- ツールバーには、標準ツールバー、編集ツールバー、文字ツールバー、図形ツールバー、レイアウトツールバー、テープ設定ツールバーがあり、メニューバーの【表示】—【ツールバー】で表示させたり隠したりできます。



- ツールバーはドラッグして移動すると、独立したツールバーとなり、画面のどの位置にでも置いておけます。独立したツールバーのタイトルバーをダブルクリックすると、元の位置に戻ります。
- レイアウトツールバーは、初期状態では表示されません。メニューバーの【表示】—【ツールバー】で表示できます。

●標準ツールバー



- (新規ファイル) ファイルを新規に作ります。
- (テープの設定) 【テープ設定】画面を表示し、テープ幅などを設定します。参照 [P.24](#)
- (開く) 既存のファイルを開きます。
- (保存) 作業中のファイルを保存します。参照 [P.34](#)
- (デザインフォーム) デザインフォームを選択します。参照 [P.26](#)
- (印刷と打刻) 作業中のファイルを印刷/打刻します。参照 [P.31](#)
- (プリンタプロパティ) プリンタのプロパティを表示して設定を変更します。
- (切り取り) 選択されている範囲を切り取って、クリップボードに保存します。
- (削除) 選択されている範囲を削除します。
- (コピー) 選択されている範囲をコピーして、クリップボードに保存します。
- (貼り付け) クリップボードのデータを貼りつけます。
- (元に戻す) 直前におこなった操作を元に戻します。
- (やり直す) 元に戻した操作をやりなおします。
- (拡大表示) クリックした場所を一段階大きく表示します。
- (縮小表示) クリックした場所を一段階小さく表示します。
- (テープ送り) テープを送ります。
- (テープ送りカット) テープを送ったあと、カットします。
- (ヘルプトピック) ヘルプを表示します。

●編集ツールバー



〔(ブロック編集) 編集するブロックを選択します

〔(文字) テキスト編集モードに切り替えます。参照 [P.29](#)

〔(連続作成切り替え) ONになると、文字や同じ図形を繰り返し描画できます。OFFになると、1回の操作で入力や描画を終了します。同じ操作をする場合は、再度目的のツールボタンを押す必要があります。クリックしてONとOFFを切り替えます。

〔(直線) 直線を描画します。参照 [P.49](#)

〔(四角形) 四角形を描画します。参照 [P.49](#)

〔(正多角形) 正多角形を描画します。参照 [P.49](#)

〔(円) 円を描画します。参照 [P.49](#)

〔(扇形) 扇形、弓形、円弧を描画します。参照 [P.49](#)

〔(連続直線) 直線で図形を描画します。参照 [P.49](#)

〔(自由線) フリーハンドで図形を描画します。参照 [P.49](#)

〔(ベジェ曲線) ベジェ曲線で図形を描画します。参照 [P.49](#)

〔(イメージ) イメージを挿入します。参照 [P.86](#)

〔(記号) 記号を挿入します。参照 [P.88](#)

〔(バーコード) バーコードを挿入します。参照 [P.92](#)

〔(外枠) 外枠を挿入します。参照 [P.98](#)

〔(表組み) 表組みを挿入します。参照 [P.82](#)

〔(地紋) 地紋を挿入します。参照 [P.79](#)

〔(アートテキスト) アートテキストを挿入します。参照 [P.84](#)

〔(点字編集) 点字を挿入します。参照 [P.35](#)

〔(点字表示) 打刻ブロックの表示/非表示を切り替えます。参照 [P.36](#)

●レイアウトツールバー



〔(一番前へ) 選択したブロックを一番前に配置します。

〔(前へ) 選択したブロックを一つ前に配置します。

〔(後ろへ) 選択したブロックを一つ後ろに配置します。

〔(一番後ろへ) 選択したブロックを一番後ろに配置します。

〔(位置合わせ) 選択した複数のブロックを、指定した位置を基準に配置します。

〔(ブロック合わせ) 選択した複数のブロックを、指定したブロックを基準に配置します。

〔(左右中央) ブロックをテープの左右中央に配置します。

〔(上下中央) ブロックをテープの上下中央に配置します。

〔(グループ化) 複数のブロックを一つのグループにまとめます。

〔(グループ解除) グループ化を解除します。

●图形ツールバー



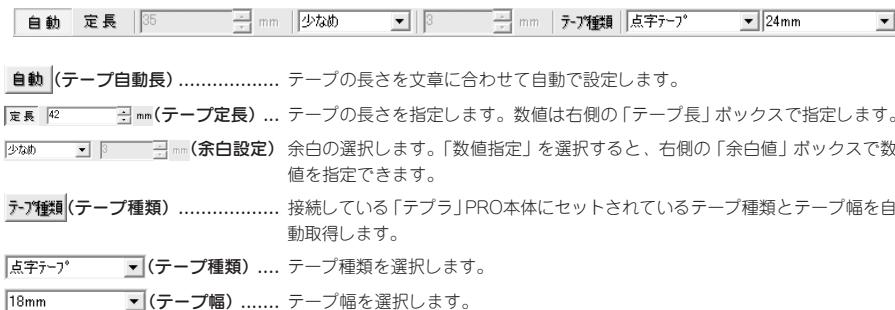
〔(線) 線の種類を選択します。参照☞P.50

〔(線の太さ) 線の太さを選択します。参照☞P.50

透明 (塗りつぶし) 図形内の塗りつぶしの種類を選択します。参照☞P.50

〔(图形の設定) [图形の設定]画面を表示し、線の種類や太さ、塗りつぶし、形状などの詳細を設定します。参照☞P.51

●テープ設定ツールバー



●文字ツールバー



MS 明朝 (フォント名) 文字の書体を選択します。参照☞P.44

17.7 (フォントサイズ) 文字のサイズを指定します。参照☞P.45

B (太字) 選択した文字を太字にします。参照☞P.46

I (斜体) 選択した文字を斜体にします。参照☞P.46

U (下線) 選択した文字に下線をつけます。参照☞P.46

K (取消し線) 選択した文字に二重線の取り消し線をつけます。参照☞P.46

J (影) 選択した文字に影をつけます。参照☞P.46

左寄せ (左寄せ) 文字列をブロック内の左側に配置します。参照☞P.46

中央合わせ (中央合わせ) 文字列をブロック内の中央に配置します。参照☞P.46

右寄せ (右寄せ) 文字列をブロック内の右側に配置します。参照☞P.46

均等割付 (均等割付) 文字列をブロック内で均等に配置します。参照☞P.46

横書き (横書き) 選択した文字列を横書きにします。参照☞P.46

縦書き (縦書き) 選択した文字列を縦書きにします。参照☞P.46

白抜き (白抜き) 選択した文字を白抜きにします。参照☞P.46

縁取り (縁取り) 選択した文字に縁取りをつけます。参照☞P.46

淡文字 (淡文字) 選択した文字を淡い色にします。参照☞P.46

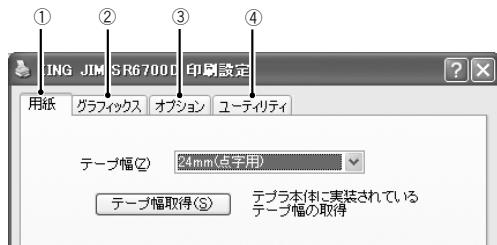
〔(文字の設定) [文字の設定]画面を表示し、フォントや装飾などの詳細を設定します。参照☞P.47

プリンタドライバ

プリンタドライバは、専用エディタの¹(プリンタプロパティ)を指定しても開きますが、初期設定を変更したい場合は、次のように【コントロールパネル】から開く【プリンタとFAX】(Windows 98/98SE/Me/2000は【プリンタ】)画面で指定します。

Windows XPの場合：【スタート】-【コントロールパネル】で開くコントロールパネルで【プリンタとその他のハードウェア】-【プリンタとFAX】を指定して【プリンタとFAX】画面を開き、そこから「プリンタ名(KING JIM SR6700D)」の「印刷設定」を指定します。

Windows 98/98SE/Me/2000の場合：【スタート】-【設定】-【コントロールパネル】で開くコントロールパネルで【プリンタ】を指定して【プリンタ】画面を開き、そこから「プリンタ名(KING JIM SR6700D)」の「プロパティ」(Windows 2000は「印刷設定」)を指定します。



!! 注意 !!

¹(プリンタプロパティ)から開いた場合、変更したプリンタドライバの設定内容はソフトを終了すると初期設定に戻ります。プリンタドライバの初期設定を変更したい場合は、【コントロールパネル】から開く【プリンタとFAX】(Windows 98/98SE/Me/2000は【プリンタ】)画面で設定してください。

MEMO

Windows 98/98SE/Meの場合は、全般、詳細、色の管理、共有タブが表示されることがあります。これらのタブで設定できる項目は、Windowsの標準的な設定です。各項目の詳細は、Windowsの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。

① 用紙タブ

印刷時に使用するテープを設定します。



テープ幅 使用するテープ幅を選択します。

【テープ幅取得】をクリックすると、「テープ」PRO本体にセットしてあるテープ幅を読み取ります。

向き 印刷する文字や画像の、用紙に対する向きを設定します。

鏡文字印刷 イメージを左右反転します。打刻ブロックが表示されているときは設定できません。

コピー部数 印刷枚数を設定します。打刻ブロックが表示されているときは設定できません。

バージョン情報 このプリンタドライバのバージョン情報を表示します。

標準に戻す すべての設定をインストールした時点の設定に戻します。

② グラフィックスタブ

印刷時の解像度やトーンの種類を設定します。



解像度 印刷解像度を表示しています。印刷解像度は固定で変更できません。

ディザーリング ハーフトーンの表現を選択します。

粗く : 境界のはっきりしている画像を高解像度で印刷するときに向いています。

細かく : 境界のはっきりしている画像を低解像度で印刷するときに向いています。

ラインアート : 線画に向いています。

白黒モード : 中間の色を白または黒で印刷します。このモードを選択したときは、白黒しきい値のバーが設定できます。

濃度 印刷の明暗を調整します。

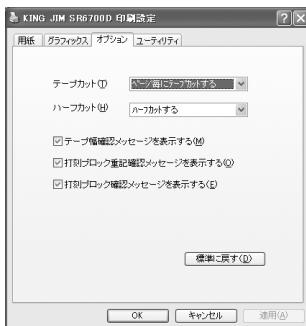
ハーフトーンカラー調整

..... Windows 2000/Windows XPで設定できます。
通常は変更しないでください。

標準に戻す すべての設定をインストールした時点の設定に戻します。

③ オプションタブ

テープカットの条件を指定します。



テープカット テープの自動カットをラベル1枚ごとにするか、1回の印刷ごとにするか、カットしないかで指定できます。

ハーフカット ハーフカットをするか、しないか指定できます。

テープ確認メッセージを表示する

..... 印刷時に表示されるテープ確認メッセージを表示するか、しないかを指定できます。

打刻ブロック重記確認メッセージを表示する

..... 点字と印字が重なっている場合、印刷時に確認メッセージを表示するか、しないか指定できます。

打刻ブロック確認メッセージを表示する

..... 打刻開始のメッセージを表示するか、しないか指定できます。

標準に戻す すべての設定をインストールした時点の設定に戻します。

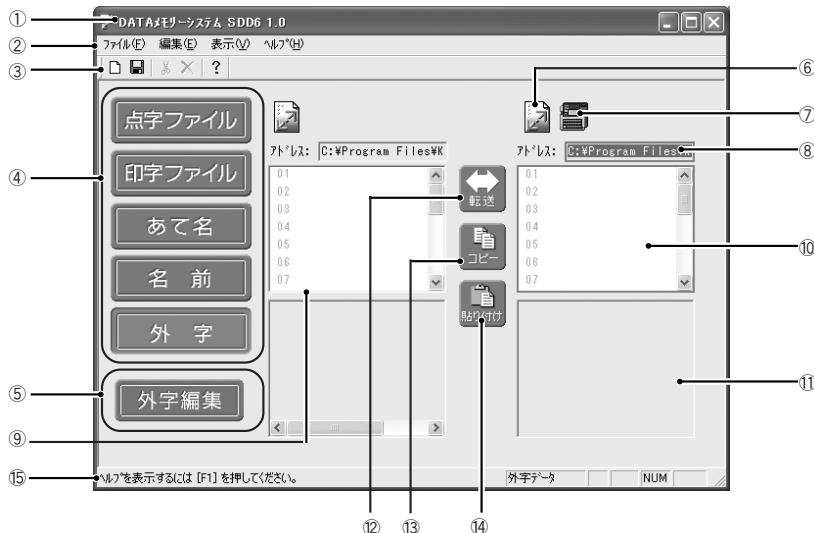
④ ユーティリティタブ

テープ送りやカットなど、パソコンから「テプラ」
PRO本体を動作させることができます。



テープ送りカット テープを送ったあと、カットします。
テープ送り テープを送ります。送られた部分はカット
されません。

転送ソフト「DATAメモリーシステム SDD6」



①タイトルバー 転送ソフト名を表示します。

②メニューバー 機能がメニューの中に含まれています。

③ツールバー 新規作成、上書き保存、切り取り、削除など、データを操作するボタンです。

④データ選択ボタン 表示するデータを選択します。

⑤外字編集ボタン 外字編集画面が表示されます。データ選択ボタンで「外字」が選択されたときに表示されます。

⑥PCファイル読み込み パソコンに保存されているSDD6ファイル(.dd1形式)を開きます。

⑦「テプラ」PRO本体ファイル読み込み 接続されている「テプラ」PRO本体のデータを読み込みます。

⑧アドレス データの保存場所を表示します。

⑨PCデータ表示エリア パソコンに保存されているSDD6ファイルのデータが一覧で表示されます。選択されているときは赤い枠が表示されます。

⑩TEPRA/PCデータ表示エリア 接続している「テプラ」PRO本体またはSDD6ファイルのデータが一覧で表示されます。選択されているときは赤い枠が表示されます。

⑪プレビューエリア 選択されているデータの内容(一部)を表示します。

⑫転送 選択されているデータを、転送先の同じデータ番号に転送します。

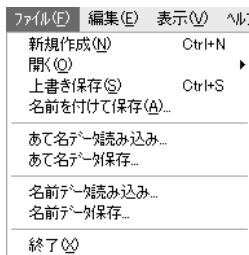
⑬コピー 選択されているデータをクリップボードにコピーします。

⑭貼り付け クリップボードにコピーされたデータを選択しているデータ番号に貼り付けます。

⑮ステータスバー コマンドの説明などが表示されます。

各メニューの機能(点字ファイル/印字ファイル/あて名/名前/外字 各転送画面)

●ファイルメニューの各コマンド



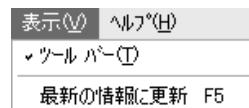
新規作成 ファイルを新規に作ります。参照 [P.110](#)
開く 「テプラ」PRO本体、またはPCデータファイル (.dd1形式)を開きます。参照 [P.107,108](#)
上書き保存 作業中のファイルを同じ名前で上書きして保存します。参照 [P.112](#)
名前を付けて保存 作業中のファイルを新しい名前をつけて保存します。参照 [P.112](#)
あて名データ読み込み 「.xls形式」、「.csv形式」、「.txt形式」のあて名データファイルを読み込みます。
あて名データ保存 作業中のあて名データを「.xls形式」、「.csv形式」、「.txt形式」で保存します。
名前データ読み込み 「.xls形式」、「.csv形式」、「.txt形式」の名前データファイルを読み込みます。
名前データ保存 作業中の名前データを「.xls形式」、「.csv形式」、「.txt形式」で保存します。
終了 転送ソフトを終了します。

●編集メニューの各コマンド



コピー 選択しているデータ番号の内容をクリップボードにコピーします。
切り取り 選択しているデータ番号の内容を切り取り、クリップボードにコピーします。
貼り付け クリップボードにコピーされた内容を選択しているデータ番号に貼り付けます。
全転送 すべてのデータを転送します。
全てを選択 すべてのデータを選択します。
削除 選択したデータを削除します。

●表示メニューの各コマンド



ツールバー ツールバーの表示と非表示を切り替えます。
最新の情報に更新 データの表示内容を更新します。

●ヘルプメニューの各コマンド



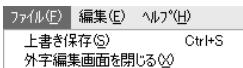
トピックの検索 キーワードを入力してトピックを検索します。
KINGJIM Webページ インターネットでKING JIMのWebページを参照します。
バージョン情報 転送ソフトのバージョン情報を表示します。

付

録

各メニューの機能(外字編集画面)

●ファイルメニューの各コマンド



上書き保存 作成中のファイルを同じ名前で上書きして保存します。
外字編集画面を閉じる .. 外字編集を終了します。

●編集メニューの各コマンド



元に戻す 直前におこなった操作を元に戻します。
切り取り 選択しているデータ番号の内容を切り取り、クリップボードにコピーします。
コピー 選択しているデータ番号の内容をクリップボードにコピーします。
貼り付け クリップボードにコピーされた内容を選択しているデータ番号に貼り付けます。
削除 選択したデータを削除します。
全て選択 全ての範囲を選択します。
白黒反転 白と黒を反転します。
貼り付け自動拡大 データの自動拡大を有効にします。
描画パターンをコピーして貼り付ける場合は、元データのドット数が小さければ自動的に拡大され、元データのドット数が大きければ自動的に縮小されます。
回転 データを回転します。

●ヘルプメニューの各コマンド



トピックの検索 キーワードを入力してトピックを検索します。
KING JIM Webページ インターネットでKING JIMのWebページを参照します。
バージョン情報 転送ソフトのバージョン情報を表示します。

ツールバーの機能(点字ファイル/印字ファイル/あて名/名前/外字 各転送画面)

●ツールバー



□(新規作成) SDD6ファイルを新規に作成します。
参照☞P.110
□(上書き保存) 作業中のファイルを同じ名前で上書きして保存します。
参照☞P.112
☐(切り取り) 選択しているデータ番号の内容を切り取り、クリップボードにコピーします。
☒(削除) 選択しているデータ番号の内容を削除します。
? (ヘルプトピック) ヘルプを表示します。

●故障かな？ と思ったら

動作しない、印刷できないなど、問題が発生した場合は、次の項目を確認してください。

印刷を実行しても「テプラ」 PRO本体が動作しない

パソコンの画面にエラーメッセージが表示されていませんか？

エラーが発生すると印刷できません。エラーメッセージの内容を確認してください。

プリントドライバがインストールされていますか？

プリントドライバがインストールされていないと印刷できません。

プリントドライバをインストールしてください。また、インストール後に、パソコンを再起動しなかった場合、プリントドライバが正常にインストールされていない可能性があります。プリントドライバをインストールしなおしてください。

参照☞P.8 「パソコンにインストールする」

「テプラ」PRO本体が正しくパソコンに接続されていますか？

パソコンと適切なケーブルで接続されているか確認してください。

参照☞P.18 「パソコンと「テプラ」PRO本体を接続する」

「テプラ」PRO本体がPCリンク状態になっていますか？

「テプラ」PRO本体のディスプレイに「PC通信可能」が点滅しているか確認してください。

参照☞P.31 「印刷する」

正しいプリンタ名が選択されていますか？

他のプリンタを指定していると正しく印刷されません。選択しているプリンタ名を確認してください。

参照☞P.31 「印刷する」

プリンタがオフラインになっていますか？

Windows98/98SEの場合、「テプラ」PRO本体を接続していない状態でパソコンを起動すると、「プリンタの設定」がオフラインになります。接続しても印刷できないときは、[スタート]—[設定]—[プリンタ]から機種名を選択し、右クリックで表示されるメニューから「プリンタをオフラインにする」を指定し、チェックをはずしてください。

機能が選択できません

カーソルが①②になっていますか？

カーソルが①②のときは機能を選択できません。

ラベル印刷後、自動カットされない

テープカットを「テープカットしない」に指定していますか？

プリントドライバのオプションタブで「テープカット」を「テープカットしない」に設定すると、印刷後の自動カットはおこないません。

参照☞P.141 「プリントドライバ」

カッターの刃が磨耗していますか？

カッターは刃物ですので、長期間使い続けると磨耗し切れにくくなります。カッターの刃の交換は有償で承ります。お買い上げ販売店、「テプラ」取扱店または当社お客様相談室までご相談ください。

参照☞P.156 「アフターサービスについて」

印刷位置がおかしい

アプリケーションで正しく設定していますか？

市販のアプリケーションを使用している場合、アプリケーションによっては、余白の設定や印刷位置の調整が必要なことがあります。「印刷プレビュー」機能などで印刷状態を確認してください。

MEMO

上記以外のときや、上記項目を確認しても改善しないときは、お買い上げ販売店、「テプラ」取扱店または当社お客様相談室までご相談ください。

参照☞P.156 「アフターサービスについて」

付

録

ハーフカットがうまくできない

ハーフカットは「する」になっていますか？

参照☞P.141「プリントドライバ」

自動カット「しない」になっていませんか？

自動カット「しない」になっている場合はハーフカットも動作しません。

参照☞P.141「プリントドライバ」

ハーフカットの刃が磨耗してませんか？

カッターは刃物ですので、長期間使い続けると磨耗し切れにくくなります。カッター刃の交換は有償で承ります。お買い上げ販売店、「テプラ」取扱店または当社お客様相談室までご相談ください。

参照☞P.156「アフターサービスについて」

うまく打刻できない

点字用ラベルを印刷しましたか？

打刻は、印刷をしたあとにおこないます。

ラベルを点字ラベル差込み口にきちんと差し込んでいますか？

ラベルをガイドに合わせず差し込むとうまく打刻できません。ガイドに沿ってラベルを差し込んでください。

参照☞P.31「印刷する」

○索引

英数字

CD-ROM	8
Code39/128(バーコード)	94
.csv形式(csvファイル)	63, 68, 119
.d9b形式(SDM9ファイル)	109
DATAメモリーシステム SDD6	9, 106
.dd1形式(SDD6ファイル)	109
.dot形式(テンプレート)	103
EAN-128(バーコード)	94
Excel	63, 103, 120
ITF(バーコード)	94
JAN-8/JAN-13(バーコード)	94
NW-7(バーコード)	94
PCデータ表示エリア	106
PCラベルシステム SDL6	9, 20
PCリンク	18
Pテープ	21
QR CODE(バーコード)	94
SDD6 ファイル	109
SDL6 ファイル	25, 34
SDM9 ファイル	109
SPC5 DRAW ファイル	25, 34
SPC9 DRAW3 ファイル	25, 34
SPC9 DRAW ファイル	25, 34
.td1形式(SDL6 ファイル)	25, 34
TEPRA/PCデータ表示エリア	106, 144
.tpa形式(SPC9 DRAW ファイル)	25, 34
.tpb形式(SPC5 DRAW ファイル)	25, 34
.tpc形式(SPC9 DRAW3 ファイル)	25, 34
.txt形式(テキストファイル)	63
UPC-A(バーコード)	94
UPC-E(バーコード)	94
USB	8
USBケーブル	18
Word	103
.xls形式(Excel ファイル)	63, 119
.xlt形式(テンプレート)	103

あ

アートテキスト	84
あて名データ	119
アドレス(SDD6)	106, 144
アフターサービスについて	156
アプリケーション	9, 15
淡文字(文字の設定)	46

アンインストール	15
アプリケーション	15
プリンタ ドライバ	15
安全上のご注意	3
アンダーライン(下線)	46
閾値(イメージファイル)	87
位置	
～合わせ(点字)	42
～合わせ(レイアウト)	57
[イメージ]画面	87
[図形の設定]画面	52
[文字の設定]画面	48
～を揃える	56
～を揃える(点字)	42
一番後ろへ(レイアウト)	56
一番後ろへ(点字)	41
一番前へ(レイアウト)	56
一番前へ(点字)	41
移動する	
打刻ブロックを～	40
データを～(SDD6)	117
ブロックを～	53
イメージデータ(属性)	71
イメージファイル	86
属性	72
色(テープイメージ)	22
印刷	31, 61
～チェック	62, 66
データ流し込み	66
貼り合わせラベル	78
～部数	32
連番	91
印刷範囲	23, 132
～を指定する	78
インストール	8
アプリケーション	10
プリンタ ドライバ	13
ウインドウメニュー	135, 137
上書き保存	34
円(図形)	49
扇形(図形)	49, 52
オブジェクト	99
オプション	
バーコード	92
プリンタ ドライバ	142
折り返して表示する(文字の設定)	47

か

外字	125
～データ	126
回転	54
回転角	
[イメージ]画面	87
[図形の設定]画面	52
[文字の設定]画面	48
鏡文字	141
角丸正方形	52
角丸長方形	52
影(文字の設定)	46, 47
重ね順	41, 56
カスタマバーコード	95
属性	71, 73
下線(文字の設定)	46
画像調整(イメージファイル)	87
形抜き(イメージファイル)	87
画面各部の名前とはたらき	132
間隔(文字の設定)	48
記号	88
機種の選択	21
起動	
専用エディタの～	20
転送ソフトの～	106
キャンセル(メイン画面)	20
行	
データ作成	132
～番号	62
～を削除する	69
～を挿入する	69
～を並び換える	70
行間	48
曲線文字	84
均等割付(文字の設定)	46
グラデーション(文字の設定)	48
グラフィックス(プリンタドライバ)	142
繰り返し数	89
グループ化	59
形状アートテキスト	85
図形	52
罫線編集(表組み)	83
減色方法(イメージファイル)	87
更新方法(日付・時刻)	97
項目(デザインフォーム)	26
コード(バーコード)	92
故障かな？と思ったら	147
コピーする	53
データを～(SDD6)	115
コピーボタン(SDD6)	106, 144

さ

サイズ'	
[文字の設定]画面	47
連番	89
最大(小)値	89
作業領域	132
削除	
図形	60
ソフトウェア(アンインストール)	15
データを～(SDD6)	118
座標	
[イメージ]画面	87
[図形の設定]画面	52
[文字の設定]画面	48
左右中央	57
四角形(図形)	49
時刻	97
字体	47
自動(テープ長)	22, 24
自動点訳	35, 75
市販のアプリケーション	99, 102
地紋	22, 79
斜体(文字の設定)	46
修飾(文字の設定)	47
住所表示番号	95
修正(外字)	128
自由線(図形)	49
終了	
専用エディタ	28
転送ソフト	110
種類	
新規作成	22
バーコードの～	92
使用許諾契約書	1
条件(パソコン)	8
初期値(連番)	89
書式(連番)	89
書体を変更する	44
白抜き(文字の設定)	46
新規作成	
専用エディタ	21
データ作成	62
転送ソフト	110
垂直等間隔	57
垂直反転	55
水平等間隔	57
水平反転	55
スクロールバー	132

図形	
～ツールバー	50, 132, 140
～の設定	51
～の描画	49
～のプロパティ	52
～の編集	50
～ブロック	50
スタイル	
[文字の設定]画面	47
連番	89
ステータスバー	132, 144
ステータスモニタ	33
すべてを保存する	68
正多角形	49, 52
接続	18
設定項目(バーコード)	94
設定メニュー	135, 137
セットアップ	7
セル	62
線	
図形	50, 51
～の種類	49, 50, 51
～の太さ	49, 50, 51
～を変更する	50
線種(図形)	49
前面に移動(レイアウト)	56
前面に移動(点字)	41
専用エディタ	9, 20, 28
創作地紋	79
装飾を指定する	46
挿入メニュー	134
増分	89
ソート	70
属性	
列～	62
連番	89
外枠	98
揃える(位置)	42, 56
た	
タイトルバー	132, 144
打刻	33
～ブロック	36
～ブロック移動	40
縦書き(文字の設定)	46
縦(テープの置き方)	22
チェックデジット	94
中央合わせ(文字の設定)	46
直接入力(点字)	37
直線(図形)	49
ツールバー	132, 144, 146
ツールボタン(图形)	49
定長(テープ長)	22, 24
データ	
～作成画面	61, 62
～作成と流し込み	61
～流し込み	65
～のみ保存する	68
～読み込み	63
～を入力する	64
～を開く	63
～を編集する	69
～を保存	68
データ作成ウィンドウを開く	22
データ作成画面	132
データ選択ボタン(SDD6)	106, 144
データ転送	111
テープ	
～イメージ(色)	22
～種類	21, 24
～設定画面	24
～設定ツールバー	24, 132, 140
～長	22, 24
～の置き方	22
～の設定	21, 24
～幅	21, 24, 77
テープカット	31
テープの端(配置)	57
テープ幅確認	32
テキスト	
～以外のデータ	71
～属性	71
～ブロック	29
～ボックス(→ブロック)	29
デザインの選択	26
デザインフォーム	26
テープ[PRO]本体から読み取る	21
点字	
～属性	71, 74
～直接入力	37
～テープ	21
～の入力	35
～配置	40
～編集	35
～メニュー	40, 135
～ユーザー辞書	39
～を入力する	74
転送ソフト(SDD6)	9, 106
転送ボタン(SDD6)	106, 112, 144
テンプレート	102

点訳

自動～	35, 75
～ボタン	35, 75
～列	74
登録(外字)	126
特長	
PCラベルシステムの～	5
DATAメモリーシステムの～	5
取消し線(文字の設定)	46

な

流し込み	61
流し込み枠	65
名前データ	119
名前を付けて保存	34
並び(ソート)	70
二重線(文字の設定)	46
入力	
点字	35, 74
文字	29
～列	74
入力ボックス	62, 64, 132
塗りつぶし(图形)	49, 50, 51
ネットワーク管理者	14

は

バーコード	92
属性	71, 73
ハーフカット	31
配置	57
背面に移動(レイアウト)	56
背面に移動(点字)	41
倍率(テープ設定)	21, 77
パソコン	
～の条件	8
～の接続	18
パターン(文字の設定)	48
貼り合わせ印刷	77
貼り付け	54
貼り付けボタン(SDD6)	106, 144
反転	55
ハンドル	29, 49
左寄せ(文字の設定)	46
日付	97
描画(图形)	49
表記	4
表組み	82
～のプロパティ	83
表示形式(日付・時刻)	97
表示メニュー	134, 136, 145

標準ツールバー

..... 132, 138

開く(ファイル)

..... 25

転送ソフト

..... 108

ファイルメニュー

..... 133, 136, 145

ファイル読み込み

..... 107, 108, 144

ファイルを開く

..... 25

転送ソフト

..... 108

フォント

..... 44, 47

 ～サイズ

..... 45

 連番

..... 89

複写する

..... 53

縁取り(文字の設定)

..... 46

太さ(輪郭)

..... 47

太字(文字の設定)

..... 46

プリンタ機種

..... 32

プリンタドライバ

..... 9, 15, 141

プリンタプロパティ

..... 31, 141

プレビューエリア(SDD6)

..... 106, 144

ブロック合わせ

..... 57

ブロック内の基準位置(点字)

..... 43

ブロックを編集する

..... 53

文書を保存

..... 34

分類(デザインフォーム)

..... 26

ペースライン(文字の設定)

..... 48

ベジェ曲線(图形)

..... 49

ヘルプメニュー

..... 135, 137, 145

変形文字

..... 84

編集

 外字

..... 125, 128

 ～ツールバー

..... 132, 139

 ～メニュー

..... 133, 136, 145

保存

..... 34

 あて名

..... 121

 データ流し込み

..... 68

 名前

..... 121

本書の使いかた

..... 4

ま

右寄せ(文字の設定)

..... 46

メニューバー

..... 132, 144

目盛り

..... 132

文字

 ～サイズを変更する

..... 45

 ～ツールバー

..... 44, 46, 132, 140

 ～の色

..... 47

 ～の設定

..... 46, 47

 ～の編集

..... 44

 配置(連番)

..... 89

～メニュー	135
～を入力する	29
文字間	48
文字地紋	81

や

矢印	51
ユーザー辞書(点字)	39
優先順位(ソート)	70
ユーティリティ(プリンタドライバ)	143
郵便番号	95
用紙(プリンタドライバ)	141
横書き(文字の設定)	46
横(テープの置き方)	22
余白	22, 24

ら

輪郭をつける(文字の設定)	47
リンク	101
レイアウト	
～ツールバー	132, 139
～編集画面	61, 132
～メニュー	134

列

～属性	62, 132
～属性を変更する	71
～タイトル	62, 132
～タイトル入力	76
～のタイトルを変更する	76
～を削除する	69
～を挿入する	69
連続印刷	91
連続直線(図形)	49
連番	89
ロック	58

わ

枠(イメージファイル)	87
-------------	----

●お問い合わせ表

お問い合わせいただく場合は、お使いのパソコン環境などをどうかがいすることができます。
あらかじめ、以下の項目をお調べの上、お問い合わせくださいますようお願いいたします。

●「テプラ」PRO本体機種	
SDL6バージョン	Ver.() ※ バージョンの確認方法は、SDL6起動後、メニュー バー[ヘルプ] — [バージョン情報]をクリック
SDD6バージョン	Ver.() ※ バージョンの確認方法は、SDD6起動後、メニュー バー[ヘルプ] — [バージョン情報]をクリック
●パソコン製品名	
●OSバージョン	Windows ()
●CPU	()
●メモリ容量	()MB
●ハードディスク容量	()GB・MB
●ハードディスク空き容量	()GB・MB
●ディスプレイの設定	
●日本語入力システム(IME)の種類	
●症状(問題がどのように発生したか、表示されたエラーメッセージ、問題の再現性など)	

●アフターサービスについて

■保証書

保証書は販売店・お買い上げ年月日等の記入をお確かめの上、販売店よりお受け取りください。保証書と裏面の保証規定の内容をよくご覧のうえ、大切に保管してください。

■修理に出されるときは

保証期間内は、保証規定に基づいて修理いたします。本体およびご使用中のACアダプタ・テープカートリッジなど一式と保証書をお買い上げ販売店、または「テプラ」取扱店までお持ちください。保証期間後も、修理によって使用可能なときは、ご要望により有償で修理いたします。商品をお買い上げ販売店、または「テプラ」取扱店までお持ちください。

■お問い合わせ

アフターサービスについてご不明な点やご相談は、お買い上げ販売店、「テプラ」取扱店または当社お客様相談室にお問い合わせください。

フリーダイヤル（全国共通）

ナットクのパートナー

お客様相談室 ☎ 0120-79-8107

携帯電話・PHSをご使用の場合は、以下をご利用ください。

お客様相談室

東京 TEL 03-3864-1234

名古屋 TEL 052-935-4038

大阪 TEL 06-6263-1654

福岡 TEL 092-413-3977

受付時間：平日（月曜日～金曜日） 午前9時～午後5時30分

■最新情報については

「テプラ」に関する最新の情報は、当社のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.kingjim.co.jp/>

■別売品のお求めでお困りのときは

取扱説明書、カートリッジなど別売品のご購入に際し、どこで、どの様にして購入したら良いかお困りのときは、お買い上げ販売店、「テプラ」取扱店、または下記へお問い合わせください。

株式会社キングジム 〒101-0031 東京都千代田区東神田2丁目10番18号

札幌営業所 TEL 011-811-0593 名古屋営業所 TEL 052-935-4038

仙台営業所 TEL 022-236-4110 大阪営業所 TEL 06-6263-1654

さいたま営業所 TEL 048-651-0198 広島営業所 TEL 082-291-8458

本社 TEL 03-3864-1234 福岡営業所 TEL 092-413-3977

横浜営業所 TEL 045-212-3280

株式会社キングビジネスサポート

TEL 03-3864-5646

FAX 03-3864-5647

「テプラ」PRO PCラベルソフトSDL6A取扱説明書

(対象機種: SR6700D)

2005年 2月 第1版

株式会社キングジム

〒101-0031 東京都千代田区東神田2丁目10番18号

PCラベルソフト SDL6A

取扱説明書

本機で作成できる「点字ラベル」については、下記団体様よりご推奨いただいております。

- ・社会福祉法人 日本点字図書館
<http://www.nittento.or.jp/>
- ・社会福祉法人 日本ライトハウス
<http://www.lighthouse.or.jp/>
- ・社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
<http://www.siencenter.or.jp/>

※本機の自動点訳機能は、点訳規則に沿っておこないますが、場合によっては語句の切れ目の誤りや、誤変換などがあります。公共の表示や、法律・条例などに基づいた表示に使用する際は、弊社にお問い合わせいただくなされ、上記専門施設などの点訳監修をお受けください。



・お問い合わせ

フリーダイヤル（全国共通）
お客様相談室 ☎ 0120-79-8107

受付時間：平日（月曜日～金曜日）午前9時～午後5時30分

ホームページアドレス <http://www.kingjim.co.jp/>

©2005 Printed in China PAT.P.02-①